

創部80年記念誌・記録篇

創部80年誌編集委員会

(註、年度標記は、大正13年以降概ね4月から翌年3月までを区切りとして記した。

大学の名称は、旧制時代において東大と称せられることもあったが、混乱を避けるため、旧制時代はほぼ東京帝大または帝大の呼称を用いた。)

(日本における蹴球濫觴の時代)

英国で生まれた アソシエーション・フットボールが、日本に伝えられたのは、1873(明治6)年、築地の海軍兵学寮に招聘された英国海軍のダグラス少佐他の将兵によってである、とされている。翌1874(明治7)年、工学寮で英国人ジョーンズ講師が学生に教え、1879(明治12)年には、文部省体操伝習所(後の東京高等師範学校)でリーランドや坪井玄道によって授業にとりいれられた。その後、これらを根として、師範系学校からの伝播や、外国人の指導などによって、徐々に枝葉を広げていった。

1917(大正6)年に芝浦で行われた極東大会に、日本代表としてはじめて参加した東京高等師範が、対中華、フィリピンに0-8、2-15と大敗し、これが刺激となって、東京蹴球団(高師・豊師・青師出身で構成)が、翌1918(大正7)年、関東蹴球大会を主催した。後援は朝日新聞社。関西、名古屋でもこれに対抗して、同年、蹴球大会をはじめた。いずれも中等学校が主体で、番外として大学・専門学校などが参加した。

1918(大正7)年

2-10 第1回関東蹴球大会の招待模範試合に八高OBで編成の帝大チームが参加した。

対高師B(高師球場)

FW				HB		FB		GK						
(帝大蹴球団)	川	深	水	吉	勝	岡	神	大	長	成	山			
0	本	野	野	田	田	崎	田	谷	谷	瀬	崎	8	3	1
									川			GK	CK	FK
0	北	藤	中	伊	水	佐	森	稲	鈴	和	川	13	7	4
(高師B)	川	井	川	藤	上	藤	本	垣	木	田	合			

“闘魂”(3号)で新田純興さんは この試合を帝大チームの初めての試合としておられる。当時、八高は、海兵から転勤したイギリス人教師の指導を受け、すでに一定のレベルのサッカーをやっており、その出身者だけで帝大内にチームを作れたという。これを一つの根拠として蹴球部の創設の時としている。(この頃のメンバーの方々は、現在の蹴球部の名簿には載っていない。いわば東京大学A式蹴球部の、神代の時代といふべきところか。)

1919(大正8)年

この年は、特に記録が見当たらない。

1920（大正9）年

2・11 第3回関東蹴球大会（番外試合）—東京蹴球団主催・朝日新聞社後援

帝大 3 — 0 アストラクラブ

“闘魂”（3号）には大正7年の前記の試合以後、一高、三高その他の出身者を加えて名実ともに帝大統合のチームにした、その最初の試合としてこの試合を掲げておられる。

1921（大正10）年

2・11 第4回関東蹴球大会最終日（番外戦）

帝大 0 — 2 高師

5月 第5回極東選手権大会に日本代表がはじめて海外遠征を行った。日本代表は全関東軍で、各師範学校選手を主とした集合チーム、HBに野津 謙氏が参加している。



（第5回極東大会 日本代表チーム — 前列右端、野津 謙氏）

9・10 日本蹴球協会が創立された。これは、大正8年に、英国フットボール協会（The Football Association）から優勝銀牌を贈られたことに基づいて進められた。大正7年の、東京・大阪・名古屋の三地区で行った蹴球大会が、英国へは、日本の協会が、全日本大会を行ったと誤って伝えられ、その祝意として贈られたという。

これを受けて、曲折を経て、この日、大日本蹴球協会（The Football Association of Japan）が設立となった。（会長・今村次吉氏）

12月 高師、帝大、商大、早高の4校で、大学・専門学校リーグを結成する事となった。

1922（大正11）年

1月より、大学・専門学校リーグ

1・20 帝大は棄権負け 高師勝ち

2・5 帝大 3 — 0 早高

2・12 帝大 7 — 2 商大

この結果、大学・専門学校リーグで2位（高師、帝大、早高、商大の順）となる。

10・31 関東北蹴球予選大会

帝大 3 — 0 早高

11・4 関東北予選準決勝、

帝大 0 — 2 成城中

1923（大正12）年

1月 全国高等学校蹴球大会を開催。野津謙さんなどが、かねてより帝大を如何に強くするか腐心され、高等学校蹴球大会の開催を企画、前年末頃からその実現に奔走、当初、官立だけの計画のところ、早高の加入申し入れに際して、日本蹴球の強化の為と、新田純興さんなどと諮って 八校参加で始められた。

この年は、リーグ戦は行われなかった。

2・1 都下専門学校蹴球連盟を結成する。（東京カレッジと呼ぶ、1部6校、2部6校）

1924（大正13）年度

10・12 明治神宮競技ア式蹴球関東予選第二日

帝大 3 — 2 埼玉蹴

10・17 明治神宮競技ア式蹴球関東予選二回戦

帝大 1 — 0 高師

10・19 明治神宮競技ア式蹴球関東予選

三回戦 帝大 7 — 0 栃師（高師校庭）

準決勝 対全豊島（高師校庭）

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	塩	中	岸	正	井	山	杉	鈴	潮	野	村			
0 (0, 0)	原	島	本	木	染	本	野	木		津	上	22	0	2
												GK	CK	FK
1 (、)	渡	馬	荒	勝	田	江	澤	池	守	佐	山	7	4	3
(全豊島)	邊	場	井	又	中	尻	池	谷	田	野	田			

1・? リーグ結成記念試合に岸本氏兄弟（英夫、武夫）、山崎幸一郎氏が出場している。

<リーグ戦>

1・18 対高師（高師G）

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	塩	中	鈴	岸	中	林	杉	小	山	朝	村			
2 (1, 1)	原	島	木	本	村		野	村	本	生	上	22	2	2
												GK	CK	FK
4 (1, 3)	岩	太	四	飯	吉	竹	畠	北	中	野	井	13	6	1
(高師)	野	田	宮	山	田	内	山	村	川	沢	戸			

不詳 帝大 4 — 2 法政

不詳 帝大 棄権 農大

1-25 対慶應 (高師G)

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	塩	中	鈴	岸	中	林	杉	小	山	朝	村		
1 (0、1)	原	島	木	本	村		野	村	本	生	上	26	12 0
												GK	CK FK
1 (0、1)	浜	桜	範	小	小	島	小	鈴	山	五	斎	35	3 3
(慶應)	野	井	多	西	川	田	池	木	田	唐	藤		

1-31 対早大 (高師G)

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	塩	中	岸	正	中	鈴	山	小	林	杉	村		
4 (3、1)	原	島	本	木	村	木	本	村		野	上	8	5 4
												GK	CK FK
2 (1、1)	朝	央	尹	玉	高	山	鈴	有	杉	芝	平	16	5 2
(早大)	倉	戸		井	畠	口	木	馬	村	本	岩		

大正 14 年 1 月 31 日の対早大戦は、雪中の熱戦となった。

(この写真は、東大の試合記録として、最古のものかも知れない。)



以上の結果、この年、帝大は リーグ戦第 2 位となった。

1925 (大正14) 年度

4-12 京都遠征 対京大 (京大G) 戦で、夜行で西下、正式な運動部未然の京大に敗れる。

	FW					HB		FB		GK			
(東帝大)	塩	潮	岸	中	中	木	杉	鈴	山	朝	村		
1 (1、0)	原		本	村	島	村	野	木	本	生	上		
												GK	CK FK
2 (0、2)	石	香	河	西	高	末	杉	入	内	水	山		
(京帝大)	黒	川	野	郡	松	久	原	江	海	谷	田		

5・ 第7回極東選手権大会（マニラ）の日本代表に竹腰重丸氏が参加した。

11・2 全日本 本大会で帝大準優勝（決勝で鯉城クに0-3敗）

<大学リーグ>

10・23 対高師（高師G）

	FW					HB		FB	GK			
(帝大)	中	野	中	竹	川	坂	杉	山	小	内	村	
0 (0, 0)	村	沢	島	腰	中	本	野	本	畠	田	上	6 3 6
												GK CK FK
1 (1, 0)	本	山	竹	藤	太	塩	畠	中	野	岩	井	15 1 1
(高師)	間	本	内	田	田	沢	山	川	沢	野	戸	

11・7 対慶應（板橋G）

帝大 2 — 0 慶應 内容不詳

11・15 対法政（法政G）

	FW					HB		FB	GK			
(帝大)	川	竹	中	野	岡	山	杉	坂	内	小	村	
3 (1, 2)	中	腰	島	島	本	本	野	本	田	畠	上	5 7 4
												GK CK FK
0 (0, 0)	植	渡	伊	山	沢	橋	小	川	東	田	平	22 3 3
(法政)	田	部	藤	田	田	本	中	村	山	中	塚	

11・21 対早大（一高G）

	FW					HB		FB	GK			
(帝大)	川	竹	中	野	中	山	杉	坂	内	小	村	
3 (3, 0)	中	腰	島	島	村	本	野	本	田	畠	上	11 5 3
												GK CK FK
0 (0, 0)	朝	横	鈴	玉	高	穴	鈴	横	芝	本	平	25 6 4
(早大)	倉	村	木	井	畠	戸	木	尾	本	山	岩	

1・16 対一高（一高G）

	FW					HB		FB	GK			
(帝大)	岸	竹	中	野	中	鈴	杉	坂	内	山	中	
1 (0, 1)	本	腰	島	島	村	木	野	本	田	本	野	9 3 0
												GK CK FK
1 (1, 0)	小	田	山	追	米	松	越	渡	八	鮫	奥	2 4 2
(一高)	堀	中	路	川	元	浦	智	辺	田	島	野	

以上の結果、加チリーグ1部2位（高師、帝大、早大、法大、一高、慶大の順）となる。

10-18 対京大(高師G)戦。 正式な京大戦の初記録。

	FW					HB		FB		GK			
(東帝大)	中	竹	野	中	?	坂	杉	鈴	山	小	村		
1 (1、0)	村	腰	島	島		本	野	木	本	畠	上		
												GK	CK FK
1 (1、0)	黄	香	河	西	金	末	杉	入	内	水	佐		
(京帝大)	川	野	郡			久	原	江	海	谷	藤		

1926 (大正15) 年度

10-9 神宮大会関東予選、帝大RAは3回戦でWMWに0-3敗

? 対京大戦不調に。この年、定期戦を行うべく、東大は京都に乗り込んだが、京大側とルール面で不同意(東大は新規則90分、京大は関西の70分を主張)で試合不成立。両校の部長は末広重雄(兄、京大)、恭雄(弟、東大)のご兄弟だったが、学生譲らず。

<大学リーグ>

10-24 対法政(法政G)

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	安	中	竹	鈴	野	鈴	杉	萩	岸	武	近		
1 (1、2)	藤	島	腰	木	島	木	野	原	山	安	藤	8	3 0
				駿		喜						GK	CK FK
0 (0、0)	松	伊	斎	山	吉	鈴	小	杉	渡	田	手	18	3 0
(法政)	岡	藤	藤	田	田	木	中	浦	部	中	塚		

11-14 対農大(高師G)

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	安	中	竹	鈴	伊	乗	杉	鈴	岸	朝	近		
5 (1、4)	藤	島	腰	木	藤	富	野	木	山	生	藤	12	9 1
												GK	CK FK
0 (0、0)	小	山	広	李	和	横	大	森	中	進	浜	31	1 8
(農大)	林	崎	田		田	溝	友	田	山	藤	名		

11-21 対高師(一高G)

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	安	中	竹	鈴	伊	乗	杉	萩	岸	朝	近		
3 (1、2)	藤	島	腰	木	藤	富	野	原	山	生	藤	23	4 2
												GK	CK FK
1 (0、1)	北	岩	時	藤	本	中	畠	塩	堀	野	斎	27	6 1
(高師)	山	野	田	田	間	川	山	沢		沢	藤		

12・5 対早大（一高G）

	FW	HB	FB	GK			
(帝大)	安 中 竹 鈴 伊 武 杉 萩 朝 岸 近						
1 (1、0)	藤 島 腰 木 藤 安 野 原 生 山 藤				12	5	1
					GK	CK	FK
0 (0、0)	朝 横 尹 玉 高 梶 有 杉 山 高 本				12	1	4
(早大)	倉 村 井 橋 田 馬 村 田 師 田						



大正15年の帝大チーム 青 伊 岸 山 朝 近 小 杉 ?
 (後列) 山 藤 山 本 生 藤 島 野
 鈴 川 ? 竹 中 野 鈴
 (前列) 木 中 腰 島 島 木
 喜 駿

12・15 対一高（一高G）

	FW	HB	FB	GK			
(帝大)	安 中 竹 鈴 伊 乘 鈴 萩 岸 渡 近						
1 (0、1)	本 腰 島 島 村 木 野 本 田 本 野				9	3	0
					GK	CK	FK
1 (1、0)	小 田 山 追 米 松 越 渡 八 鮫 奥				2	4	2
(一高)	堀 中 路 川 元 浦 智 辺 田 島 野						

以上でガゼリーグ 1部1位（帝大、法大、早大、高師、一高、農大の順）となる。

1927（昭和2）年度

6・25 極東大会関東予選、帝大は準決勝で早大 WMW に1—2敗

7月 第8回極東選手権（上海）の代表はWMWを主体にして、帝大の竹腰重丸主将、水戸高主将の春山泰雄氏と近藤台五郎氏、法政キーパー西川氏を加えたチームであった。中華、比島、日本の三国のリーグで、中華民国が選手権をとったが、日本はこの年初めて比島を2—1で破った。

? 全日本東京地区予選3回戦、帝大は東高に1—3敗

<加チリーグ>

11・6 対法政（帝大G）

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	鈴	竹	中	野	細	大	青	萩	岸	林	奥		
4 (2、2)	木	腰	島	島	井	町	山	原	山		野	11	4 0
												GK	CK FK
1 (0、1)	木	斎	吉	塚	吉	橋	田	小	呉	伊	西	29	1 2
(法政)	村	藤	井	本	田	本	中	中		藤	川		

11・12 対慶應（帝大G）

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	鈴	竹	中	野	細	大	青	萩	岸	林	奥		
7 (5、2)	木	腰	島	島	井	町	山	原	山		野	15	6 7
												GK	CK FK
0 (0、0)	豊	松	渡	結	市	長	浜	鈴	山	白	島	31	2 6
(慶應)	田	丸	辺	城	橋	坂	田	木	上	土	田		

11・19 対早大（東高G）

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	鈴	竹	中	野	細	大	青	萩	岸	林	奥		
2 (2、0)	木	腰	島	島	井	町	山	原	山		野	25	5 0
												GK	CK FK
0 (0、0)	朝	横	浅	玉	高	本	高	杉	井	白	伊	16	6 1
(早大)	倉	村	井	井	橋	田	師	村	出	岡	藤		

11・27 対高師（一高G）

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	鈴	竹	中	野	細	大	青	萩	岸	林	奥		
2 (1、1)	木	腰	島	島	井	町	山	原	山		野	14	10 5
												GK	CK FK
1 (1、0)	平	藤	時	北	後	太	塩	徳	堀	畠	山	42	2 2
(高師)	林	田	田	山	藤	田	沢	田		山	本		

12・6 対一高（一高G）

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	鈴	竹	中	野	細	大	青	萩	岸	林	近		
3 (2、1)	木	腰	島	島	井	町	山	原	山		藤	27	7 2
												GK	CK FK
1 (1、0)	小	中	鈴	大	船	藤	越	手	吉	鮫	宮	41	3 3
(一高)	堀	村	木	築	橋	野	智	東	瀬	島	川		

以上で、加チリーグ 1部1位（帝大、農大、早大、一高、高師、法大の順）、2連覇。

1・22 上海・交通大学チーム歓迎試合（朝日新聞後援）

（神宮G）

	FW					HB		FB		GK			
（帝大）	鈴	竹	中	野	細	大	青	萩	岸	林	奥		
1（1、0）	木	腰	島	島	井	町	山	原	山		野	13	12 1
												GK	CK FK
2（2、0）	施	沈	戴	陳	廬	陳	楊	張	吳	蕭	周	15	3 3
（交通大）	鴻	葆	隣	虞	濟		棍	瑞	佐	濟	賢		
	照	昌	經	添	滄	埼	華	鑿	新	川	言		

（帝大 善戦して交通大に敗る）



1928（昭和3）年度

<カチリーグ>

10・26 対明大（東高G）—— 直後の外征を控えているが、元気にリーグ緒戦を飾った。

	FW					HB		FB		GK			
（帝大）	鈴	若	篠	高	春	大	竹	斎	岸	船	近		
11（4、7）	木	林	島	山	山	町	腰	藤	山	岡	藤	13	10 3
												GK	CK FK
0（0、0）	福	丸	李	高	松	小	奥	楨	森	伊	原	23	3 3
（明大）	岡	山		井	本	林	谷		島	藤	田		

10・28～11・12 前年関東リーグ2連覇を果たした帝大は、大学初の上海への遠征に出かけた。

（9月初中旬に名古屋・八高球場で合宿、有力新人を加えたチームの新しい攻守を研究し、9月17日、横浜外人チームを11―1、カチリーグの緒戦で明大を11―0と破って遠征への勢を付け、勇躍、上海への壮途についた。前年来日して帝大に2―1で勝った上海交通大学に復仇の一戦を申し込んだが、済南事件の決着を見ないと理由で交渉は成立しなかった。前年極東大会に参加した竹腰、春山、近藤諸氏によって、上海の事情には通じていたが、戦績は、

帝大 0—5 英陸軍、対英海軍？、帝大 3-5 上海蹴球クであった。）

11・17 対慶應（東高G）

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	鈴	若	篠	高	春	大	竹	斎	小	船	近		
5 (1、4)	木	林	島	山	山	町	腰	藤	川	岡	藤	11	13 0
												GK	CK FK
2 (0、2)	結	松	豊	大	市	長	浜	岩	角	山	島	36	4 0
(慶應)	城	丸	田	塚	橋	坂	田	崎	谷	上	田		

11・24 対高師（一高G）

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	鈴	若	篠	高	春	大	竹	斎	小	船	近		
5 (2、3)	木	林	島	山	山	町	腰	藤	川	岡	藤	9	8 1
												GK	CK FK
0 (0、0)	後	藤	井	森	河	小	時	楊	堀	徳	塩	43	3 2
(高師)	藤	田	上	田	本	笠	田			田	沢		
						原							

12・4 対一高（一高G）

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	鈴	若	篠	高	中	新	竹	斎	岸	船	近		
9 (7、2)	木	林	島	山	島	莊	腰	藤	山	岡	藤	14	10 0
												GK	CK FK
1 (0、1)	中	永	越	大	船	藤	鈴	手	高	近	前	30	3 1
(一高)	村	地	智	築	橋	野	崎	塚	田	角	川		

12・9 対早大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK			
(帝大)	鈴	若	篠	高	春	新	竹	斎	岸	船	近		
3 (3、0)	木	林	島	山	山	莊	腰	藤	山	岡	藤	25	6 4
												GK	CK FK
1 (0、1)	松	横	滝	浅	高	高	杉	本	井	白	伊	13	7 3
(早大)	葉	村		井	橋	師	村	田	出		藤		

以上の結果、1部1位（帝大、慶大、早大、明大、高師、一高の順）、3連覇。

1929（昭和4）年度

9・26～ 全日本関東予選二部準決勝、帝大OBは法大に4—4で抽選敗。

9・26～ 全日本関東予選一部一回戦、帝大LBはWMWに0—4で敗退。

<加チリーグ>

10-19 対文理大 (帝大G)

	FW					HB			FB		GK			
(帝大)	春	若	手	篠	高	大	竹	野	岸	船	奥			
7 (4、3)	山	林	島	島	山	町	内	沢	山	岡	野	9	8	3
												GK	CK	FK
0 (0、0)	後	前	徳	井	河	山	時	森	小	田	宮	36	4	1
(文理大)	藤	原	田	上	本	村	田	田	笠	中	林			
									原					

11-5 対農大 (成城G)

	FW					HB			FB		GK			
(帝大)	春	若	手	高	篠	大	竹	野	岸	船	阿			
7 (1、6)	山	林	島	山	島	町	内	沢	山	岡	部	5	12	4
												GK	CK	FK
0 (0、0)	工	鈴	本	石	鈴	林	森	別	横	磯	藤	22	2	2
(文理大)	藤	木	多	井	木		田	府	溝	谷	田			

11-15 対慶應大 (神宮G)

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	春	若	手	篠	高	大	竹	野	岸	船	奥			
3 (1、2)	山	林	島	島	山	町	内	沢	山	岡	野	15	11	3
												GK	CK	FK
2 (1、1)	結	松	藤	豊	市	大	大	角	岩	山	島	30	1	6
(慶應)	城	丸	岡	田	橋	崎	前	谷	崎	上	田			

11-25 対明大 (神宮G)

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	春	若	手	篠	高	大	竹	野	岸	船	阿			
7 (5、2)	山	林	島	島	山	町	内	沢	山	岡	部	5	13	8
												GK	CK	FK
1 (0、1)	丸	李	永	漆	川	磯	奥	伊	森	関	原	26	1	3
(明大)	山		木	島	井		谷	藤	島	口	田			

12-15 対早大 (神宮G)

FW					HB			FB		GK				
(帝大)	春	若	手	篠	高	大	竹	野	岸	船	奥			
6 (5、1)	山	林	島	島	山	町	内	沢	山	岡	野	12	3	12
												GK	CK	FK
3 (2、1)	熊	横	工	浅	高	高	杉	宮	吉	井	本	20	2	5
(早大)	井	村	藤	井	橋	師	村	部	沢	出	田			

以上で カデリーグ 1 部 1 位（帝大、明大、早大、慶大、文大、農大の順）4 連覇。
 12・25 対関学（神宮G） 東西優勝校争覇戦は 帝大 3—2 関学 で勝ち 全国制覇す。



（ 帝大 対 関学の 東西優勝校争覇戦 ）

	FW				HB		FB		GK				
（帝大）	春	若	手	篠	高	大	竹	野	岸	船	阿		
3 (2、1)	山	林	島	島	山	町	内	沢	山	岡	部	16	8 2 1
												GK	CK FK PK
2 (2、0)	島	東	檀	堺	岩	守	後	石	高	安	斎	28	4 2 0
（関学）	浦	野	井	田	屋	藤	井	橋	部	藤			

2・9 東西選抜OB対抗戦に野島福太郎、竹腰重丸、朝生要人各氏が出場している。

1930（昭和5）年度

< 極東大会（神宮） >

日本代表に、竹腰重丸、竹内悌三、篠島秀雄、高山忠雄、手嶋志郎、野沢正雄、若林竹雄、春山泰雄、阿部鵬二の各氏が参加。（下は日本チームの雄姿）



5・25 日本 7 (5,2) — 2 (2,0) 比島

5・29 日本 3 (1,2) — 3 (1,2) 中華民国

以上の結果、日本と中華で優勝を分けることになった。

<カデリーグ>

11・5 対文理大 (神宮G)

	FW					HB			FB		GK				
(帝大)	手	若	内	篠	三	斎	竹	野	山	船	阿				
3 (1、2)	嶋	林	藤	島	宅	藤	内	沢	田	岡	部	11	12	5	0
												GK	CK	FK	PK
1 (1、0)	槇	小	井	前	河	奥	徳	森	畠	田	山	29	1	5	0
(文理大)	原	笠	上	原	本	野	田	田	山	中	村				
		原													

11・14 対慶應 (神宮G)

	FW					HB			FB		GK				
(帝大)	出	若	手	篠	三	斎	竹	野	近	船	阿				
3 (1、2)	浦	林	嶋	島	宅	藤	内	沢	藤	岡	部	11	11	3	0
												GK	CK	FK	PK
1 (1、0)	結	松	長	市	豊	大	大	角	岩	山	島	24	4	3	0
(慶應)	城	丸	坂	橋	田	前	崎	谷	波	上	田				

帝大対
慶應の攻防



11・30 対早大（神宮G）

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	出	高	手	篠	三	斎	竹	野	林	船	阿		
3 (1、2)	浦	山	嶋	島	宅	藤	内	沢		岡	部	36	3
												GK	CK
2 (0、2)	真	浅	本	高	阿	花	杉	宮	吉	井	熊	13	3
(早大)	山	井	田	師	部	井	村	部	沢	出	井		2
													0
													FK
													PK

12・7 対一高（一高G）

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	鈴	内	篠	高	三	斎	野	林	竹	船	阿		
7 (4、3)	木	藤	島	島	宅	藤	沢		内	岡	部	7	11
												GK	CK
0 (0、0)	中	小	河	越	永	沖	佐	大	山	近	川	26	3
(一高)	村	川	本	智	地		分	内	口	角	島		0
													0
													FK
													PK

12・14 対早大（神宮G） 同率一位につき、優勝戦を行って制覇。

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	鈴	内	手	篠	三	斎	野	林	竹	船	阿		
1 (1、0)	木	藤	嶋	島	宅	藤	沢		内	岡	部	24	3
												GK	CK
0 (0、0)	真	浅	本	高	阿	花	杉	宮	吉	井	熊	15	8
(早大)	山	井	田	師	部	井	村	部	澤	出	井		3
													0
													FK
													PK

帝大勢、
早稲田陣に
迫る

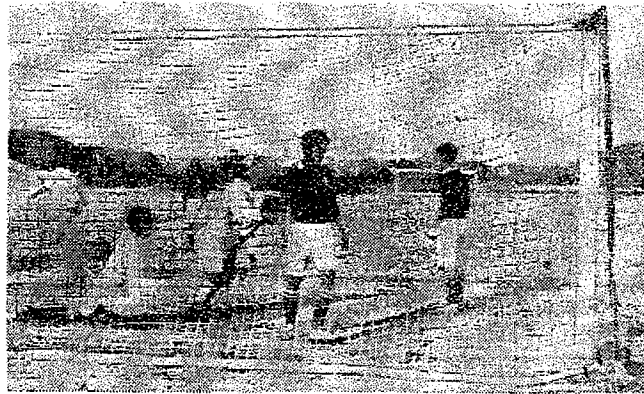


12・28 東西学生リーグ優勝校争覇戦 東京帝大は京都帝大に2—1で勝ち、全国優勝す。

	FW				HB		FB	GK				
(東大)	鈴	内	手	篠	三	斎	野	林	竹	船	阿	
2 (2、0)	木	藤	嶋	島	宅	藤	沢		内	岡	部	8 4 3 0
												GK CK FK PK
1 (1、0)	松	一	水	沢	加	山	西	有	小	武	竹	19 2 2 0
(京大)	江	藤	野	野	茂	本	村	賀	幡	村	内	

下

(東西両帝大の決勝戦 — 甲子園南運動場にて)



1931 (昭和6) 年度

<カデリーグ>

10・16 対明大 (神宮G)

	FW				HB		FB	GK				
(帝大)	中	藤	手	和	赤	生	野	林	大	竹	阿	
9 (4、5)	村	岡	嶋	田	松	嶋	沢		石	内	部	20 5 2 0
												GK CK FK PK
1 (1、0)	松	丸	木	川	赤	宇	奥	速	三	尾	吉	41 5 0 0
(明大)	本	山	内	井	木	田	谷	見	島	口	田	

10・22 対農大 (神宮G)

	FW				HB		FB	GK				
(帝大)	中	藤	手	和	高	生	野	林	竹	田	阿	
2 (1、1)	村	岡	嶋	田	山	島	沢		内	村	部	26 8 6 0
												GK CK FK PK
1 (0、1)	上	辛	本	石	福	斎	林	杉	友	磯	藤	19 4 2 0
(農大)	田	島	多	井	岡	藤		浦	納	谷	田	

<全日本選手権 兼 神宮大会 兼 全国地方対抗選手権>

10・31 帝大LBが全国優勝を果たした。

当時の帝大LBは、蹴球部でない、言わば同好会的性格のチームであったが、インタ

一ハイの経験者の有力選手も居り、強いチームであった。

関東予選では、1回戦で帝大OBが東蹴に敗れているが、その決勝で帝大LBが東蹴を5-3で破り、全国大会では、帝大LBが関学、二高俱を倒し、決勝で興文中（中国地方）を5-1と破って優勝した。

この頃のLBについては、“闘魂”第1号の乗富丈夫さんの記事(小林邦彦氏文)他に詳しいが、正統的な蹴球部と自由奔放にやりたいグループ（大正13年ころ出来て「十三（とさん）会・チーム名は東大アズサ」といい、この流れで東大LBチームが出来た。）があって、蹴球部と選手の交流もあったということで、今日から見ても興味深い。このチームの中で、LB会名簿に載っている人は少ない。



決勝戦 帝大LB 対 興文中（神宮G）

	FW				HB		FB	GK			
(帝大LB)	赤	越	日	三	出	山	木	鹿	市	山	塩
5	松	智	高	宅	浦	田	村	子	川	川	原
1	山	車	金	畑	白	大	原	森	田	上	金
(興文中)	下	田	澤		川	村		川	村	東	岡

<カデリーグ 続き>

11・8 対一高（石神井G）

	FW				HB		FB	GK				
(帝大)	中	藤	手	内	高	木	野	林	竹	田	阿	
8 (4, 4)	村	岡	嶋	藤	山	村	沢		内	村	部	12 7 1 0
												GK CK FK PK
0 (0, 0)	小	沖	稲	小	北	今	大	上	山	佐	川	26 1 4 0
(一高)	川		川	野		井	内	田	口	分	島	
				田							利	

11・29 対慶應（神宮G）

		FW			HB		FB		GK				
(帝大)	中	内	手	和	高	木	野	林	竹	田	阿		
4 (1、3)	村	藤	嶋	田	山	村	沢		内	村	部	13	8
												GK	CK
1 (1、0)	吉	長	市	津	右	松	大	岩	藤	塚	額	31	11
(慶應)	本	谷	橋	村	近	丸	崎	波	岡	越	額	3	0
			川										

12・5 対早大（神宮G）

		FW			HB		FB		GK				
(帝大)	中	内	手	和	高	木	野	林	竹	田	阿		
3 (1、2)	村	藤	嶋	田	山	村	沢		内	村	部	15	8
												GK	CK
1 (0、1)	真	川	浅	長	阿	鈴	宮	中	吉	井	熊	21	6
(早大)	山	本	井	谷	部	木	部	村	沢	出	井	1	0
			川										

以上の結果、1部1位（帝大、慶大、早大、一高、農大、明大の順）で六連覇成る。

12・13 対関学（神宮G） 東西学生リーグ優勝校争覇戦、両校優勝を分ける。

		FW			HB		FB		GK				
(帝大)	中	内	手	和	高	木	野	林	竹	田	阿		
2 (1、1)	村	藤	嶋	田	山	村	澤		内	村	部	17	1
												GK	CK
2 (0、2)	島	西	東	堺	赤	川	三	石	安	伊	丹	19	6
(関学)		邑	浦	井	田	西	崎	井	部	藤	羽	2	0

2・7 第一回東西選抜対抗戦に鈴木駿一郎、内藤健三、高山忠雄、竹腰重丸、野澤正雄、竹内悌三の各氏が出場。

		FW			HB		FB		GK				
(全関東)	鈴	藤	市	内	高	柳	竹	野	竹	井	藤		
3 (1、2)	木	岡	橋	藤	山	田	腰	澤	内	出	井	15	8
												GK	CK
6 (4、2)	島	西	永	堺	大	三	後	西	小	安	丹	16	5
(全関西)		邑	野	井	谷	崎	藤	村	幡	部	羽	0	1

3・6 東西対抗OB戦、（甲子園南G）に、鈴木駿一郎、稲田龍三郎、竹腰重丸、船岡鉄司、奥野熙の各氏が参加している。

	FW				HB				FB		GK				
(関東)	鈴	横	岸	塩	鈴	稲	竹	浜	小	船	奥				
1 (0、1)	木	村	山	澤	木	田	腰	田	池	岡	野	26	3	4	0
												GK	CK	FK	PK
4 (1、3)	結	琴	檀	清	玉	大	西	杉	後	米	渡	10	2	4	0
(関西)	城	井	野	家	井	前	村	村	藤	澤	辺				
		谷													

1932 (昭和7) 年度

<カデリーグ>

10・1 対一高 (神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	菊	内	日	和	小	木	高	林	市	田	大		
4 (0, 4)	池	藤	高	田	川	村	山		川	村	村	6	14
												GK	CK
3 (1, 2)	橘	沖	稲	小	秋	星	大	上	山	森	喜	23	0
(一高)			川	野	山	川	内	田	本		谷	0	0
				田									

10・8 対文理大 (神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	菊	太	日	和	小	木	高	江	市	田	阿		
5 (3, 2)	池	田	高	田	川	村	山	崎	川	村	部	20	4
												GK	CK
3 (2, 1)	槇	篠	竹	藤	江	木	奥	張	小	原	栗	29	13
(文理大)	原	永	内	野	崎	下	野		笠	崎	野	2	0
									原				

10・22 対農大 (神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	菊	太	日	和	小	木	高	山	八	田	阿		
2 (1, 1)	池	田	高	田	川	村	山	田	巻	村	部	29	6
												GK	CK
1 (1, 0)	上	梁	金	富	鈴	大	石	杉	友	塚	藤	25	10
(農大)	田	瀬		樫	木	前	井	浦	納	原	田	0	0

11・19 対早大 (神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	菊	太	日	和	横	木	高	江	市	田	大		
0 (0, 0)	池	田	高	田	田	村	山	崎	川	村	村	22	8
												GK	CK
5 (4, 1)	名	川	平	野	長	堀	井	立	吉	鈴	熊	18	3
(早大)	取	本	松	澤	谷	江	出	原	澤	木	井	3	0
					川								

11・27 対慶應（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	菊	内	宮	和	小	木	横	江	市	田	大				
0 (0、0)	池	藤	内	田	川	村	田	崎	川	村	村	23	8	4	0
												GK	CK	FK	PK
5 (3、2)	市	藤	津	塚	駒	岩	大	右	岩	塚	額	18	13	3	0
(慶應)	橋	岡	村	部	崎	波	崎	近	崎	越	額				



（慶・帝戦 帝大横田のヘディング）

以上の結果、帝大は1部3位（慶大、早大、帝大、文大、農大、一高の順）となる。

2・12 東西対抗選抜試合(神宮G)に菊地健一氏が出場した。

		FW					HB		FB		GK				
(関東)	菊	川	津	塚	駒	岩	右	立	友	井	額				
3 (3、0)	池	本	村	部	崎	波	近	原	納	出	額	11	4	1	0
												GK	CK	FK	PK
2 (0、2)	島	西	永	中	大	川	山	三	日	安	金	12	9	3	1
(関西)		村	野	野	谷	西	本	崎	下	部	澤				

2・12 東西OB選抜試合（神宮G）に鈴木駿一郎、竹腰重丸、手嶋志郎、稲田龍三郎、生島克明、竹内悌三、船岡鉄司の各氏が出場した。

	FW					HB		FB		GK					
(関東OB)	鈴	竹	手	暈	稲	生	松	浜	竹	船	島				
3 (1、2)	木	腰	嶋		田	島	丸	田	内	岡	田	14	5	5	0
												GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)	琴	大	檀	澤	浅	杉	後	西	門	武	斎	23	5	1	0
(関西OB)	井	橋	野	野	井	村	藤	村	脇	村	藤				
	谷														

1933 (昭和8) 年度

9・30 全日本関東予選準決勝

帝大LB 2 — 7 慶應 と敗る。

<カチリゲ>

10・8 対農大 (神宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	徳	菊	川	宮	和	木	高	江	原	萩	宮				
3 (2、1)	田	池	原	内	田	村	山	崎	田	原	澤	14	6	5	0
												GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)	上	梁	群	見	清	江	石	辛	杉	塚	川	33	3	4	0
(農大)	田	瀬	山	目	水	波	井	島	浦	原	本				

10・16 対文理 (石神井G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	徳	菊	佐	川	和	木	高	江	原	萩	宮				
9 (1、8)	田	池	藤	原	田	村	山	崎	田	原	澤	5	12	9	0
												GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)	榎	木	松	藤	江	木	奥	阿	原	小	杉	25	1	1	0
(文理)	原	村	永	野	崎	下	野	部	崎	笠	森				
										原					

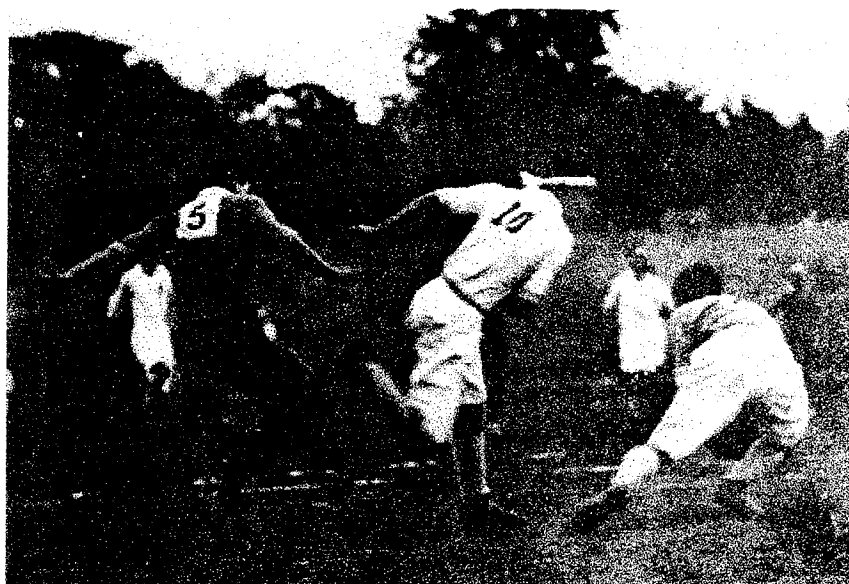
10・29 対成城 (石神井G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	徳	菊	佐	川	和	木	高	江	原	萩	宮				
7 (4、3)	田	池	藤	原	田	村	山	崎	田	原	澤	7	15	3	0
											GK	CK	FK	PK	
0 (0, 0)	松	安	中	高	大	高	奥	井	日	禹	高	27	6	17	0
(成城)	本	藤	江	橋	塚	崎	田	上	高	橋					

11・10 対慶應 (神宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	徳	菊	佐	川	和	木	高	江	原	萩	大				
3 (2、1)	田	池	藤	原	田	村	山	崎	田	原	村	17	7	7	0
												GK	CK	FK	PK
4 (0、4)	藤	播	津	塚	駒	岩	大	右	岩	塚	瀬	3	5	8	0
(慶應)	岡	磨	村	部	崎	波	崎	近	崎	越	瀬				

11・10
帝大対
慶應の熱戦



11・18 対早大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	徳	菊	佐	川	和	木	高	江	原	萩	大				
0 (0、0)	田	池	藤	原	田	村	山	崎	田	原	村	21	6	7	0
												GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)	真	名	川	野	長	中	立	笹	鈴	堀	熊	11	4	1	0
(早大)	山	取	本	澤	谷	村	原	野	木	江	井				
					川										



（早大ゴール前の熱戦 帝大 高山のシュートをGKセーブ。）

以上の結果、1部3位（早大、慶大、帝大、文大、農大、成城の順）となる。

1・21 東西対抗選抜試合に徳田晃一、高山栄華氏が出場。

1・28 東西対抗選抜試合に高山栄華氏が出場。

1934 (昭和9) 年度

5・中旬 第10回極東大会(マニラ)があり、この年は、神宮大会も全日本も行われなかった。代表選手選考に高山英華氏が入っていたが、学業のため、参加されなかった。監督には竹腰重丸氏があたられた。

中華、蘭印、比島、日本の4カ国対抗で、中華が3戦三勝、他がみな1勝2敗に終わった。

<カデリーグ>

10・7 対文理大(神宮G)

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	徳	川	太	若	汐	長	萩	大	近	八	飯			
4 (3, 1)	田	原	田	林	田		原	内	石	巻	田	18	10	3 0
												GK	CK	FK PK
3 (1, 2)	篠	木	久	藤	江	大	松	阿	原	阿	長	12	8	2 0
(文理大)	永	村	下	野	崎	瀬	永	部	崎	部	島			

10・22 対農大(神宮G)

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	徳	川	太	若	汐	江	萩	大	近	八	飯			
1 (1, 0)	田	原	田	林	田	崎	原	内	石	巻	田	11	11	3 0
												GK	CK	FK PK
2 (0, 2)	天	見	群	富	中	江	杉	山	石	西	川	21	4	2 0
(農大)	野	目	山	樫	台	渡	浦	野	井	川	本			

10・29 対立教大(東高G)

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	徳	川	佐	若	太	江	萩	大	近	八	大			
1 (0, 1)	田	原	藤	林	田	崎	原	内	石	巻	村	5	13	7 0
												GK	CK	FK PK
2 (1, 1)	上	久	上	駒	朝	宮	飯	呉	塚	灰	山	21	4	1 0
(立教大)	田	保	田	崎	広	崎	島		田	田	口			
	兄	田	弟											

11・17 対早大(神宮G)

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	徳	川	太	若	汐	松	萩	江	近	八	飯			
1 (0, 1)	田	原	田	林	田	浦	原	崎	石	巻	田	17	5	2 0
												GK	CK	FK PK
6 (4, 2)	平	加	川	野	長	吉	立	笹	鈴	堀	佐	15	3	2 0
(早大)	松	茂	本	澤	谷	田	原	野	木	江	野			
						川								

11・17

帝大早大戦
後半、帝大の
猛攻を
早大GK佐野
防ぐ



11・25 対慶應（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	寺	川	太	若	汐	松	江	近	八	萩	宮				
0 (0、0)	澤	原	田	林	田	浦	崎	石	巻	原	澤	20	8	3	0
											GK	CK	FK	PK	
6 (3、3)	藤	右	増	播	駒	岩	石	辻	伊	塚	一	17	8	3	0
(慶應)	岡	近	田	磨	崎	波	川		藤	越	宮				

(慶應 播磨に
3点目を奪わる。)



以上の結果、1部4位（早大、慶大、立大、帝大、文大、農大の順）となる。

2・17 東西OB対抗に竹腰重丸、竹内悌三、阿部氏が出場。

	FW					HB		FB	GK						
(関東OB)	竹	竹	津	塚	角	濱	松	石	竹	井	阿				
2 (2、0)	内	腰	村	部	谷	田	丸	井	内	出	部	8	11	2	0
	虎								悌						
												GK	CK	FK	PK
5 (5、0)	市	西	永	堺	中	守	赤	山	後	安	丹	13	3	5	0
(関西OB)	橋	邑	野	井	野	屋	川	本	藤	部	羽				

- 2・20 東京学生蹴球連盟を改組し、大学と高専を分離することとなり、新たに関東大学蹴球連盟ができた。

1935（昭和10）年度

<全国総合選手権関東予選>

- 4・27 帝大 2—0 三田
4・? 帝大 2—3 立教 で敗れる。
5・? 帝大LBは早大に1-3と敗れる。

<神宮大会 兼 全国地方対抗 関東予選>

- 9・22 一回戦 帝大LB 2—3 文理大と敗れる。

<関東大学リーグ一部>

10・5 対立教（神宮G）

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	小	沖	高	川	潮	宮	種	森	藤	萩	川		
6 (2, 4)	川		橋	原	田	澤	田		岡	原	島	9	9
												GK	CK
0 (0, 0)	上	中	久	朝	井	宮	飯	駒	塚	灰	山	12	6
(立教)	田	村	保	広	上	崎	島	崎	田	田	口	8	0

10・19 対慶應（神宮G）

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	横	沖	高	川	潮	森	種	大	藤	萩	川		
5 (3, 2)	山		橋	原	田		田	内	岡	原	島	9	9
												GK	CK
2 (1, 1)	堀	猪	増	播	駒	松	石	辻	伊	加	一	21	11
(慶應)	江	俣	田	磨	崎	広	川		藤	藤	宮	4	0

10・28 対文理大（石神井G）

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	横	沖	高	川	潮	森	種	大	藤	萩	川		
2 (0, 2)	山		橋	原	田		田	内	岡	原	島	17	8
												GK	CK
2 (2, 0)	長	久	松	林	小	木	原	藤	三	阿	中	15	7
(文理大)	島	下	永		川	村	崎	田	塚	部	垣	4	0
											内		

11・9 対早大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	横	冲	高	川	潮	森	種	大	藤	萩	川				
2 (0、2)	山		橋	原	田		田	内	岡	原	島	26	7	6	0
												GK	CK	FK	PK
4 (2、2)	平	川	野	西	加	吉	立	笹	鈴	堀	佐	17	7	1	0
(早大)	松	本	澤	邑	茂	田	原	原	木	江	野				
					弟										

弟

(早大 立原の長蹴を
帝大 川島防ぐ。)



11・15 対商大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	横	冲	高	川	潮	森	種	大	藤	萩	川				
5 (2、3)	山		橋	原	田		田	内	岡	原	島	18	13	6	0
												GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)	大	荒	金	林	村	岩	小	水	枝	鈴	田	25	4	4	0
(商大)	掛	井	井	田	井	崎	西	島	村	木	島				

以上の結果、1部2位（早大、東大、文大、慶大、商大、立大の順）となる。

1・19 東西対抗選抜試合に竹内氏出場

2・11 東西OB選手権に藤岡、手島志郎、高山栄華、竹腰重丸、竹内悌三、田村富二郎の各氏が出場。

	FW					HB		FB		GK					
(関東OB)	藤	粉	手	塚	高	松	濱	竹	竹	田	八				
0 (0、0)	岡	川	嶋	部	山	丸	田	腰	内	村	田	12	9	8	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	島	中	東	市	津	三	赤	福	川	後	渡	16	6	7	0
(関西OB)		野	浦	橋	田	崎	川	安	西	藤	辺				

1936（昭和11）年度

7月 ベルリン・オリンピック日本代表に竹内悌三、種田孝一、高橋豊二の各氏、コーチに竹腰重丸氏が参加した。

このオリンピック大会で、日本チームは、優勝候補の強豪スエーデンを 3—2 と破って はじめて世界に勇名を馳せた。CH種田孝一氏他の活躍は永く伝えられている。

（スエーデンの猛攻を凌いだ日本）



下はベルリンオリンピック
日本代表チーム

後列左より
4人目 高橋豊二、
7人目 竹腰重丸、
前列左より
2人目 種田孝一、
6人目 竹内悌三
の各氏



<関東大学リーグ1部>

10・10 対農大（神宮G）

		FW				HB		FB		GK						
(帝大)		松	河	阿	徳	属	森	菊	大	藤	築	高				
1 (1、0)	村	西	部	田				地	内	岡	島	橋	20	6	4	0
													GK	CK	FK	PK
2 (1、1)	天	尹	大	寺	坂	高	群	山	石	西	川	川	19	10	1	0
(農大)	野		野	前	田	橋	山	野	井	川	本					

（帝大、農大に
はじめて敗れる）



10・16 対文理大（神宮G）

		FW				HB		FB		GK						
(帝大)		徳	河	高	阿	潮	森	菊	大	藤	種	高				
3 (1、2)	田	西	橋	部	田			地	内	岡	田	橋	14	7	4	0
			豊									弘				
													GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)	長	久	松	原	小	藤	木	楊	三	阿	中		21	4	3	0
(文理大)	島	下	永	崎	川	田	村		塚	部	垣	内				



（オリンピック帰りの
高橋、種田の復調も
あり、帝大快勝）

11・ 8 対商大（明大和泉G）

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	徳	河	沖	阿	潮	森	菊	種	藤	築	高			
3 (2, 1)	田	西		部	田		地	田	岡	島	橋	14	7	5 0
												GK	CK	FK PK
0 (0, 0)												31	7	5 0
(商大)														

11・14 対慶應（神宮G）

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	徳	河	属	阿	潮	森	菊	大	藤	種	高			
0 (0, 0)	田	西		部	田		地	田	岡	島	橋	25	4	12 0
												GK	CK	FK PK
5 (2, 3)												4	11	3 0
(慶應)														

11・29 対早大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	松	河	沖	阿	潮	森	種	属	藤	菊	喜			
0 (0, 0)	村	西		部	田		田		岡	池	谷	18	4	2 0
												GK	CK	FK PK
4 (1, 3)												11	7	5 0
(早大)														

以上の結果、4位（早大、慶大、文大、東大、商大、農大の順）となる。

2・ 7 東西対抗は関西が圧勝、種田孝一氏が出場

	FW					HB		FB		GK				
(関東)	二	播	川	西	駒	松	松	種	吉	石	中			
0 (0, 0)	宮	磨	本	邑	崎	元	丸	田	田	川	垣			
											内	14	8	3 1
4 (1, 3)	小	前	大	田	市	三	木	中	栗	宮	上	GK	CK	FK PK
(関西)	野	川	谷	島	橋	田	下	西	原	部	吉	15	8	1 0
											川			

3-21 東西OB対抗、菊地武美、竹腰重丸、高山栄華、竹内悌三の各氏が出場

	FW					HB		FB		GK					
(関東OB)	長	菊	竹	塚	粉	岩	松	高	竹	岩	金				
2 (1、1)	岡	地	腰	部	川	波	丸	山	内	崎	澤	14	9	5	0
												GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)	平	高	東	市	津	清	赤	三	川	後	桑	16	6	3	0
(関西OB)	松	橋	浦	橋	田	水	川	崎	西	藤	田				

1937 (昭和12) 年度

6・6 蹴球協会が競技の振興策としてはじめて6人制大会が行われた。(東大G)

優勝候補の東大A (OB現役混成軍) は新鋭から成る早大Aに敗れる番狂わせ。

	F		B		G				
(東大A)	河	竹	松	藤	高	高			
0 (0, 0)	西	腰	村	岡	山	橋	5	3	1
							GK	CK	FK
1 (0, 1)	西	渡	柴	黒	莊	不	9	0	0
(早大A)	村	邊	田	井	田	破			

8-30 蹴球協会はオリンピック強化策として、以後毎年国際試合のために代表選手を決めることとし、候補者39名を発表。FWに渡辺操、HB及びFBに種田孝一、属義雄、菊地宏の各氏がノミネートされた。

9-26 神宮大会関東予選 決勝 東大はWMWに敗る。(東高G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	大	阿	高	渡	奥	属	種	森	菊	藤	岩				
0 (0、0)	屋	部	橋	邊	田		田		地	岡	動				
			豊									17	5	7	0
												GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)	加	渡	高	加	末	関	吉	笹	上	西	佐	12	8	6	0
(WMW)	茂	邊	橋	茂	岡	野	田	野	野	村	野				
	正			健											

< 関東大学リーグ1部 >

10・3 対文理大 (神宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	大	大	高	阿	奥	属	種	森	菊	藤	岩				
0 (0、0)	屋	槻	橋	部	田		田		地	岡	動	12	5	4	1
												GK	CK	FK	PK
2 (0, 2)	長	多	久	原	小	中	勝	原	三	松	中	15	3	2	0
(文理大)	島	和	下	崎	川	村	多	崎	塚	浦	垣				
				敬				正			内				

10・9 対商大（神宮G）

		FW				HB		FB		GK						
(帝大)		松	大	高	森	奥	属	種	田	菊	藤	岩				
4 (1、3)	村	槻	橋		田		田	村	地	岡	動	10	9	9	0	
												GK	CK	FK	PK	
1 (0、1)	村	大	片	金	村	小	早	二	高	後	吉	22	2	6	0	
(商大)	田	掛	山	井	井	西	野	階	橋	藤	澤					
								堂								

10・24 対明大（東高G）

		FW				HB		FB		GK					
(帝大)	松	森	大	渡	阿	属	種	田	菊	藤	岩				
5 (1、4)	村		槻	邊	部		田	村	地	岡	動	10	9	2	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0、0)	清	中	竹	片	山	中	吉	鈴	石	井	田	21	1	7	0
(明大)	水	島	内	岡	田	島	岡	木	川	出	中				
		兄				弟									

11・7 対慶應大（神宮G）

		FW				HB		FB		GK					
(帝大)		松	大	高	渡	阿	属	種	森	菊	藤	岩			
1 (1、0)	村	槻	橋	邊	部		田		地	岡	動	21	7	7	0
												GK	CK	FK	PK
1 (1、0)	猪	小	二	播	篠	松	石	笠	宮	加	津	19	4	5	0
(慶應大)		俣	畑	宮	磨	崎	元	川	原	川	藤	田			

11・20 対早大（神宮G）

		FW				HB		FB		GK						
(帝大)		阿	渡	高	大	松	属	種	森	菊	藤	岩				
1 (1、0)	部	邊	橋	槻	村		田			地	岡	動	9	6	8	0
													GK	CK	FK	PK
0 (0、0)	加	渡	高	加	串	関	吉	笹		上	西	佐	14	7	6	0
(早大)	茂	邊	橋	茂	林	野	田	野		野	村	野				

以上の結果、1部2位（慶大、東大、早大、明大、文大、商大の順）となる。

1・9 朝日招待 対京大（甲子園南G）

	FW					HB	FB		GK				
(東京帝大)	松	大	高	渡	阿	属	種	森	菊	藤	岩		
2 (0, 2)	村	槻	橋	邊	部		田		地	岡	動	11	7 4 0
												GK	CK FK PK
5 (1, 4)	市	小	山	森	伊	政	安	安	井	真	岡	19	1 5 0
(京都帝大)	山	野	中		藤	家	居	原	上	鍋	本		

1・23 東西対抗選抜試合に種田孝一、森孝雄、菊地宏、属義雄の各氏が出場。

	FW					HB	FB		GK				
(関東)	加	加	二	播	篠	関	種	森	菊	属	津		
4 (3, 1)	茂	茂	宮	磨	崎	野	田		地		田		
	正	健										6	9 2 1
												GK	CK FK PK
1 (1, 0)	小	前	大	右	市	三	木	田	井	吉	上	6	17 5 0
(関西)	野	川	谷	近	橋	田	下	邊	上	江	吉		
											川		

3・3 全日本代表を発表、森孝雄、種田孝一、属義雄、菊地宏の各氏がノミネートされた。

<東京学生OB蹴球大会> A, B二組でリーグ戦を行った。

A組	2・27	慶應大OB	8 — 0	農大OB
	3・6	慶應大OB	1 — 0	早大OB
B組	2・27	帝大OB	11 — 0	青学OB
	3・6	帝大OB	8 — 0	明大OB

3・13 東京学生OB大会決勝戦 帝大OB 対 慶應大OB（帝大御殿下G）

	FW					HB	FB		GK				
(帝大OB)	小	竹	手	和	高	宮	高	大	竹	田	大		
3 (2, 1)	川	腰	島	田	山	澤	山	内	内	村	村		
				忠		英						8	9 3 1
												GK	CK FK PK
0 (0, 0)	島	徳	市	塚	溝	岩	松	辻	小	大	額	26	2 2 0
(慶應OB)	田	川	橋	部	口	波	丸		池	崎	額		

3・13 東京OB選抜対抗戦 関東側に小川清一、菊地健一、竹腰重丸、高山英華、竹内悌三、田村富二郎、大村の各氏が出場、関東が連勝した。

	FW					HB	FB		GK				
(関東OB)	小	菊	竹	松	長	岩	高	鈴	竹	田	大		
6 (4, 2)	川	地	腰	丸	岡	波	山	木	内	村	村	16	7 3 0
												GK	CK FK PK
2 (1, 1)	大	伊	大	右	大	岡	赤	前	川	後	西	12	6 2 0
(関西OB)	谷	藤	橋	近	越	田	川	田	西	藤	川		

1938 (昭和13) 年度

5・21 全日本関東予選一回戦 帝大は早大に敗れる。

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	松	大	阿	直	大	属	菊	田	大	築	岩			
2 (0, 2, 0, 0)	村	槻	部	木	谷		池	村	山	島	動	12	4	9 0
												GK	CK	FK PK
3 (1, 1, 1, 0)	高	斎	加	笹	末	西	三	柴	花	吉	不	10	6	6 0
(早大)	橋	藤	茂	野	岡	村	宅	田	田	田	破			

<関東大学リーグ>

10・8 対農大 (東高G)

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	松	大	阿	直	大	属	横	田	大	築	岩			
3 (2, 1)	村	槻	部	木	谷		山	村	山	島	動	10	13	6 0
												GK	CK	FK PK
1 (1, 0)	磯	尹	小	佐	定	猪	石	富	吉	佐	川	19	1	6 0
(農大)	部		林	藤	免	俣	井	樫	田	藤	本			
				武						正				

(帝大の攻勢を 農大HB
石井、ヘッドイングに
防ぐ。)



10・15 対文理大 (神宮G)

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	松	大	阿	直	河	属	横	田	大	築	岩			
5 (1, 4)	村	槻	部	木	西		山	村	山	島	動	11	4	5 0
												GK	CK	FK PK
2 (2, 0)	楨	多	原	中	小	川	藤	佐	三	松	中	18	6	3 0
(文理大)	原	和	崎	村	林	口	田	藤	塚	浦	垣			
											内			

10・15
対文理大戦

(後半41分、松村、阿部から更に右に廻した球をI R直木飛込んでシュート成る。)



11・5 対明大(東高G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	松	大	阿	直	奥	属	横	田	大	築	岩				
4 (0、4)	村	槻	部	木	田		山	村	山	島	動	9	12	3	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	島	山	竹	片	石	南	中	中	田	友	田	21	6	5	0
(明大)	田	田	内	岡	川		島	島	中	澤	中				
							兄	弟			資				

11・12 対早大(神宮G)

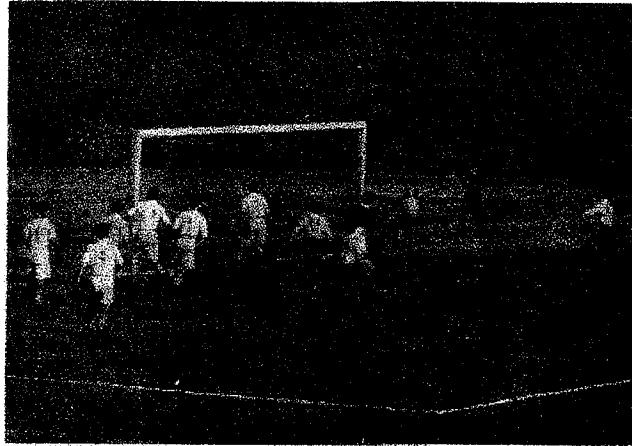
	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	松	大	阿	直	奥	属	菊	田	大	築	岩				
3 (1、2)	村	槻	部	木	田		池	村	山	島	動	23	6	3	0
												GK	CK	FK	PK
2 (0、2)	高	渡	小	加	杉	笹	三	柴	莊	吉	不	17	6	6	0
(早大)	橋	邊	久	茂		野	宅	田	田	田	破				
			保												

11・27 対慶應大(神宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	松	大	阿	直	大	属	菊	田	大	築	岩				
1 (0, 1)	村	槻	部	木	屋		池	村	山	島	動	17	8	6	0
												GK	CK	FK	PK
3 (3, 0)	猪	小	二	播	篠	高	石	笠	宮	加	津	14	8	6	0
(慶應大)	俣	畑	宮	磨	崎	島	川	原	川	藤	田				

以上の結果、1部2位(慶大、東大、早大、農大、明大、文大の順)となる。

(11・27 対慶應戦、 帝大ゴール前での熱戦。)



12・25 <三地域対抗> 朝鮮対関東戦、関東側に大山政行、属義雄の両氏が出場。

FW						HB		FB		GK					
(関東)	加	川	二	播	篠	属	中	笠	大	吉	津				
0 (0、0)	茂	本	宮	磨	崎		島	原	山	田	田	15	1	14	0
											GK	CK	FK	PK	
3 (1, 2)	金	金	葦	関	金	関	李	朴	玄	朴	趙	12	6	5	0
(朝鮮)	喜	容	恵	實	成	丙	舶	明	孝	奎	錦				
	守	植	徳	鍋	汗	大	澤	緒	變	禎	海				

1・8 <朝日招待> 東大は関学に大勝す。(甲子園南G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	松	大	阿	直	奥	属	菊	田	大	築	岩				
8 (3、5)	村	槻	部	木	田		池	村	山	島	動	4	6	6	0
											GK	CK	FK	PK	
2 (1, 1)	梅	田	那	岡	中	大	三	田	岩	笠	中	15	5	3	0
(関学)	園	島	須	野	村	家	田	邊	田	井	村				
											重			信	



(上は関学戦を控えて京都で練習した折の帝大チーム)



(朝日招待の賞牌)

2・5 <東西対抗> 関東に阿部栄夫、属義雄、菊池宏、大山政行の各氏が出場。(神宮G)

	FW	HB	FB	GK					
(関東)	加 川 阿 播 二 属 菊 高 大 吉 津								
3 (1, 2)	茂 本 部 磨 宮	池 島 山 田 田	13	10	4	0			
			GK	CK	FK	PK			
2 (1, 1)	小 田 大 岡 右 三 木 田 西 笠 岡	24	8	10	0				
(関西)	野 島 谷 野 近 田 下 邊 田 井 本								

2・12 <東西OB対抗> 関東に竹腰重丸、高山英華、竹内悌三、大村の各氏が出場。

(甲子園南G)

	FW	HB	FB	GK					
(関東OB)	長 川 竹 松 粉 岩 高 関 竹 宮 大								
1 (1, 0)	岡 本 腰 丸 川 波 山 野 内 本 村	27	7	7	1				
			GK	CK	FK	PK			
1 (0, 1)	大 右 大 市 赤 後 赤 清 川 乙 桑	17	9	0	0				
(関西OB)	谷 近 橋 橋 田 藤 川 水 西 骨 田								

3・3 昭和14年の日本代表26名を発表。菊池宏、属義雄、高山英華、大山政行、阿部栄夫、補欠に直木和の各氏がノミネートされた。

1939 (昭和14) 年度

<関東六人制蹴球>

4・30 決勝	F	B	G
(帝大OB)	高 竹 阿 菊 属 大		
2 (0, 2)	山 腰 部 池 村		
	英 宏		
1 (0, 1)	大 大 有 原 小 岩		
(帝大A)	屋 槻 泉 田 亀 動		

<全日本選手権大会>

6・9 準々決勝、対大阪俱 (神宮G)

	FW	HB	FB	GK					
(帝大)	有 大 菊 直 大 長 横 力 大 原 吉								
8 (3, 5)	馬 槻 池 木 屋 谷 山 石 山 田 田	16	6	4	0				
			GK	CK	FK	PK			
0 (0, 0)	見 南 岩 津 川 森 笹 清 田 浅 中	23	0	3	0				
(大阪俱)	目 崎 田 原 山 水 中 野 村								

6・10 準決勝、対慶応大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	大	大	菊	直	大	長	横	力	大	原	吉				
1 (0、1)	谷	槻	池	木	屋	谷	山	石	山	田	田				
						部						18	2	7	0
												GK	CK	FK	PK
4 (3、1)	渡	小	二	播	篠	笠	田	高	大	石	津	7	10	3	0
(慶應大)	邊	畑	宮	磨	崎	原	中	島	崎	川	田				

6・11 三、四位決定戦、対全普成専門（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	大	大	菊	直	奥	長	横	力	大	原	吉				
3 (2、1)	屋	槻	地	木	田	谷	山	石	山	田	田				
						部						11	0	11	0
												GK	CK	FK	PK
5 (2, 3)	黄	金	金	李	禹	劉	玄	黄	朴	朴	車	6	8	3	0
(全普成専門)	正	容	洪	永				京	大	奎					

<日満華競技大会>

7・9 日満華交歓競技大会の代表選手を発表、菊地宏、大山政行、直木和、の各氏が入る。
監督は竹腰重丸氏。

8・2 日本 対 中華

	FW				HB		FB		GK						
(日本)	金	直	二	川	裴	李	末	金	菊	大	津				
3 (2、1)	成	木	宮	本		裕	岡	容	池	山	田	1	7	16	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	寥	姜	夏	孫	孫	鄭	譚	李	張	李	李	28	7	1	0
(中華)	世			思	永			宗	学	情	恵				

8・3 日本 対 満州

	FW					HB			FB	GK					
(日本)	金	裴	二	川	小	金	末	李	大	菊	津				
6 (2、4)	成		宮	本	畑	容	岡	裕	山	池	田	2	1	5	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	金	朱	朴	根	李	田	吉	木	李	洪	川	9	5	1	1
(満州)				来	萬	村	田	下	致		本				

<関東学生リーグ>

10・8 対商大（帝大G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	有	大	菊	直	大	長	横	力	大	原	岩				
1 (1、0)	馬	槻	地	木	屋	谷	山	石	山	田	動	7	9	2	0
	部											GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)	清	松	片	金	桜	淵	早	鈴	二	荒	吉	14	1	4	0
(商大)	水	岡	山	井	井	上	野	木	階	川	澤				
	堂														

10・14 対明大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	大	大	直	菊	有	長	横	力	大	原	岩				
3 (1、2)	谷	槻	木	池	馬	谷	山	石	山	田	動	7	4	6	0
	部											GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)	中	鈴	片	竹	山	生	南	中	田	田	渡	21	0	7	0
(明大)	島	木	岡	内	田	野		島	中		邊				
	兄					弟									



（前半25分、明大ゴールに迫る帝大フォワード）

10・29 対農大（帝大G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	大	笹	直	菊	奥	長	横	力	大	原	岩				
8 (4、4)	谷	間	木	池	田	谷	山	石	山	田	動	6	6	1	0
	部											GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	成	李	尹	小	佐	穂	富	猪	武	佐	磯	28	2	4	0
(農大)						松	坂	梶	田	藤	部				
						武									

11・11 対早大（神宮G）

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	大	笹	直	菊	奥	長	横	力	大	原	岩		
1 (0, 1)	谷	間	木	池	田	谷	山	石	山	田	動		
					部							24	4 7 0
												GK	CK FK PK
4 (2, 2)	高	渡	米	裴	河	西	末	三	莊	織	不	14	4 4 0
(早大)	橋	邊	谷		西	村	岡	宅	田	内	破		

以上の結果、1部3位（慶大、早大、東大、明大、商大、農大の順）となる。

<東西選抜対抗>

1・15 関東側監督に手嶋志郎氏、選手に原田饒、直木和の各氏が選抜される。

3・9 14・15年度日本代表選手に菊池宏、大山政行、候補に直木和の各氏が選ばれる。

3・10 <東西OB対抗>竹内悌三、竹腰重丸、高山英華の各氏が出場。

	FW				HB		FB		GK				
(関東OB)	加	川	竹	長	小	松	高	立	竹	宮	中		
1 (0, 1)	茂	本	腰	岡	川	丸	山	原	内	本	垣		
												内	11 10 6 0
												GK	CK FK PK
1 (0, 1)	大	吉	大	赤	右	安	三	笠	安	後	西	23	2 2 0
(関西OB)	谷	江	橋	川	近	居	田	井	部	藤	川		

1940 (昭和15) 年度

<関東6人制大会>

帝大はA, B 2チームを準決勝まで進めた。決勝は竹内悌三、高山英華氏の入った東京倶（混成軍）が早大を敗って制覇。

4-21	(青師G)	F	B	G
	(東京倶)	加 川 高 竹 立 中		
	1 (0, 1)	茂 本 山 内 原 垣		
				内
	0 (0, 0)	高 斐 米 末 石 島		
	(早大)	橋 谷 岡 川 田		

<全日本関東予選> 帝大はB組優勝

5-5		FW	HB	FB	GK				
	(帝大)	大 笹 天 直 菊 有 横 力 長 原 濱							
	4 (2, 2)	谷 間 野 木 池 馬 山 石 谷 田 野							
				部		24	3	0	0
						GK	CK	FK	PK
						9	8	0	0
	1 (1, 0)	米 鈴 竹 服 茂 中 田 栗 生 小 松							
	(明大)	積 木 内 部 野 島 中 原 野 林 本							

<全日本大会>

5-24 準々決勝 対関大（神宮外苑G）

		FW	HB	FB	GK				
	(帝大)	大 笹 天 直 菊 有 横 力 長 原 濱							
	2 (1, 1)	谷 間 野 木 池 馬 山 石 谷 田 野							
				部		5	5	4	0
						GK	CK	FK	PK
						17	3	4	0
	1 (0, 1)	杉 林 李 三 恒 西 安 小 種 山 宮							
	(関大)	野 村 堂 田 福 川 谷 田 田							

5-25 準決勝 対WMW（神宮外苑G）

		FW	HB	FB	GK				
	(帝大)	大 笹 種 直 菊 有 横 力 長 原 濱							
	1 (0, 1)	谷 間 田 木 池 馬 山 石 谷 田 野							
				部		8	2	7	0
						GK	CK	FK	PK
						17	4	3	0
	2 (1, 1)	加 高 川 斐 米 川 末 立 矢 織 島							
	(WMW)	茂 橋 本 谷 島 岡 原 野 内 田							

帝大はこのあと、三位決定戦で全普成と引分けている。

5・27 東亜大会出場の選手に直木和氏が入る。(監督は竹腰重丸氏)

<関東大学リーグ>

10・6 対商大(神宮外苑G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	大	笹	種	直	菊	有	横	力	長	原	濱				
0 (0、0)	谷	間	田	木	池	馬	山	石	谷	田	野				
	部											7	13	4	0
												GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)	清	土	片	金	松	淵	早	鈴	松	荒	吉	26	6	4	0
(商大)	水	屋	山	井	岡	上	野	木	浦	川	澤				

10・12 対文理大(神宮外苑G)

	FW					HB		FB	GK						
(帝大)	大	笹	直	種	菊	有	横	力	長	原	濱				
3 (1、2)	谷	間	木	田	池	馬	山	石	谷	田	野				
	部											13	10	10	0
												GK	CK	FK	PK
2 (0、2)	高	近	榊	小	松	多	原	中	佐	伊	大	23	3	4	0
(文理大)	部	藤	原	林	永	和	崎	村	藤	藤	島				

10・27 対明大(神宮外苑G)

	FW					HB		FB		GK						
(帝大)	笹	天	直	種	菊	有	横	力	長	原	濱					
6 (3、3)	間	野	木	田	池	馬	山	石	谷	田	野					
												部	5	13	16	0
													GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)	米	鈴	竹	片	大	中	田	栗	生	小	池	22	2	4	0	
(明大)	積	木	内	岡	林	島	中	原	野	林						

11・9 対早大(神宮外苑G)

	FW					HB		FB		GK						
(帝大)	笹	天	直	種	菊	有	横	力	長	原	濱					
0 (0、0)	間	野	木	田	池	馬	山	石	谷	田	野					
												部	8	2	7	0
													GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)													14	4	5	0
(早大)																

11-16 对慶應大（神宮外苑G）

	FW					HB			FB	GK					
(帝大)	大	種	直	天	菊	有	横	笹	長	原	濱				
0 (0、0)	谷	田	木	野	池	馬	山	間	谷	田	野				
									部			16	3	1	0
												GK	CK	FK	PK
6 (5、1)	尾	高	二	渡	篠	笠	田	内	大	石	津	17	9	8	0
(慶應大)	池	島	宮	邊	崎	原	中	山	崎	川	田				

以上の結果、1部4位（慶大、商大、早大、東大、文大、明大の順）となる。

＜三地域对抗＞

12・7 三地域対抗の関東選手に原田饒、有馬洪、大谷四郎、直木和、菊地武弥の各氏が入る。

12-22 関東対朝鮮（神宮G）試合に有馬洪氏が出場する。

	FW					HB		FB		GK					
(関東)	渡	川	二	裴	篠	有	田	笠	加	早	津				
3 (1、2)	邊	本	宮		崎	馬	中	原	藤	野	田	23	3	11	0
												GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)	黄	黄	金	吳	禹	李	閔	朴	張	朴	金	20	12	2	0
(朝鮮)	正	琮	成	景	晶	鐘	丙	登	炳	明	信				
	河	順	汗	煥	煥	德	大	煥	五	三	福				

2・2 東西対抗（神宮外苑G）戦に、原田饒、有馬洪、大谷四郎の各氏が出場

		FW				HB			FB		GK					
(関東)		加	高	川	斐	大	有	末	笠	原	石	吉				
3 (2, 1)		納	橋	本		谷	馬	岡	原	田	川	澤	8	9	10	1
													GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)		田	室	中	小	三	水	安	小	岩	大	小	9	8	7	0
(関西)		島	山	村	畑	村	澤	福	橋	田	家	畑				
												義				

3・9 東西OB対抗（甲子園南G）関東に竹腰重丸、高山英華、竹内悌三の各氏が出場。

	FW					HB		FB		GK					
(関東OB)	長岡	乙骨	竹腰	塚部	高山	岩崎	松丸	福島	竹内	宮本	中垣				
1 (1、0)												17	7	4	0
												GK	CK	FK	PK
3 (2, 1)												12	5	0	0
(関西OB)	大谷	川本	二宮	西邑	田島	加藤	赤川	小橋	後藤	阿部	中村				

1941 (昭和16) 年度

<関東6人制度蹴球>

- 5・25 帝大はCチームが準々決勝で早大Bに敗れ、Bチームが準決勝で明大Aに敗れた。
 6・25 16・17年度の日本代表候補を発表。木村栄一、大谷四郎の両氏が入る。

<関東学生リーグ>

- 9・28 対商大 (神宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	天	奥	大	種	菊	有	横	奥	木	原	濱				
0 (0、0)	野	島	谷	田	池	馬	山	瀬	村	田	野	2	7	10	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	山	松	片	土	永	清	村	鈴	松	太	居	20	2	9	0
(商大)	本	岡	山	屋	倉	藤	木	木	浦	田	川				

- 10・11 対立教大 (神宮外苑G)

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	天	奥	大	種	菊	有	横	奥	木	原	濱				
2 (0, 2)	野	島	谷	田	池	馬	山	瀬	村	田	野	8	7	10	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	立	今	岩	斎	多	海	田	太	植	原	増	17	2	6	0
(立教大)	花	仁	沼	藤	田	藤	中	田	村		田				

(前半3分、帝大の攻撃を立大GK叩いて防ぐ。)



この試合に出ている立教大の植村真久氏 (後に主将) は、大戦中、海軍特別攻撃隊大和隊指揮官として、昭和19年10月26日セブ島発進、スリガオ東方で米空母サンチー、スワニーを攻撃、帰還されなかったと聞き及ぶ。

10・16 対文理大（帝大G）

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	天	奥	大	種	菊	有	横	奥	木	原	濱			
3 (0, 3)	野	島	谷	田	池	馬	山	瀬	村	田	野	9	9	2 0
												GK	CK	FK PK
0 (0, 0)	高	近	榊	安	伊	窪	松	小	飯	吉	大	31	2	0 0
(文理大)	部	藤	原	井	藤		永	林	澤	田	島			

10・19 対慶應大（神宮外苑G）

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	天	奥	大	種	菊	有	横	奥	木	原	濱			
3 (2, 1)	野	島	谷	田	池	馬	山	瀬	村	田	野	10	3	2 0
												GK	CK	FK PK
0 (0, 0)	尾	渡	高	曾	篠	笠	田	内	大	石	大	20	2	8 0
(慶應大)	池	邊	島	我	崎	原	中	山	崎	川	塚			

10・25 対早大（神宮外苑G）

	FW					HB		FB		GK				
(帝大)	天	奥	大	種	菊	有	横	奥	木	原	濱			
2 (0, 2)	野	島	谷	田	池	馬	山	瀬	村	田	野	13	4	7 0
												GK	CK	FK PK
2 (2, 0)	加	斐	勝	米	花	三	川	宮	松	早	島	11	6	12 0
(早大)	納		井	谷	村	宅	島	田	岡	川	田			

（後半15分、帝大ゴールに殺到する早大勢。）



以上の結果、帝大、早大がそれぞれ3勝2分けで同位となり、再度決勝戦を行う事となった。

11・16 対早大（神宮外苑G）

		FW					HB		FB		GK					
(帝大)		天	奥	大	笹	菊	有	横	奥	木	原	濱				
1 (0、1)	野	島	谷	間	池	馬	山	瀬	村	田	野	18	5	11	0	
												GK	CK	FK	PK	
1 (1, 0)	加	斐	中	米	花	三	川	宮	松	早	島	12	6	10	0	
(早大)	納		井	谷	村	宅	島	田	岡	川	田					

これにより、1部で帝大、早大は両校1位（東大、早大、慶大、商大、立大、文大の順）となった。

この年は戦時の学制短縮で12月卒業となった。

3・21 東西OB対抗戦に竹腰重丸、竹内悌三の両氏が出場。

関東OB 1 — 1 関西OB で引分けとなった。

1942（昭和17）年度

<関東大学リーグ>

戦局に対応するため、大学制度はこの年から9月卒業となり、これに合せて従来、秋に行ってきたリーグ戦を、春に行った。

4・29 対立教大

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	三	奥	天	矢	吉	須	加	奥	木	大	近				
4 (3、1)	上	島	野	島	田	賀	藤	瀬	村	貫	藤	1	11	6	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0、0)												42	1	13	0
(立教大)															

5・16 帝大 5 — 0 商大

5・31 帝大 2 — 4 明大

6・6 対慶応大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	三	奥	大	天	菊	須	加	奥	木	大	近				
1 (1、0)	上	島	谷	野	池	賀	藤	瀬	村	貫	藤	8	8	6	0
												GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)	石	大	室	光	田	永	田	内	大	大	仲	26	5	1	0
(慶應大)	川	島	井	井	村	木	中	山	崎	塚	谷				

6・21 対早大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	三	奥	大	天	種	須	加	奥	木	大	近				
1 (0、1)	上	島	谷	野	田	賀	藤	瀬	村	貫	藤	18	2	6	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	藤	米	藤	加	花	小	三	宮	松	船	島	11	1	10	0
(早大)	井	谷	井	納	村	熊	宅	田	岡	山	田				
	喬		鎮												

以上の結果、1部1位（東大、早大、明大、慶大、商大、立大）となり、帝大は昭和6年以来久しぶりの優勝。

<東西優勝校争覇戦>

7・4 対関学（神宮外苑G） 帝大、大勝して全国制覇。

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	三	奥	大	天	種	須	加	奥	木	大	近				
8 (7、1)	上	島	谷	野	田	賀	藤	瀬	村	貫	藤	13	9	9	0
											GK	CK	FK	PK	
1 (0, 1)	瀬	室	杉	円	高	小	松	野	岡	大	中	27	5	3	0
(関学)	戸	山	本	座	橋	泉	本	村	村	屋	井				

<東亜大会>代表に、加藤信幸、大貫雅敏、奥瀬雅久の各氏が参加、大貫、奥瀬氏は、現地で風土病にやられ、出場出来なかった。

8・8 日本対中国（新京）

	FW					HB			FB		GK				
(日本)	加	裴	藤	金	金	岩	森	光	加	田	池				
6 (4、2)	納	宗	井	田	村	本	山	原	藤	中					
		鍋										21	10	7	0
												GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)	姜	韓	于	孫	夏	王	栗	孫	李	鄭	徐	13	10	12	0
(中国)	濟	金	葆	永	接	寶	禍	紹	清	東	琪				
		樹	鹿	泉	復	山	禎	武	玉	義					

8・9 日本対満州（新京）

	FW					HB			FB		GK				
(日本)	真	裴	加	金	金	岩	森	松	加	田	池				
3 (0、3)	鍋		納	田	村	本	山	岡	藤	中		10	8	11	1
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	密	松	車	武	木	金	郭	仲	陳	柴	石	27	15	4	0
(満州)	山	島	淳	内	下	田	義	田	汝	田	井				
			玉				達		平						

8・10 日本対蒙古（新京）

	FW				HB			FB		GK					
(日本)	金	野	藤	米	金	立	松	奥	松	大	池				
12 (5、7)	村	澤	井	谷	田	原	永	瀬	岡	貫		2	9	6	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	姜	時	劉	曲	朱	葯	王	孫	張	劉	王	36	8	2	0
(蒙古)	思	寬	戊	箋	年		行	集	革	見	名				
	魁	復	仁	平	春		惠	混	甫	周	堂				

<関東学生大会（大学・高専総合）>決勝

11・28 対早大（神宮外苑G）

	FW					HB		FB		GK					
(帝大)	三	奥	伊	加	中	渡	須	奥	木	大	近				
2 (2、0)	上	島	藤	藤	村	邊	賀	瀬	村	貫	藤	13	5	9	0
												GK	CK	FK	PK
3 (3、0)	島	寺	内	小	松	宮	杉	加	皆	藤	藤	18	3	3	0
(早大)	田	島	堀	熊	岡	田		納	木	井	井				
										鎮	喬				

1943（昭和18）年度

<関東大学リーグ>この年は関東大学連盟の公式記録では、リーグ戦を行わなかったとされているが、大貫さんの明確な記録によると、以下の戦績が残されている。

帝大	7	—	1	文理大	帝大	7	—	0	立教大
帝大	5	—	3	慶應大	帝大	11	—	2	早大
帝大	5	—	0	明大					

以上の結果、帝大は1位となる。 この年のメンバーは下記の通り。

	FW				HB		FB	GK			
(帝大)	三	奥	伊	加	中	渡	須	奥	木	大	近
	上	島	藤	藤	村	邊	賀	瀬	村	貫	藤

<関東蹴球大会>決勝

11・28 全東大対全明大（神宮外苑G）

	FW				HB			FB		GK					
(全東大)	三	奥	伊	加	中	渡	須	奥	木	大	近				
2 (1、0、1、0)	上	島	藤	藤	村	邊	賀	瀬	村	貫	藤	12	2	5	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0、0、0、0)	真	木	稲	森	野	上	田	三	森	長	池	16	3	9	0
(全明大)	鍋	内	川		々	田	中	好	山	広					
					林										

このあと、法・文系の学生は徴兵延期措置が停止され、10月21日には、雨の神宮競技場に25,000人の学徒が銃を持って行進し、大壮行会が行われた。

今次大戦には、多くの先輩が参加されて、困難な環境の下で奮闘されたが、中でも、木村栄一、の諸先輩が、残念ながら戦陣に斃れたことは銘記すべきである。

1944（昭和19）年度

戦時体制下で試合がない。

1945（昭和20）年度

戦時体制下でリーグ戦はない。

2. 戦後初めての＜東西対抗戦＞に、大貫雅敏、浅野（関西に）の両氏が出場。

	FW	HB	FB	GK				
(関東)	篠 加 加 高 猪 木 鈴 杉 大 宮 池							
1 (0、1)	崎 納 茂 橋 俣 内 木 貫 本							
1 (0、1)	浅 西 津 林 皆 宮 赤 二 後 小 小				GK	CK	FK	PK
(関西)	野 邑 田 木 田 川 宮 藤 川 畑							

1946（昭和21）年度

＜全日本選手権関東予選＞

4. 6 決勝 全東大対全早大（東大G）

	FW	HB	FB	GK				
(全東大)	二 三 遠 本 岡 黒 須 力 佐 大 不							
2 (1、1)	宮 上 山 城 本 津 賀 石 藤 貫 破				12	4	5	0
					GK	CK	FK	PK
0 (0、0)	加 加 高 加 藤 西 鈴 杉 莊 堀 村				12	4	11	0
(全早大)	茂 茂 橋 納 井 村 木 田 江 形							
	正 健							

＜全日本大会＞決勝

5. 5 全東大対神経大ク（東大G）

	FW	HB	FB	GK				
(全東大)	二 三 遠 本 岡 黒 須 力 佐 大 不							
6 (5、1)	宮 上 山 城 本 津 賀 石 藤 貫 破				11	5	1	0
					GK	CK	FK	PK
2 (1、1)	皆 名 則 賀 賀 福 吉 御 山 安 平				19	2	3	0
(神経大ク)	木 越 武 川 川 島 江 前 中 田 間							
	兄 弟							

＜東京選手権＞

9. 準決勝 全東大 対 MTR（東京高OB）

	FW	HB	FB	GK				
(全東大)	二 三 遠 天 奥 有 横 力 竹 大 古							
9 (、)	宮 上 山 野 田 馬 山 石 腰 貫 泉							
					GK	CK	FK	PK
0 (、)	? 瀬 福 瀬 高 混 小 藤 村 石 不							
(MTR)	渡 田 戸 橋 野 山 岡 瀬 川 破							

9・29 決勝 全東大 対 早大WMW (東大G)

	FW					HB			FB	GK					
(全東大)	二	三	遠	天	岡	有	横	力	大	須	不				
2 (0,1,0,0,0,0,1)	宮	上	山	野	本	馬	山	石	貫	賀	破	19	15	2	0
												GK	CK	FK	PK
1 (0,1,0,0,0,0,0)	加	加	藤	加	杉	彌	鈴	立	井	堀	莊	29	8	4	0
(早大WMW)	納	茂	井	茂		野	木	原	出	江	田				
		兄		弟											

<関東学生リーグ>

10・16	東大	11	—	0	立教大 (東大G)
10・26	東大	6	—	0	文理大
10・	東大	8	—	0	産大
11・10	東大	2	—	0	慶應大
11・17	東大	0	—	3	早大

以上の結果、1部2位 (早大、東大、文大、慶大、産大、立大の順) となる。

<東西学生対抗試合>に、三上一郎、黒津亮二の両氏が出場。

2・9	(西宮G)	FW				HB			FB		GK					
	(関東学生)	藤	岩	吉	三	天	小	高	黒	三	松	津				
	2 (1, 1)	井	谷	原	上	野	熊	部	津	木	浦	田	6	2	5	0
													GK	CK	FK	PK
	3 (1, 2)	鴫	工	皆	賀	瀬	岡	杉	則	大	山	松	9	8	3	0
	(関西学生)	田	藤	木	川	戸	田	本	武	家	形	田				

<東西学生OB対抗>

3・9 関東OBに横山陽三、大貫雅敏の両氏、関西OBに大谷四郎、奥島雄次郎の両氏が出場している。(西宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(関東OB)	高	加	二	渡	篠	関	横	立	堀	大	中				
10 (、)	橋	茂	宮	邊	崎	野	山	原	江	貫	垣				
												GK	CK	FK	PK
0 (、)	室	播	大	奥	岡	二	赤	宮	後	石	山				
(関西OB)	山	磨	谷	島	野	宮	川	田	藤	井	村				

1947 (昭和22) 年度

<東西対抗試合> (正式の復活第一回)

- 4・3 天皇陛下、皇太子殿下の御成りを仰いで挙行。(神宮外苑G) 有馬洪、横山陽三の両氏が出場した。

	FW	HB	FB	GK				
(関東)	篠 渡 二 加 加 有 横 関 堀 高 金							
2 (1, 1)	崎 邊 宮 茂 茂 馬 山 野 江 島 澤							
	兄弟				21	7	6	0
					GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)	鴫 賀 木 工 瀬 宮 杉 則 宮 安 向				15	3	2	0
(関西)	田 川 村 藤 戸 田 本 武 部 居 井							

- 9・24 <東京選手権> 決勝、東大LBは早大WMWに1-2で敗れる。

	FW	HB	FB	GK				
(東大LB)	三 竹 阿 天 岡 有 横 黒 須 大 近							
1 (0, 1)	上 腰 部 野 本 馬 山 津 賀 貫 藤				17	4	4	0
					GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)	高 岩 加 加 藤 関 高 杉 寺 堀 津				4	6	6	0
(早大WMW)	橋 谷 茂 納 井 野 島 島 江 田							

(全東大対早大WMW戦
前半ゴール前の熱戦)



<関東大学リーグ>

- 10・11 対商大 (東大G)

	FW	HB	FB	GK				
(帝大)	小 小 早 高 二 大 海 松 後 高 馬							
5 (4, 1)	林 倉 川 橋 宮 島 老 元 藤 崎 波							
		原			11	6	5	0
					GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	丸 吉 鈴 永 鹿 高 森 篠 佐 加 森				11	2	3	0
(商大)	山 澤 木 倉 子 柳 宮 藤 藤 重							

(10・11 帝大 対 商大戦)



(二宮のゴールシュート)

10・17 対慶應大 (東伏見G)

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	小	福	早	高	二	大	海	松	後	高	馬		
3 (1、2)	林	田	川	橋	宮	島	老	元	藤	崎	渡		
							原					13	14
												GK	CK
												FK	PK
5 (4、1)	宮	銭	菅	両	小	岡	松	田	川	猪	外	7	7
(慶應大)	澤	村	原	角	西	崎	岡	邊	田	俣	山	3	0

10・22 対千葉医大 (東大G)

	FW				HB		FB		GK				
(帝大)	遠	山	早	高	二	大	海	松	後	高	馬		
3 (3、0)	山	崎	川	橋	宮	島	老	元	藤	崎	渡		
							原					11	6
												GK	CK
												FK	PK
0 (0、0)	丸	吉	鈴	永	鹿	高	森	篠	佐	加	森	11	2
(商大)	山	澤	木	倉	子	柳		宮	藤	藤	重	3	0

10・22 帝大 3 — 0 千葉医大 (東大G)

11・9 帝大 5 — 0 文理大(東大G)

11・16 帝大 1 — 2 早大 (東大G)

	FW				HB		FB		GK
(帝大の	遠	山	早	高	二	松	海	後	馬
メンバー)	山	崎	川	橋	宮	元	老	藤	越
									崎
									渡
						原			

以上の結果、1部3位 (早大、慶大、東大、文大、千医大、商大の順) となる。

1・10 <朝日招待> 全東大は全京大に4—0で勝つ。(西宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(全東大)	三	早	大	高	二	黒	横	松	加	後	近				
4 (3、1)	上	川	谷	橋	宮	津	山	元	藤	藤	藤	10	4	6	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0、0)	小	皆	長	麻	友	恒	安	田	赤	藤	向	8	18	5	0
(全京大)	野	木	岡	野	定	藤	居	中	川	野	井				

2・11 <東西学生・OB対抗>

関東学生に松元五郎、海老原純、早川純生の各氏が出場、関東OBに大貫雅敏、横山陽三、有馬洪の各氏、関西OBに大谷四郎氏が出場している。

1948(昭和23)年度

<関東大学トナメント>決勝、東大は文大に5—0で勝ち、優勝す。(東伏見G)

5・18	FW					HB		FB		GK					
(東大)	松	大	早	高	小	海	中	松	後	馬	馬				
5 (2、3)	平	埜	川	橋	林	老	村	元	藤	越	渡	6	3	3	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0、0)												17	2	1	0
(文理大)															

<インターハイの終結と対京大定期戦の開催企画>

10・ 京都大学農学部グラウンドにおいて、学制改革に伴う最後のインターハイ大会が行われた。永年にわたり、東大・京大の世話で開催してきたインターハイの終焉を惜しみ、戦前も定期戦という意図があった東西両帝大の定期戦を復活するとの意義付けも併せて、両校首脳で相談の上、翌24年から対抗戦を定期化することとした。

<関東大学リーグ>

10・10 対千葉医大(神宮G)

	FW					HB			FB		GK				
(東大)	松	大	小	高	二	大	中	松	後	海	馬				
9 (3、6)	平	埜	林	橋	宮	島	村	元	藤	老	渡				
											原	1	14	5	0
0 (0、0)												GK	CK	FK	PK
(千葉医大)												41	0	5	0

10・24 対文理大（神宮G）

FW						HB		FB		GK					
(東大)	松	大	小	高	二	海	中	松	後	丸	馬				
0 (0、0)	平	埜	林	橋	宮	老	村	元	藤	山	渡				
						原						6	5	1	0
												GK	CK	FK	PK
1 (1、0)												22	1	3	0
(文理大)															

10・ 対明大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	小	大	松	高	二	大	丸	海	後	松	馬				
6 (5、1)	林	埜	平	橋	宮	島	山	老	藤	元	渡				
								原				18	10	3	0
												GK	CK	FK	PK
1 (0、1)												20	8	4	0
(明大)															

11・ 7 対慶應大（神宮G）

	FW					HB			FB		GK				
(東大)	小	大	松	高	二	大	丸	海	中	松	馬				
5 (2、3)	林	埜	平	橋	宮	島	山	老	村	元	渡				
								原				4	11	5	0
												GK	CK	FK	PK
2 (0、2)												20	6	2	0
(慶應大)															

11・14 対早大（神宮G）

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	小	大	松	高	二	大	丸	海	中	松	馬				
2 (0、2)	林	埜	平	橋	宮	島	山	老	村	元	渡				
								原				21	8	4	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0、0)												16	10	5	0
(早大)															

(後半29分、早大
ゴール前の熱闘)



以上の結果、1部1位(東大、文大、早大、慶大、明大、千医大の順)、優勝。

<東西大学リーグ優勝校争覇>

12・12 対関学(西宮G)戦は 0 — 2 で敗れる。

	FW					HB			FB	GK					
(東大)	小	大	松	高	二	大	丸	海	中	松	馬				
0 (0、0)	林	埜	平	橋	宮	島	山	老	村	元	渡	16	1	8	0
												GK	CK	FK	PK
2 (0、2)	井	柴	鴫	三	葛	山	神	岡	関	中	松	8	7	6	0
(関学)	上	田	田	田	原	田	田	村	田	田	田				

<朝日招待> 全東大対全関大(西宮G)

1・ 8	FW					HB		FB		GK					
(全東大)	早	大	大	高	岡	有	横	黒	斎	松	近				
1 (0、1)	川	埜	谷	橋	本	馬	山	津	藤	元	藤	14	6	6	0
												GK	CK	FK	PK
1 (0、1)	矢	林	和	小	恒	南	山	高	小	田	池	15	3	3	0
(全関大)	島		田	崎	遠		形	田	川	村	田				

<東西対抗>

関東学生選抜に馬渡一真、松元五郎、海老原純、高橋敏彦、早川純生、大埜正雄の各氏が、関東OB選抜に須賀敏孝、有馬洪、横山陽三、三上一郎の各氏が、また、関西OB選抜に黒津亮二氏が選ばれている。

3・21 関東学生 5 — 4 関西学生
 関東OB 2 — 2 関西OB

1949 (昭和24)年度

<東西対抗>に有馬洪、大埜正雄氏が出場。

4・17 (西宮G)

	FW	HB	FB	GK				
(関東)	加 大 二 渡 篠	関 末 有	堀 岡 津					
2 (1、1)	納 埜 宮 邊 崎	野 岡 馬	江 田 田	15	7	4	0	
				GK	CK	FK	PK	
4 (2、2)	和 工 木 賀 鶴	則 杉 宮	二 三 中	12	11	3	0	
(関西)	田 藤 村 川 田 武	本 田 宮 木	垣 内					

<全日本選手権関東予選>決勝 (東伏見G)

5・29 東大LB 2 — 1 WMW で勝ち、全国大会へ。

<全日本選手権大会>

6・4 東大LB 7 — 1 東洋工業

6・5 決勝 対関大ク (東伏見G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大LB)	三 大 早 高 岡	有 横 海	須 斎 近					
5 (3、2)	上 埜 川 橋 本	馬 山 老	賀 藤 藤	9	12	4	0	
		原		GK	CK	FK	PK	
2 (0、2)	伊 乙 和 門 恒	南 高 中	山 山 池	27	0	9	1	
(関大ク)	藤 畔 田 石 遠	木 田 岡	形 村 田					

<復活第1回 対京大定期戦>

7・ 東大 1—1 (0—0) 京大 (御殿下G)

<関東大学リーグ>

10・9 東大 2 — 1 明大

10・ 東大 1 — 2 立教大

? 東大 1 — 2 教育大

? 対 慶應大 (武蔵野G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	三 大 松 菊 八	市 丸 海	中 三 本					
3 (2、1)	上 埜 平 井 星	川 山 老	村 輪 永					
		原		GK	CK	FK	PK	
2 (2、0)								
(慶應大)								

12 月 対 早大 (武蔵野 G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	秋	大	松	菊	八	大	丸	海	中	三	本		
1 (0、1)	山	埜	平	井	星	島	山	老	村	輪	永		
								原					
												GK	CK FK PK
2 (2、0)													
(早大)													

以上の結果、1 部 4 位 (早大、立大、慶大、東大、教大、明大の順) となる。

12・18 <東西OB対抗 (武蔵野)>に近藤健男、大貫雅敏、有馬洪、岡本潤一、高橋敏彦、三上一郎、黒津亮二(関西に)の各氏が出場。

	FW				HB		FB		GK				
(関東OB)	三	則	加	高	岡	川	末	有	松	大	近		
1 (1、0)	上	武	納	橋	本	島	岡	馬	浦	貫	藤	14	6 5 0
												GK	CK FK PK
0 (0、0)	皆	工	木	賀	皆	黒	杉	宮	岡	中	中	14	6 5 0
(関西OB)	木	藤	村	川	木	津	本	田	村	垣	垣		
													内

<朝日招待>

1・18? 全東大 対 全神商大 ()

	FW				HB		FB		GK				
(全東大)	三	大	大	松	岡	黒	丸	海	種	大	須		
3 (2、1)	上	埜	谷	平	本	津	山	老	田	貫	賀		
								原				10	12 2 0
												GK	CK FK PK
0 (0、0)												27	3 1 0
(全神商大)													



(朝日招待 快勝のメンバー
後列左より、大埜、松平、丸山、横山、黒津、海老原、三上、前列左より岡本、大谷、須賀、種田、大貫の諸氏)

2・5 東西学生対抗 (西宮) に大埜正雄氏が出場。

1950(昭和25)年度

4-2 東西対抗に三上一郎、有馬洪の両氏が出場。

<日英親善試合> 戦後初の国際試合、対英国空母ユニコーン号

4-20 関東学生選抜 対 ユニコーン戦に大埜正雄、山本両氏氏が出場。

	FW			HB		FB		GK				
(関東学生)	竹	大	松	早	鈴	宮	鈴	宮	小	堀	山	
2 (1, 1)	村	埜	永	川	木	澤	木	崎	田	口	本	
									原			24 4 3 0
												GK CK FK PK
3 (2, 1)	H	C	H	D	R	G	J	C	S	R	F	10 7 6 0
(ユニコーン)	(縦書きにつき、頭文字にて失礼)											

4-21 全日本OB 対 ユニコーン戦に、有馬洪、大貫雅敏両氏が出場。

	FW			HB		FB		GK				
(全日本)	加	岩	和	賀	鴫	有	松	宮	岡	大	津	
4 (2, 2)	納	谷	田	川	田	馬	永	田	田	貫	田	14 9 4 2
												GK CK FK PK
0 (0, 0)	H	C	H	D	R	G	J	C	S	R	F	7 1 13 0
(ユニコーン)	(縦書きにつき、頭文字にて失礼)											

<京大戦は中止>

この年、京大戦は中止となっている。ただし、東大から京都に行って試合をしたとの発言があり、長山さんに確認の結果、学生改革直後の動きの中で、教養学部チームが臨んだことが判明した。嵐のあと、大水で湿度100%の環境下であった。

新東大 対 新京大

9-8 <東京選手権兼国体予選>決勝(武蔵野G)

	FW			HB		FB		GK				
(東大LB)	秋	大	三	高	岡	瀬	丸	海	中	大	山	
2 (1, 1)	山	埜	上	橋	本	藤	山	老	村	貫	本	
												8 8 4 0
												GK CK FK PK
3 (1, 2)	大	唐	粉	小	小	西	岩	福	三	篠	片	
(東蹴)	塚	澤	川	宮	島	田	田	田	木	崎	瀬	
											山	

<関東大学リーグ>

10-22 対 立教大 (後楽園G)

	FW					HB	FB		GK				
(東大)	秋	大	岡	菊	中	原	海	長	中	三	吉		
0 (0, 0)	山	埜	野	井	条		老	山	村	輪	富	19	5
							原					7	0
												GK	CK
2 (,)												FK	PK
(立教大)												11	11
												5	0

11- 5 対 慶應大 ()

	FW					HB	FB		GK				
(東大)	秋	大	岡	菊	柴	原	海	坪	中	三	吉		
3 (2, 1)	山	埜	野	井	沼		老	田	村	輪	富		
							原						
												GK	CK
3 (0, 3)												FK	PK
(慶應大)													

11-12 対 中大 (武蔵野G)

	FW					HB	FB		GK				
(東大)	中	大	岡	菊	柴	原	海	坪	中	三	吉		
1 (1, 0)	条	埜	野	井	沼		老	田	村	輪	富	10	6
							原					5	0
												GK	CK
2 (1, 1)												FK	PK
(中大)												11	4
												4	0

11-19 東大 0 — 0 早大 (武蔵野G)

11-26 対 教育大 (武蔵野G)

	FW					HB	FB		GK				
(東大)	秋	大	岡	香	柴	原	海	石	中	三	吉		
1 (0, 1)	山	埜	野	川	沼		老	川	村	輪	富	13	1
							原					1	0
												GK	CK
0 (0, 0)												FK	PK
(教育大)												15	2
												3	0

以上の結果、1部5位 (早大、慶大、教大、立大、東大、中大の順) となる。

1- アジア大会代表に有馬洪、加藤信幸の二氏が選ばれる。

1951 (昭和26)年度

? 全日本関東予選決勝、東大LBは全立大に2—4で敗れる。

<京大戦>

7-10 東大 4—1 京大 (京大G)

<関東大学リーグ>

10-13 対 立教大(東大G)

	FW				HB		FB	GK				
(東大)	加	中	岡	菊	柴	安	海	石	坪	三	吉	
2 (1, 1)	藤	条	野	井	沼	氏	老	川	田	輪	富	
							原					11 4 1 0
												GK CK FK PK
1 (0, 1)												6 6 2 0
(立教大)												

10-20 対 教育大(神宮G)

	FW				HB		FB	GK				
(東大)	藤	中	岡	菊	柴	安	海	石	坪	三	吉	
1 (1, 0)	本	条	野	井	沼	氏	老	川	田	輪	富	
							原					28 2 2 0
												GK CK FK PK
4 (2, 2)												10 4 5 0
(教育大)												

10-29 対 中大(神宮G)

	FW				HB		FB	GK				
(東大)	原	中	岡	菊	柴	石	海	安	坪	三	立	
2 (1, 1)	条	野	井	沼	川	老	氏	田	輪	石		
						原						15 6 7 0
												GK CK FK PK
5 (4, 1)												13 9 3 0
(中大)												

11- 5 対 慶應大(神宮G)

	FW				HB		FB	GK				
(東大)	原	中	岡	菊	柴	安	海	石	坪	三	吉	
0 (0, 0)	本	条	野	井	沼	氏	老	川	田	輪	富	
							原					15 5 10 0
												GK CK FK PK
2 (1, 1)												6 11 4 1
(慶應大)												

11-19 対 早大(神宮G)

	FW				HB	FB		GK				
(東大)	加	中	岡	菊	八	安	海	石	坪	三	吉	
0 (0, 0)	藤	条	野	井	星	氏	老	川	田	輪	富	
							原					11 9 5 1
												GK CK FK PK
4 (0, 4)												17 1 4 0
(早大)												

11-24 東大 2 — 2 明大 (記録不明)

以上の結果、1部6位(早大、慶大、明大、立大、中大、東大、教大の順)となる。

? アジア大会(テヘラン)全日本に有馬洪、加藤信幸両氏が参加した。

? 東西対抗に有馬洪、大埜正雄、加藤信幸(関西に)、大谷四郎(関西に)の各氏が出場。

? スエーデン・ヘルシンギ・ボリユ-と対戦の全日本に有馬洪、加藤信幸が参加。

1952(昭和27)年度

4-6 東西対抗に大埜正雄氏が出場。(神宮G)

	FW				HB	FB		GK				
(東軍)	加	伯	松	鈴	松	大	堀	山	鈴	田	村	
2 (1, 1)	納	井	永	木	永	埜	口	口	木	村	岡	
			信		碩							12 7 8 0
												GK CK FK PK
1 (0, 1)	和	岩	鴫	賀	木	宮	加	岡	岡	山	生	15 7 9 0
(西軍)	田	谷	田	川	村	田	藤	村	田	形	駒	

6-7 関東学生選抜 対 全香港(神宮G)に、岡野俊一郎氏が出場。

	FW				HB	FB		GK				
(関東学生)	高	伯	鹿	岡	桑	宮	山	小	石	青	村	
0 (0, 0)	林	井	井	野	田	田	路	田	川	木	岡	
							島					10 2 6 0
												GK CK FK PK
0 (0, 0)	羅	金	徐	鄭	陳	陸	吳	張	嚴	李	張	14 6 8 0
(全香港)	国	禄	祖	文	明	慶	棋	金	土	春	占	
	泰	生	国	治	哲	祥	祥	海	金	尧	美	

6・8 全日本 対 全香港（神宮G）に、加藤信幸、大埜正雄両氏が出場。

	FW					HB		FB		GK					
(全日本)	加	川	岩	賀	鍋	大	松	山	岡	加	津				
4 (2、2)	納	本	谷	川	田	埜	永	口	田	藤	田	7	10	11	2
												GK	CK	FK	PK
3 (1, 2)	羅	金	徐	鄭	陳	陸	吳	伏	巖	李	張	17	11	9	0
(全香港)	国	禄	祖	文	明	慶	棋	乃	土	春	占				
	泰	生	国	治	哲	祥	祥	棠	金	発	美				

<京大戦>

7-10 東大 1—3 (1—2) 京大 (京大G)

<関東大学リーグ>

10-11 対 明大(東大G)

	FW				HB			FB		GK					
(東大)	島	石	岡	中	柴	浅	海	中	坪	柴	立				
1 (0、1)	居	井	野	島	沼	見	老	川	田	沼	石				
					兄		原			弟		18	3	6	0
												GK	CK	FK	PK
4 (1、3)												8	5	11	0
(明大)															

10-18 対 早大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK					
(東大)	根	岡	中	石	柴	浅	海	柴	坪	帆	立			
3 (3、0)	津	野	島	井	沼	見	老	沼	田	足	石			
					兄		原	弟				11	0	4 1
												GK	CK	FK PK
3 (2、1)												6	11	8 0
(早大)														

11- 2 対 教育大(神宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	島	中	岡	石	柴	浅	海	原	坪	柴	立				
0 (0、0)	居	島	野	井	沼	見	老		田	沼	石				
					兄		原			弟		22	1	13	1
												GK	CK	FK	PK
3 (2, 1)	山	福	大	広	深	中	松	永	小	小	村	7	9	5	0
(教育大)	中	原	淵	羽	澤	田	本	島	宮	澤	岡				

11-15 対 慶應大(東大G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	根	中	岡	石	柴	浅	海	柴	坪	原	立		
0 (0, 0)	津	島	野	井	沼	見	老	沼	田		石		
					兄		原	弟				14	4
												10	0
												GK	CK
												FK	PK
2 (1, 1)	重	早	鈴	岩	竹	荒	長	小	北	土	茂	5	6
(慶應大)	松	川	木	淵	島	川	竹	坂	島	井	木	4	0
								井		田			

11-22 対 立教大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	藤	岡	中	石	柴	浅	海	柴	坪	原	立		
0 (0, 0)	井	野	島	井	沼	見	老	沼	田		石		
					兄		原	弟				23	4
												8	0
												GK	CK
												FK	PK
1 (1, 0)	高	竹	鈴	沼		濱	小	大	寺	小	玉	7	6
(立教大)	林	下	木	崎		田	杉	村	本	泉	城	3	0

11-29 対 中大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	藤	岡	中	石	柴	浅	海	柴	坪	原	立		
1 (0, 1)	井	野	島	井	沼	見	老	沼	田		石		
					兄		原	弟				10	5
												5	0
												GK	CK
												FK	PK
4 (2, 2)	田	吉	八	鹿	三	中	三	芦	石	松	福	8	11
(中大)	中	崎	重	井	浦	村	村	島	川	尾	田	2	0
					徑								

以上の結果、1部7位(慶大、中大、早大、立大、明大、教大、東大の順)となった。

12- 7 1、2部入替戦 東大は青学大に4-0で勝ち、1部に止まった

<第一回全国大学大会>

28- 1- 2	一回戦	東大	5 — 0	京都学芸大
1-	二回戦	東大	9 — 0	東京医大
1-	三回戦	東大	4 — 3	中大
1-	準決勝	東大	1 — 0	立教大

1-6 決勝 対 早大(神宮G)戦に勝ち、全国大学大会初優勝。

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	西	中	岡	石	柴	浅	海	原	坪	柴	立		
2 (1, 0)	本	島	野	井	沼	見	老		田	沼	石		
				兄	原				弟			14	1
												5	0
												GK	CK
												FK	PK
1 (0, 1)	石	伯	杉	吉	桑	宮	山	胡	長	青	福	14	4
(早大)	田	井	野	田	田	崎	路		井	木	井	8	0

1-11 朝日招待の関東OB選抜対関学戦に有馬洪、大埜正雄両氏が出場(西宮)

	FW				HB		FB		GK				
(関東OB)	加	大	二	松	則	松	有	山	田	堀	津		
4 (1, 3)	納	埜	宮	永	武	岡	馬	口	村	口	田	11	7
												7	0
												GK	CK
												FK	PK
1 (0, 1)	德	中	佐	長	木	村	佐	岡	志	平	生	11	5
(関学)	弘	島	藤	沼	村	田	々	本	井	木	駒	11	5
												11	0

1-25 学生選抜東西対抗戦に岡野俊一郎氏が出場(西宮)

	FW				HB		FB		GK				
(関東)	岡	伯	重	早	鈴	三	松	鹿	青	土	村		
3 (1, 2)	野	井	松	川	木	村	木	井	木	井	岡		
												11	14
												3	0
												GK	CK
												FK	PK
2 (2, 0)	薪	寛	德	村	木	三	岩	恒	志	平	生	18	5
(関西)	先		弘	田	村	田	田	遠	井	木	駒	7	0

1953 (昭和28)年度

4-5 東西対抗戦(西宮)に大埜正雄氏が出場(西宮)

	FW				HB		FB		GK				
(関東)	加	大	重	早	鈴	松	松	山	田	土	津		
1 (1, 0)	納	埜	松	川	木	岡	永	口	村	井	田	7	9
												4	1
												GK	CK
												FK	PK
1 (0, 1)	德	川	岩	賀	鴫	宮	杉	柴	岡	平	生	14	5
(関学)	弘	本	谷	川	田	田	本	田	田	木	駒	11	0

4-25 全日本関東予選決勝、東大LBは教大クに2-3敗

6-11 対オッフェンバッハ・キッカーズ 戦の全日本学生選抜に岡野俊一郎氏が出場(西宮)

	FW				HB		FB		GK						
(全日本学生)	徳	長	岡	小	鈴	井	山	山	平	土	村				
0 (0, 0)	弘	沼	野	林	木	上	路	口	木	井	岡	35	0	3	0
											GK	CK	FK	PK	
2 (2, 0)	W	W	B	K	K	K	S	S	M	S	T	1	14	6	1
(オッフェンバッハ)	(縦書きにて書けないので頭文字で失礼)														

6-14 対オッフェンバッハ・キッカーズ 戦の全日本代表に加藤信幸、大埜正雄両氏が出場(西宮)

	FW				HB		FB		GK						
(全日本)	加	川	岩	賀	二	大	松	宮	岡	加	津				
0 (0, 0)	納	本	谷	川	宮	埜	永	田	田	藤	田	27	2	10	0
											GK	CK	FK	PK	
9 (2, 7)	W	W	B	K	K	K	S	S	M	S	T	7	6	3	0
(オッフェンバッハ)	(縦書きにて書けないので頭文字で失礼)														

6-17 対京大定期戦 (東大御殿下G)

	FW					HB		FB		GK						
(東大)	菊	島	岡	浅	藤	原	帆	中	柴	楠	立					
8 (6、2)	井	田	野	見	本		足	川	沼	田	石	17	9	6	0	15
											GK	CK	FK	PK	S	
2 (1, 1)	長	船	大	若	平	大	志	押	武	松	須	20	5	6	0	
(京大)	井	川	羽	山	岡	友	方	坂	居	尾	藤					

<関東大学リーグ>

10- 4 対 慶應大(神宮G)

	FW					HB		FB		GK						
(東大)	松	島	岡	中	藤	山	浅	原	中	柴	立					
0 (0, 0)	澤	田	野	島	本	本	見		川	沼	石	27	1	19	0	
												GK	CK	FK	PK	
4 (1, 3)												9	4	2	0	
(慶應大)																

10-11 対 中大(武蔵野G)

	FW					HB		FB		GK						
(東大)	福	島	岡	中	藤	原	浅	山	中	柴	立					
0 (0、0)	田	田	野	島	本		見	本	川	沼	石	14	4	10	1	
												GK	CK	FK	PK	
7 (1, 6)												13	8	8	0	
(中大)																

10-18 対 早大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	浜	中	岡	島	藤	浅	原	山	柴	福	立		
1 (1, 0)	口	島	野	田	本	見		本	沼	田	石	14	4
												GK	CK
3 (0, 3)												6	16
												FK	PK
												6	0
(早大)													

11- 1 対 立大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	西	中	岡	島	藤	浅	原	山	福	柴	立		
2 (1, 1)	本	島	野	田	本	見		本	田	沼	石		
												GK	CK
3 (2, 1)												FK	PK
(立大)													

11-14 対 明大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	藤	中	西	島	浜	浅	原	山	福	柴	立		
2 (2, 0)	本	島	本	田	口	見		本	田	沼	石	19	2
												GK	CK
1 (0, 1)												6	7
												FK	PK
(中大)												6	0

11-21 対 教大

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	藤	中	西	島	岡	浅	原	山	倉	柴	新		
2 (1, 1)	本	島	本	田	野	見		本	田	沼	倉	18	3
												GK	CK
7 (3, 4)												4	11
												FK	PK
(教大)												4	0

以上の結果、関東学生リーグ 1 部 6 位 (教大、中大、立大、慶大、早大、東大、明大の順) となった。

11-22 スエデン・ユルゴ・リッソとの交歓試合 (大阪)、全日本に加藤信幸氏が出場。

	FW				HB		FB		GK				
(全日本)	徳	岩	鴫	賀	木	井	山	宮	岡	加	渡		
1 (0, 1)	弘	谷	田	川	村	上	路	田	田	藤	部	21	0
												GK	CK
5 (1, 4)	E	E	J	E	A	R	Y	S	O	A	A	10	9
												FK	PK
(ユルゴ・リッソ)												10	0

(縦書きにて書けないので頭文字で失礼)

11-25 スエーデン・ユースとの交歓試合（神宮）、全関東に大埜正雄氏が出場。

	FW				HB		FB		GK						
(全関東)	加	岩	二	賀	鶴	大	松	高	田	土	渡				
0 (0、0)	納	谷	宮	川	田	埜	永	林	村	井	部	22	2	6	0
											GK	CK	FK	PK	
1 (1、0)	S	F	J	E	A	R	Y	S	O	A	A	10	8	9	0
(1-2部リーグ)	(縦書きにて書けないので頭文字で失礼)														

1-3 全国大学選手権2回戦 東大は東京学芸大に0-1敗

1-16 朝日招待、関東学生選抜対関西OB選抜戦（西宮）に岡野俊一郎氏が出場。

	FW					HB		FB		GK					
(関東学生)	重	長	岡	鈴	横	高	李	浜	三	小	村				
0 (0、0)	松	沼	野	木	森	林		田	村	澤	岡	13	3	3	0
											GK	CK	FK	PK	
3 (2、1)	和	岩	鶴	賀	木	井	杉	宮	岡	山	渡	6	6	7	1
(関西OB)	田	谷	田	川	村	上	本	田	田	路	部				

1-16 朝日招待、関西学生選抜対関東OB選抜戦（西宮）に大埜正雄氏が出場。

	FW					HB		FB		GK					
(関東OB)	加	大	二	小	鈴	山	松	宮	青	土	津				
3 (1、2)	納	埜	宮	林	木	口	岡	崎	木	井	田	9	2	4	1
											GK	CK	FK	PK	
2 (1, 1)	徳	寛	末	岡	徳	三	岩	佐	前	平	生	4	9	8	1
(関西学生)	弘		弘	本	山	田	田	藤	川	木	駒				

1-24 学生選抜東西対抗戦（西宮）に岡野俊一郎氏が出場。

	FW					HB		FB		GK					
(東軍)	内	長	岡	高	重	荒	三	福	景	小	村				
1 (1、0)	山	沼	野	林	松	川	村	原	山	沢	岡	13	6	3	0
											GK	CK	FK	PK	
2 (1、1)	恒	岡	徳	末	徳	三	岩	佐	前	平	生	13	3	9	0
(西軍)	遠	本	弘	広	山	田	田	藤	川	木	駒				

? エンペーショント大会に監督竹腰重丸氏、選手岡野俊一郎氏参加

1954 (昭和29)年度

<全日本・関東予選>

- 4-24 東大LB 12 - 1 (6 - 0) 一橋大 (東大G)
 4-25 東大LB 2 - 1 (2 - 0) 全法政 (農学部G)
 4-29 東大LB 1 - 6 (0 - 3) 中大倶楽部 (農学部G)

7-11 対京大定期戦 (京大G)

	FW					HB			FB		GK				
(東大)	浜	中	岡	島	藤	浅	倉	五	福	柴	楠				
13 (5、8)	口	島	野	田	本	見	田	十	田	沼	田				
	嵐											4	13	1	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	長	松	広	若	松	亀	武	木	中	宮	須	11	5	1	0
(京大)	井	尾	野	山	川	崎	居	村	村	本	藤				

<関東大学リーグ一部>

10-10 対中大 (武蔵野)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	浜	中	岡	島	藤	五	倉	山	福	柴	楠				
0 (0、0)	口	島	野	田	本	十	田	本	田	沼	田				
						嵐						8	1	6	0
												GK	CK	FK	PK
9 (4、5)												5	8	3	0
(中大)															

10-17 対立大 (神宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	山	中	岡	島	藤	五	倉	山	福	浜	楠				
1 (0、1)	野	島	野	田	本	十	田	本	田	口	田				
						嵐						16	2	4	0
												GK	CK	FK	PK
2 (0、2)												11	10	5	0
(立大)															

10-24 対教育大 (神宮G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	浅	中	岡	島	藤	五	倉	山	福	浜	楠				
0 (0、0)	見	島	野	田	本	十	田	本	田	口	田				
						嵐						17	1	6	0
												GK	CK	FK	PK
6 (4、2)												5	15	5	0
(教育大)															

10-31 対慶大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	五	中	岡	山	藤	浅	倉	山	福	浜	楠		
1 (0, 1)	十	島	野	野	本	見	田	本	田	口	田		
	嵐											8	0
												GK	CK
4 (1, 3)												5	15
(慶大)												2	0

11-13 対明大(武蔵野G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	島	中	岡	山	藤	浅	倉	山	福	浜	楠		
1 (0, 1)	田	島	野	野	本	見	田	本	田	口	田	11	4
												GK	CK
4 (0, 4)												13	7
(明大)												5	1

11-28 対早大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	島	中	岡	山	藤	浅	倉	山	福	浜	楠		
0 (0, 0)	田	島	野	野	本	見	田	本	田	口	田	20	0
												GK	CK
8 (4, 4)												1	8
(早大)												6	1

以上の結果、関東学生リーグ 1 部 7 位（立大、早大、教大、慶大、中大、明大、東大の順）となり、1、2 部入替戦となった。

12- 5 1、2 部入替戦 対法政大(武蔵野G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	小	中	岡	島	藤	浅	倉	山	福	浜	楠		
6 (2, 4)	松	島	野	田	本	見	田	本	田	口	田	7	5
												GK	CK
1 (1, 0)												24	4
(法政大)												7	1

この結果、1 部に残留と決定。

<第三回全国大学大会> 30 年 1 月 2 日~6 日、神宮Gで開催

- 1 回戦 東大 3 - 0 (0 - 0) 岐阜大
 2 回戦 東大 4 - 1 (2 - 0) 鹿児島大
 3 回戦 東大 1 - 0 (0 - 0) 立大

準決勝 東大 2 - 2 (0 - 0) 中大 (抽選敗)

3位決定戦 対早大

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	小	五	山	島	藤	浅	倉	中	柴	福	楠		
1 (1, 0)	松	十	野	田	本	見	田	島	沼	田	田	12	3
												GK	CK
1 (0, 1)												4	7
(早大)												13	5
												0	0
												PK	

この結果、東大、早大ともに3位となる。

1955(昭和30)年度

4-3 東西対抗戦、関東軍に大埜正雄氏が出場。

4-17 <全日本・関東予選> 決勝戦 対早大(東大農学部G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	島	中	片	岡	山	浅	倉	山	福	帆	畔		
1 (0, 1)	田	島	原	野	野	見	田	本	田	足	柳	23	2
												GK	CK
3 (0, 3)												8	10
(早大)												6	0
												PK	

7-10 対京大定期戦 (東大農学部G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	原	中	岡	島	山	浅	倉	山	折	福	畔		
6 (3, 3)	島	野	田	野	見	田	本	原	田	柳		9	8
												GK	CK
0 (0, 0)	松	若	松	山	高	今	宮	長	中	木	須	12	4
(京大)	川	井	尾	本	橋	永	本	井	村	村	藤	9	0
												FK	

< 関東大学リーグ >

10-23 対教育大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	小	中	岡	島	山	浅	倉	五	福	浜	畔		
1 (0, 1)	松	島	野	田	野	見	田	十	田	口	柳	20	3
								嵐				GK	CK
4 (1, 3)												14	6
(教育大)												13	4
												0	0
												FK	

10-30 対早大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	小	中	岡	島	山	浅	倉	五	福	浜	畔		
0 (0, 0)	松	島	野	田	野	見	田	十	田	口	柳		
								嵐				21	6
												GK	CK
6 (3, 3)												13	9
(早大)												12	0
												FK	PK
												15	0

11- 6 対明大(神宮G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	島	中	山	岡	服	浅	倉	原	福	五	楠		
4 (0, 4)	田	島	野	野	部	見	田		田	十	田		
											嵐	13	4
												GK	CK
1 (1, 0)												15	10
(明大)												13	0
												FK	PK
												15	0

11-12 対中大(後楽園G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	島	中	山	岡	服	浅	倉	原	福	五	楠		
1 (0, 1)	田	島	野	野	部	見	田		田	十	田		
											嵐	15	3
												GK	CK
3 (2, 1)												13	10
(中大)												14	0
												FK	PK
												2	0

11-20 対立大(後楽園G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	岡	中	山	五	島	浅	倉	原	福	浜	楠		
0 (0, 0)	野	島	野	十	田	見	田		田	口	田		
				嵐								18	1
												GK	CK
5 (2, 3)												7	5
(立大)												16	0
												FK	PK
												5	0

11-27 対慶大(神宮G)

	FW				HB	FB		GK				
(東大)	島	岡	山	中	小	浅	倉	原	福	五	楠	
0 (0, 0)	田	野	野	島	松	見	田		田	十	田	21 2 13 0
												GK CK FK PK
5 (1, 4)												11 4 9 0

(慶大)

以上の結果、大学リーグ1部7位(早大、教育大、立大、慶大、中大、明大、東大の順)となる。2部は農大が優勝したが、31年度から1部は8校となるので、入替戦は免れた。

<大学選手権>

1-2 1回戦 対商船大(神宮G)

	FW				HB	FB		GK				
(東大)	小	中	岡	島	山	浅	倉	原	福	浜	楠	
3 (0, 3)	松	島	野	田	野	見	田		田	口	田	9 2 7 0
												GK CK FK PK
0 (0, 0)												9 1 11 0

(商船大)

1-3 2回戦 対東北大(絵画館G)

	FW				HB	FB		GK				
(東大)	小	中	岡	島	山	浅	倉	五	福	浜	楠	
6 (2, 4)	松	島	野	田	野	見	田	十	田	口	田	
								嵐				7 9 9 0
1 (0, 1)												GK CK FK PK
												18 1 4 0

(東北大)

1-4 3回戦 対中大

	FW				HB	FB		GK				
(東大)	小	中	岡	島	山	浅	倉	五	福	浜	楠	
4 (2, 2)	松	島	野	田	野	見	田	十	田	口	田	
								嵐				14 3 10 0
3 (1, 2)												GK CK FK PK
												12 3 6 0

(中大)

1- 5 準決勝 対早大(神宮G)

	FW					HB		FB		GK						
(東大)	小	中	岡	島	山	浅	倉	五	福	浜	楠					
0 (0、0)	松	島	野	田	野	見	田	十	田	口	田					
	嵐											14	2	3	0	
												GK	CK	FK	PK	
4 (3, 1)																
(早大)																

1- 6 3位決定戦 対教育大

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	風	中	岡	島	山	浅	倉	五	福	浜	楠				
1 (0001)	間	島	野	田	野	見	田	十	田	口	田				
							嵐					14	7	11	0
												GK	CK	FK	PK
0 (0000)												16	5	10	0
(法政大)															

1-15 朝日招待大会、関東OB選抜に大埜正雄氏が出場。

1956(昭和31)年度

5・3 全日本大会(大宮) 1回戦 東大LBが初めて八幡製鉄に敗れる。

東大LB 0 - 6 八幡製鉄

この年、決勝は、慶大BRBが 4 - 2 で 八幡製鉄を下して優勝。

7・8 対京大定期戦 (京大農学部G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	小	高	小	五	服	山	倉	原	福	高	畔				
3 (1, 2)	松	田	林	十	部	本	田		田	田	柳				
				嵐								2	3	5	0 12
												GK	CK	FK	PK S
3 (2, 1)	山	長	高	市	若	松	宮	今	新	大	大	6	0	8	0 6
(京大)	本	井	橋	山	井	川	本	永	田	木	片				

<関東大学リーグ1部>

10-21 対 早大 (後楽園競輪場)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	小	服	安	五	小	山	倉	原	福	名	畔				
0 (0, 0)	松	部	達	十	林	本	田		田	取	柳				
				嵐								20	3	8	0
												GK	CK	FK	PK
8 (3, 5)												10	11	11	0
(早大)															

10-28 対 教育大 (東大御殿下G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	小	服	安	五	島	山	名	原	倉	高	畔				
1 (0, 1)	松	部	達	十	田	本	取		田	田	柳				
				嵐								11	7	4	0
												GK	CK	FK	PK
4 (3, 1)	保	倉	志	盛	鈴	松	補	藤	野	恩	大	15	5	3	0
(教育大)	坂	持	村		木	永	津	井	井	田	森				

11・4 対 慶大 (東大御殿下G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	小	島	風	五	小	服	倉	原	福	高	畔				
1 (1, 0)	松	田	間	十	林	部	田		田	田	柳				
				嵐								19	4	8	2
												GK	CK	FK	PK
6 (4, 2)	耳	蓮	志	脇	二	三	宮	田	神	小	森	6	3	2	0
(慶大)	野	見	賀	川	宮	村	崎	原	原	川	本				

11-11 対 立大 (後楽園)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	小	島	稲	五	小	山	倉	服	福	高	畔		
0 (0, 0)	松	田	井	十	林	本	田	部	田	田	柳		
				嵐								18	5 13 0
												GK	CK FK PK
8 (4, 4)	酒	滝	熊	井	内	川	原	高	熊	井	矢	8	3 9 0
(立大)	井	田	沢	沢	田	西		田	田	沢	吹		
				義							喜		

11-18 対 明大 (後楽園)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	小	島	稲	五	風	山	原	服	倉	高	畔		
1 (0, 1)	松	田	井	十	間	本		部	田	田	柳		
				嵐								22	1 9 0
												GK	CK FK PK
2 (1, 1)	熊	福	和	本	岡	中	青	広	早	大	保	8	8 1 0
(明大)	田	島	田	間	本	村	柳	島	水	橋	坂		

11-24 対 中大 (東大御殿下)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	小	服	安	五	稲	山	福	原	倉	名	長		
1 (0, 1)	松	部	達	十	井	本	田		田	取	浜		
				嵐								15	11 10 0
												GK	CK FK PK
4 (2, 2)	北	千	中	原	松	鎌	松	三	三	河	加	5	11 10 1
(中大)	川	田	村	田	永	田	田	宅	浦	野	賀		
											谷		

12- 1 対 農大 (東大御殿下)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	山	島	津	五	福	服	名	高	倉	原	長		
1 (1, 0)	本	田	田	十	田	部	取	田	田		浜		
				嵐								13	3 7 0
												GK	CK FK PK
4 (3, 1)	坂	日	田	小	伊	高	条	北	鈴	花	浦	12	6 7 0
(農大)	部	高	中	林	藤	尾	原	村	木	岡	河		

以上の結果、関東大学リーグ1部で8位(早大、立大、慶大、中大、明大、農大、教育大、東大の順)となり、2部優勝校 法政大と入替戦となった。

12・9 1、2部入替戦 対 法政大（東大御殿下G）

	FW	HB	FB	GK	
(東大)	山 島 津 稲 福 服 名 高 倉 原 長				
1 (1, 0)	本 田 田 井 田 部 取 田 田 浜				
					GK CK FK PK
2 (0, 2)					

(法政大)

この結果、法政大が1部に昇格、残念ながら 東大は はじめて2部に落ちた。

1957 (昭和32) 年度

国公立大会、決勝で一橋大に 6 - 0 で勝ち、優勝す。

7・ 対京大定期戦

	FW	HB	FB	GK	
(東大)	服 梅 風 五 小 松 安 木 佐 高 長				
0 (0, 0)	部 本 間 十 林 村 達 村 藤 田 浜				9 8 8 0 7
					GK CK FK PK S
0 (0, 0)	山 市 高 高 若 松 今 浅 新 大 大				12 4 9 0 12
(京大)	本 山 橋 井 川 永 川 田 木 片				

<関東大学リーグ2部>

10-19 対 上智大 (日吉G)

	FW	HB	FB	GK	
(東大)	服 野 長 梅 小 木 安 五 佐 高 長				
2 (2, 0)	部 沢 崎 本 林 村 達 十 藤 田 浜				
		嵐			2 8 6 0
					GK CK FK PK
0 (0, 0)					14 1 9 0
(上智大)					

10-27 対 一橋大 (日吉G)

	FW	HB	FB	GK	
(東大)	服 野 長 梅 小 木 安 五 佐 高 長				
3 (1, 2)	部 沢 崎 本 林 村 達 十 藤 田 浜				
		嵐			7 9 2 0
					GK CK FK PK
1 (1, 0)					20 4 6 0
(一橋大)					

11-3 対 武蔵大 (武蔵野市営G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	長	服	風	梅	小	木	安	五	佐	高	長		
3 (1、2)	崎	部	間	本	林	村	達	十	藤	田	浜		
								嵐				5	5
												4	0
												GK	CK
												FK	PK
0 (0, 0)												19	3
												7	0
(武蔵大)													

11-10 対 青学大 (武蔵野市営G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	服	野	風	梅	小	木	安	五	福	高	長		
0 (0、0)	部	沢	間	本	林	村	達	十	田	田	浜		
								嵐				9	2
												18	0
												GK	CK
												FK	PK
0 (0, 0)												11	4
												10	0
(青学大)													

11-17 対 学芸大 (武蔵野市営G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	風	梅	長	松	野	木	福	服	佐	高	長		
5 (1、4)	間	本	崎	村	沢	村	田	部	藤	田	浜	1	5
												3	0
												GK	CK
												FK	PK
0 (0, 0)												27	2
												10	0
(学芸大)													

11-22 対 日体大 (東大農学部G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	風	梅	長	松	野	木	安	服	佐	高	長		
2 (1、1)	間	本	崎	村	沢	村	達	部	藤	田	浜	12	7
												6	0
												GK	CK
												FK	PK
2 (2, 0)												15	5
												5	0
(日体大)													

12-1 対 日大 (武蔵野市営G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	風	松	長	野	小	高	安	服	福	佐	長		
3 (2、1)	間	村	崎	沢	林	場	達	部	田	藤	浜	3	5
												25	0
												GK	CK
												FK	PK
1 (0, 1)												2	3
												8	0
(日大)													

以上の結果、5勝2分の東大と、6勝1敗の日大が同順位決勝となった。

12-4 2部リーグ・決勝戦 対 日大 (東大御殿下G)

	FW				HB		FB		GK						
(東大)	風	松	長	野	小	高	安	服	福	佐	長				
0 (0、0)	間	村	崎	沢	林	場	達	部	田	藤	浜	8	6	24	0
											GK	CK	FK	PK	
2 (1、1)											11	8	8	0	
(日大)															

以上の結果、2部で2位 (日大、東大、上智大、青学大、一橋大、日体大、学芸大、武蔵大の順) となり、残念ながら、1部への入替戦出場はなかった。

<第6回大学選手権>

1-3 1回戦 東大 2 - 0 (0-0) 神奈川大 (東大農学部G)

1-4 2回戦 東大 4 - 0 (3-0) 千葉大 (御殿下G)

1-5 準々決勝 対 農大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK						
(東大)	風	松	木	野	梅	服	安	高	高	佐	長				
0 (0、0)	間	村	村	沢	本	部	達	場	田	藤	浜	17	0	5	0
											GK	CK	FK	PK	
3 (1, 2)											7	8	7	0	
(農大)															

1958 (昭和33) 年度

国公立大会、決勝で 学芸大に 1-0 で勝ち、連続優勝。

7-6 対京大定期戦 (京大農学部G)

	FW					HB		FB		GK						
(東大)	安	松	長	野	梅	服	高	高	高	佐	長					
3 (3、0)	達	村	崎	沢	本	部	山	場	田	藤	浜	5	4	12	0	19
											GK	CK	FK	PK	S	
4 (3、1)	平	大	高	浅	塩	市	今	清	市	東	大	10	6	12	0	11
(京大)	尾	木	橋	川	路	山	永	水	山	川	片					
						弟		兄								

<全日本選手権大会 東京予選>

7-12 全東大 対 早大WMW (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK				
(全東大)	藤 浅 岡 島 野 原 海 服 高 柴 長							
2 (0, 2)	本 見 野 田 沢 忠 老 部 田 沼 浜							
		原			9	4	10	0
					GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)					12	7	6	0
(早大WMW)								

7-13 全東大 対 古河 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK				
(全東大)	島 浅 岡 中 藤 原 海 服 高 柴 長							
3 (1, 2)	田 見 野 島 本 忠 老 部 田 沼 浜							
		原			8	0	6	0
					GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)					6	4	6	0
(古河)								

7-20 全東大 は 全立教を 3-2 で降し、関東代表となる。(御殿下G)

<全日本選手権大会>

9- 6 東大LB 3 - 2 (0-1) (延長) 京都紫光 (藤枝東高校)

9- 7 東大LB 対 東洋工業 (藤枝東高校G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大LB)	島 浅 岡 中 藤 原 海 服 高 柴 長							
1 (0, 1)	田 見 野 島 本 忠 老 部 田 沼 浜							
		原			17	6	7	0
					GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)					4	5	3	0
(東洋工業)								

9- 8 準決勝 東大LB 対 八幡製鉄 (藤枝東高校G)

	FW	HB	FB	GK				
(全東大)	島 小 岡 中 藤 浅 海 服 高 柴 長							
0 (0, 0)	田 山 野 島 本 見 老 部 田 沼 浜							
		原			12	4	7	0
					GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)					10	5	8	0
(八幡製鉄)								

9-9 3位決定戦 東大LB 対 志太クラブ (藤枝東高校G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大LB)	島	浅	岡	中	藤	原	海	服	高	柴	長		
1 (0, 1)	田	見	野	島	本	忠	老	部	田	沼	浜		
							原						
												GK	CK FK PK
0 (0, 0)													
(志太クラブ)													

< 関東大学リーグ 2部 >

10-19 対 日体大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	安	小	野	松	梅	服	高	高	吉	佐	長		
0 (0, 0)	達	山	沢	村	本	部	田	場	田	藤	浜	8	10 13 0
												GK	CK FK PK
3 (2, 1)												22	1 10 0
(日体大)													

10-26 対 防衛大戦 (東大農学部G) 東大 2 - 1 防衛大

11-3 対 青学大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	安	小	長	野	梅	服	高	高	吉	松	長		
6 (5, 1)	達	山	崎	沢	本	部	田	場	田	村	浜	4	6 12 0
												GK	CK FK PK
2 (1, 1)												14	4 15 0
(青学大)													

11-9 対 武蔵大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	安	小	長	野	梅	服	高	高	吉	松	長		
2 (1, 1)	達	山	崎	沢	本	部	田	場	田	村	浜	2	6 14 0
												GK	CK FK PK
0 (0, 0)												19	0 15 0
(武蔵大)													

11-16 対 上智大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	安	名	長	野	梅	服	高	高	吉	松	長		
1 (0, 1)	達	越	崎	沢	本	部	田	場	田	村	浜	6	8
												GK	CK
0 (0, 0)												16	5
(上智大)												8	0

11-22 対 一橋大 (小石川G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	安	名	長	野	梅	服	高	高	吉	松	長		
1 (0, 1)	達	越	崎	沢	本	部	田	場	田	村	浜	12	9
												GK	CK
0 (0, 0)												15	4
(一橋大)												14	0

11-30 対 日大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	名	小	長	野	梅	服	高	高	三	松	長		
0 (0, 0)	越	山	崎	沢	本	部	田	場	浦	村	浜	15	4
												GK	CK
3 (1, 2)												10	3
(日大)												4	0

以上の結果、関東大学リーグ 2部で 2位 (日大、東大、の順) となる。

<大学選手権>

12-25 2回戦 東大 3 - 2 (1-1) (延長) 鹿児島大 (小石川G)

12-26 3回戦 東大 1 - 1 (1-1) (延長) 国士館大 (小石川G) 抽選敗。

1959 (昭和34) 年度

<全日本選手権予選>

4-11 1回戦 東大 対 中大

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	斎	小	本	野	山	足	安	高	三	松	長		
0 (0, 0)	藤	山	林	沢	川	立	達	田	浦	村	浜	21	1
												GK	CK
7 (3, 4)												4	10
(中大)												13	0

4月 東大LBは、2回戦 北辰電機に 13—0で勝ち、3回戦で 中大クに 1—2で敗れた。

7月 国公立大会 決勝で一橋大に 3—1で勝ち、3連続優勝。

7・5 対京大定期戦 (東大御殿下G)

	FW					HB		FB	GK					
(東大)	名	室	高	野	小	本	松	吉	三	安	長			
4 (3, 1)	越	田	場	澤	山	林	村	田	浦	達	浜	14	5	14
												GK	CK	FK
1 (0, 1)	塩	浅	根	東	平	大	清	市	東	浅	大	10	6	12
(京大)	路	川	川		尾	木	水	山	川	野	片			PK
														S

<関東大学リーグ 2部>

10・25 対日体大 (御殿下G)

	FW					HB		FB	GK					
(東大)	山	室	高	野	小	名	松	吉	三	安	長			
1 (1, 0)	本	田	場	沢	山	越	村	田	浦	達	浜	8	3	5
												GK	CK	FK
0 (0, 0)												13	6	9
(日体大)														PK

10・ 対成城大 (御殿下G)

	FW					HB		FB	GK					
(東大)	斎	室	吉	野	小	名	松	山	三	安	長			
1 (1, 0)	藤	田	田	沢	山	越	村	本	浦	達	浜	12	7	8
												GK	CK	FK
2 (0, 2)												15	4	4
(成城大)														PK

11・3 对上智大 (御殿下G)

	FW					HB		FB	GK					
(東大)	山	室	高	野	小	名	松	梅	三	安	長			
7 (3, 4)	本	田	場	沢	山	越	村	村	浦	達	浜	2	9	7
												GK	CK	FK
1 (1, 0)												20	9	11
(上智大)														PK

11・8 対 武蔵大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	山	室	高	野	小	名	松	梅	三	安	長		
1 (1, 0)	本	田	場	沢	山	越	村	村	浦	達	浜	9	5
												GK	CK
0 (0, 0)												18	2
(武蔵大)												11	0
												FK	PK

11・15 対 防衛大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	山	室	高	野	小	吉	松	服	三	名	長		
2 (0, 2)	本	田	場	沢	山	田	村	部	浦	越	浜	14	3
												GK	CK
0 (0, 0)												10	5
(防衛大)												10	0
												FK	PK

11・23 対 一橋大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	山	室	高	野	小	吉	松	服	三	名	長		
8 (2, 6)	本	田	場	沢	山	田	村	部	浦	越	浜	3	6
												GK	CK
0 (0, 0)												11	2
(一橋大)												15	0
												FK	PK

11・29 対 日大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	山	室	高	野	小	吉	松	服	三	名	長		
2 (1, 1)	本	田	場	沢	山	田	村	部	浦	越	浜	12	7
												GK	CK
2 (2, 0)												11	3
(日大)												17	0
												FK	PK

この結果、同点1位となった 東大と 日大が 決定戦を行うこととなった。

12・2 リーグ優勝決定戦 対 日大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	山	室	高	野	小	吉	松	服	三	名	長		
2 (0, 2)	本	田	場	沢	山	田	村	部	浦	越	浜	15	8
												GK	CK
1 (0, 1)												13	5
(日大)												14	0
												FK	PK

以上の結果、関東大学リーグ2部で1位(東大、日大、以下不詳の順)となり、1部との入替

戦に臨むこととなった。

12・6 1、2部入替戦 東大 0—2 (0—1) 法政大
残念ながら、1部復帰は成らなかった。

<第8回大学選手権>

12・23 1回戦 東大 6—0 (2—0) 福岡大
12・ 2回戦 東大 0—1 (0—1) 北大

1960(昭和35)年度

<全日本関東予選> 東大 4—1 国学院大
東大 2—2 日体大
東大 0—6 立大

<国公立大会> 決勝、東大 0—5 教育大 で敗れ、準優勝。

<京大戦>

7・3 東大 2—2 (1—2) 京大 (京大G)

<関東大学リーグ2部>

10・23 対 上智大(東伏見G) 東大 4—2 上智大
10・30 対 武蔵大(東伏見G) 東大 3—1 (2—1) 武蔵大
11・ 対 日体大(東大農学部G) 東大 3—1 日体大

11・13 対 成城大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	山 室 南 野 後 名 安 高 松 三 高							
0 (0, 0)	本 田	沢 藤 越 達 場 村 浦 橋	11	11	14	0		
			GK	CK	FK	PK		
1 (0, 1)			16	1	15	0		
(成城大)								

11・19 対 一橋大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	山 高 南 野 後 名 安 松 小 三 高							
4 (1, 3)	本 場	沢 藤 越 達 村 川 浦 橋	9	10	3	0		
			GK	CK	FK	PK		
1 (1, 0)			16	1	12	0		
(一橋大)								

11-23 対 防衛大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	山	高	南	野	後	名	安	松	小	三	高		
0 (0, 0)	本	場		沢	藤	越	達	村	川	浦	橋	10	3
												GK	CK
2 (1, 1)												14	3
(防衛大)												14	3
												0	0
												FK	PK

11-27 対 日大 (御殿下G)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	山	後	南	高	松	名	安	梅	小	三	高		
0 (0, 0)	本	藤		場	村	越	達	村	川	浦	橋	9	6
												GK	CK
3 (0, 3)												10	15
(日大)												16	0
												0	0
												FK	PK

以上の結果、関東大学リーグ2部で4位（成城大、防衛大、日大、東大、日体大、以下不詳の順）となった。

<第9回大学選手権>

12-22 2回戦 東大 2-1 (1-0) 東北学院大 (御殿下G)

12-24 3回戦 対 法政大 (御殿下G) 延長の結果

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	斎	後	南	野	門	名	安	梅	小	三	高		
3 (3, 0)	藤	藤		沢	馬	越	達	村	川	浦	橋	6	7
												GK	CK
4 (2, 2)												9	3
(法政大)												15	0
												0	0
												FK	PK

1961 (昭和36) 年度

<全日本選手権予選>

4・8 東大 4—0 (1-0) 日興

4・9 東大 2—1 茗友

4-15 対 早大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK
(東大)	後梅南野門名安山内三			高
0 (0, 0)	藤村	沢馬越達浦	藤浦	橋
3 (1, 2)				

GK CK FK PK

(早大)

?月 国公立大会 決勝で 教育大に 0—6 と敗れ、準優勝。

7・2 対京大定期戦 (東大御殿下G)

	FW	HB	FB	GK
(東大)	門後南野畔名安梅三小			高
0 (0, 0)	間藤	沢柳越達村	浦川	橋
1 (1, 0)				

6	7	22	0	16
GK	CK	FK	PK	S
6	2	11	0	13

(京大)

<関東大学リーグ2部>

10-15 対 日体大 (東大G)

	FW	HB	FB	GK
(東大)	斎後南野門名安梅三小			高
2 (1, 1)	藤藤	沢馬越達村	浦川	橋
1 (0, 1)				

10	5	11	0
GK	CK	FK	PK
10	4	14	0

(日体大)

10-21 対 一橋大 (東大G)

	FW	HB	FB	GK
(東大)	門後南野畔名安梅三小			高
2 (2, 0)	馬藤	沢柳越達村	浦川	橋
1 (1, 0)				

7	9	14	0
GK	CK	FK	PK
14	2	7	0

(一橋大)

10-28 対 武蔵大 (東大G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	南	後	畔	野	門	中	安	梅	三	小	中				
1 (0, 1)	藤	柳	沢	馬	村	藤	村	浦	川	島		4	5	18	1
												GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)												10	6	9	0
(武蔵大)															

11- 5 対 上智大 (御殿下G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	畔	後	南	野	門	名	安	梅	三	小	高				
1 (1, 0)	柳	藤		沢	馬	越	達	村	浦	川	橋	10	7	12	0
											GK	CK	FK	PK	
0 (0, 0)											12	4	10	2	
(上智大)															

11-11 対 成城大 (御殿下G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	畔	後	室	野	門	名	安	梅	三	小	高				
1 (1, 0)	柳	藤	田	沢	馬	越	達	村	浦	川	橋	15	3	24	0
											GK	CK	FK	PK	
1 (1, 0)											11	2	10	1	
(成城大)															

11-19 対 防衛大 (御殿下G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	畔	後	南	野	門	名	安	梅	石	小	高				
2 (1, 1)	柳	藤		沢	馬	越	達	村	光	川	橋	4	12	22	1
												GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)												10	6	16	0
(防衛大)															

11-25 対 日大 (御殿下G)

	FW					HB		FB		GK					
(東大)	畔	室	南	野	門	名	安	梅	石	小	高				
1 (0, 1)	柳	田		沢	馬	越	達	村	光	川	橋	18	3	17	0
												GK	CK	FK	PK
3 (3, 0)												8	5	11	2
(日大)															

以上の結果、関東大学リーグ2部で2位 (日大、東大、上智大、成城大、武蔵大、

防衛大、一橋大、日体大の順)となる。

<大学選手権>

12-22 東大 9-0 (3-0) 関東学院大
 12-23 東大 1-0 (0-0) 松山商大
 12-24 東大 4-3 農大
 12-25 準々決勝 対 中大

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	畔 柳	後 藤	南 宮	間 馬	門 村	中 藤	内 村	梅 川
	0 (0, 0)							
	3 (3, 0)							
(中大)								

11	4	9	0
GK	CK	FK	PK
5	4	9	0

1962 (昭和37)年度

<全日本選手権>

4-7 1回戦 東大 7-0 (4-0) 志村化工
 4-8 2回戦 対 埼玉教員

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	畔 柳	後 藤	山 田	間 宮	門 馬	中 村	石 光	山 浦
	3 (2, 1)							
	4 (1, 3)							
(埼玉教員)								

6	7	3	2
GK	CK	FK	PK
20	12	8	0

7-1 対京大定期戦 (京大G)
 東大 0-1 (0-1) 京大

<関東大学リーグ2部>

10-13 東大 2-0 (1-0) 一橋大 (御殿下)
 10-20 東大 2-1 (1-0) 自由大 (御殿下)
 10-27 東大 3-0 (1-0) 武蔵大 (御殿下)
 11-3 東大 5-1 (1-0) 防衛大 (御殿下)
 11-10 東大 2-0 (1-0) 上智大 (御殿下)
 11-18 東大 3-1 (0-1) 成城大 (御殿下)
 11-25 東大 6-0 (3-0) 農大 (御殿下)

以上の結果、関東大学リーグ2部で1位 (東大、成城大、一橋大、上智大、防衛大、農大、自由大、武蔵大の順)となり、入替戦に進む。

12-1 1、2部入替戦 (小石川G)
 東大 0-1 (0-1) 法政大

又もや、残念ながら、1部復帰は成らなかった。

<大学選手権> (御殿下・小石川)

12月 1回戦 東大 4-0 (1-0) 鹿児島大
12月 2回戦 東大 7-0 (0-0) 千葉大
12月 準々決勝 対 中大

	FW					HB		FB		GK				
(東大)	石	後	南	野	畔	山	石	安	八	小	中			
0 (0, 0)	田	藤		村	柳	浦	光	達	田	川	島	12	2	9 0
												GK	CK	FK PK
2 (2, 0)	岡	市	藤	伊	榎	大	渡	河	小	西	片	4	6	3 0
(中大)	光	川	田	藤		石	辺	野	城	岡	伯			
											部			

1963 (昭和38) 年度

<全日本選手権関東予選>

6月 1回戦 東大 3-0 (0-0) 八雲キッカーズ
6月 2回戦 東大 2-0 (2-0) 日産火災
6-23 準決勝 対 新三菱

	FW					HB		FB		GK				
(東大)	石	後	南	野	畔	山	石	安	八	小	中			
0 (0, 0)	田	藤		村	柳	浦	光	達	田	川	島	12	3	5 0
												GK	CK	FK PK
4 (1, 3)	北	清	吉	二	森	森	米	吉	服	佐		8	6	2 0
(新三菱)	口	水	田	宮		田	谷	田	部	藤				

7-7 <京大定期戦> (御殿下)

	FW					HB		FB		GK				
(東大)	畔	後	南	河	三	山	八	安	小	石	中			
0 (0, 0)	柳	藤		伊	浦	浦	田	達	川	光	島	9	4	17 0
												GK	CK	FK PK
0 (0, 0)	伊	水	唐	小	井	川	時	植	西	大	難	19	5	9 0
(京大)	藤	谷	津	田	坪	野	森	島		家	破			

<関東大学リーグ2部>

9-30 対 日体大 (御殿下)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	畔	後	南	川	安	山	石	小	八	小	坂		
2 (2, 0)	柳	藤		瀬	達	浦	光	林	田	川	井	9	5
												GK	CK
1 (0, 1)												15	1
(日体大)												14	4
												13	0

10-6 対 自由大 (御殿下)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	畔	後	南	三	川	山	石	小	八	小	中		
1 (1, 0)	柳	藤		浦	瀬	浦	光	林	田	川	島	8	9
												GK	CK
1 (0, 1)												10	0
(自由大)												11	1
												9	0

10-26 対 農大 (御殿下)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	石	後	畔	川	南	山	石	安	八	小	中		
2 (1, 1)	田	藤	柳	瀬		浦	光	達	田	川	島	4	7
												GK	CK
0 (0, 0)												9	0
(農大)												8	6
												18	0

11-2 対 一橋大 (御殿下)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	石	後	畔	川	南	山	石	安	八	小	中		
2 (1, 1)	田	藤	柳	瀬		浦	光	達	田	川	島	5	14
												GK	CK
1 (0, 1)												9	0
(一橋大)												18	2
												3	0

11-9 対 防衛大 (御殿下)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	石	後	中	川	南	小	石	安	小	八	中		
2 (1, 1)	田	藤	岡	瀬		林	光	達	川	田	島	10	6
												GK	CK
2 (0, 2)												FK	PK
(防衛大)												21	3
												0	0

11-16 対 上智大 (御殿下)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	畔	後	中	川	南	山	石	安	八	小	中		
0 (0, 0)	柳	藤	岡	瀬		浦	光	達	田	川	島	13	4 6 0
												GK	CK FK PK
1 (0, 1)												13	3 3 0
(自由大)													

11-24 対 成城大 (御殿下)

	FW				HB		FB		GK				
(東大)	石	三	鳥	野	川	石	八	安	武	小	坂		
0 (0, 0)	田	浦	原	村	瀬	光	田	達	田	川	井	12	3 24 0
												GK	CK FK PK
2 (0, 2)												12	3 5 0
(成城大)													

以上の結果、関東大学リーグ2部で3位 (順位不詳) となる。

<第12回大学選手権>

- 11- 2回戦 東大 3—0 (2—0) 広島大
 11- 3回戦 東大 0—0 (0—0) 延長 名商大 抽選敗

1964 (昭和39) 年度

<京大戦>

	FW				HB		FB		GK				
(東大)													
0 (0, 0)													
												GK	CK FK PK
0 (0, 0)	林	本	唐	今	伊	植	西	小	宮	塚	橋		
(京大)	多	津	伊	藤	島		谷	路	本	本			

<関東大学リーグ2部>

- 10-31 東大 1—0 一橋大 (御殿下)
 11- 8 東大 1—1 防衛大 (御殿下)
 11-14 東大 0—3 順天堂大 (御殿下)
 11-22 東大 3—1 自由大 (御殿下)
 11-28 東大 2—2 上智大 (御殿下)
 12- 5 東大 0—3 法政大 (御殿下)
 12-12 東大 0—2 成城大 (御殿下)

以上の結果、関東大学リーグ2部で5位 (法政大、順天堂大、上智大、成城大、東大、防衛大、一橋大、自由大の順) となった。

<第13回大学選手権>

11・ 2回戦 東大 1—1 (1—1) 延長 一橋大 抽選敗

1965 (昭和40) 年度

7・4 対京大定期戦

FW HB FB GK

(東大)

1 (1, 0)

|

GK CK FK PK

0 (0, 0) 久 林 片 今 伊 浜 塚 水 宮 百 橋

(京大) 保 岡 井 藤 井 本 谷 地 々 本

<関東大学リーグ2部>

10-10 東大 1—0 成城大 (駒沢第二)

10-16 東大 1—1 上智大 (駒沢第二)

10-24 東大 2—0 順天堂大 (御殿下)

10-30 東大 3—3 法政大 (御殿下)

11・7 東大 1—2 農大 (駒沢第二)

11-14 東大 1—0 一橋大 (駒沢第二)

11・ 東大 0—1 防衛大

以上の結果、関東大学リーグ2部で3位 (法政大、上智大、東大、農大、成城大、一橋大、順天堂大、防衛大の順) となった。

<大学選手権>

12・ 2回戦 東大 2—0 成蹊大

12・ 3回戦 東大 1—3 東北学院大

なお、昭和41年から、大学選手権の方式が変り、関東地区は、1部リーグ上位5校が出場することとなった。

1966 (昭和41) 年度

7・7 対京大定期戦 東大 1—1 (1—1) 京大 (京大G)

<関東大学リーグ2部>

9-18 東大 3—0 一橋大 (駒沢第二)

9-25 東大 1—3 成城大 (駒沢第二)

10・2 東大 1—0 青学大 (駒沢第二)

10・8 東大 1—2 順天堂大 (駒沢第二)

10-16 東大 2—4 上智大 (駒沢第二)

10-23 東大 1—2 日体大 (御殿下)

10-29 東大 0—0 農大 (御殿下)

以上の結果、関東大学リーグ2部で5位(日体大、農大、成城大、順天堂大、上智大・東大は同位、青学大、一橋大の順)となる。

1967(昭和42)年度

7-2 対京大定期戦 (東大検見川G)

	FW	HB	FB	GK	交代	大町(八林)
(東大)	八鍋中	小 熊	吉 小	小 小	薮 永	
3 (2, 1)	林 島	井 柳	谷 崎	川 西	林 内	峰
						GK CK FK PK
0 (0, 0)						
(京大)						

<関東大学リーグ2部>

1968(昭和43)年度

6- <国公立大会> 決勝、東大 4—3 教育大 優勝。

7-7 <京大戦> 東大 3—0 (3—0) 京大 (京大G)

<関東大学リーグ2部>

9-30 東大 3—2 国士館大 (駒沢第三)
10-6 東大 2—1 青学大 (御殿下)
10-14 東大 5—1 成城大 (御殿下)
10- 東大 1—1 学芸大 (御殿下)
10- 東大 3—1 日体大 (御殿下)
11-3 東大 2—7 農大 (御殿下)
11-11 東大 5—3 上智大 (御殿下)

以上の結果、関東大学リーグ2部で3位(農大、日体大、東大、国士館大、成城大、学芸大、青学大、上智大の順)となる。

1969(昭和44)年度

<京大戦>

	FW	HB	FB	GK	
(東大)					
1 (0, 1)					
					GK CK FK PK
1 (1, 0)	黒 尾	鈴 横	相 丹	柳 二	久 渡
(京大)	田 籠	木 内	原 羽	瀬 谷	下 辺
					上

<関東大学リーグ2部>

9-28 対 成城大 (代々木)

	FW				HB		FB	GK	交代	古村 (俵)			
(東大)	黒	俵	上	戸	小	八	清	吉	武	田	小	桜井 (戸井)	
5 (2, 3)	沢	妻	井	柳	林	木	崎	田	代	原	14	3	9 1
											GK	CK	FK PK
2 (0, 2)											5	10	6 1
(成城大)													

10- 対 学芸大 (駒沢第三)

	FW				HB		FB	GK	交代	鹿島 (八林)			
(東大)	黒	上	俵	戸	八	小	清	吉	武	金	小		
3 (1, 2)	沢	妻		井	林	柳	木	崎	田	丸	原	16	6 6 0
												GK	CK FK PK
0 (0, 0)												7	4 8 0
(学芸大)													

10-12 対 青学大 (明大G)

	FW				HB		FB	GK	交代	金丸 (古村)			
(東大)	戸	俵	上	古	八	小	鹿	武	吉	清	小		
3 (3, 0)	井	妻	村	林	柳	島	田	崎	木	原	6	8	23 0
											GK	CK	FK PK
0 (0, 0)											6	7	15 0
(青学大)													

10- 対 上智大 (代々木)

	FW				HB		FB	GK	交代	金丸 (八林)			
(東大)	戸	上	俵	黒	八	小	鹿	吉	武	田	小	清木 (田代)	
2 (、)	井	妻		沢	林	柳	島	崎	田	代	原	2	3 7 0
												GK	CK FK PK
1 (、)												1	6 2 0
(上智大)													

10- 対 農大 ()

	FW				HB		FB	GK	交代	古村 (黒沢)			
(東大)	黒	上	俵	戸	八	小	田	吉	武	清	小	鹿島 (田代)	
1 (0, 1)	沢	妻		井	林	柳	代	崎	田	木	原	6	5 10 0
												GK	CK FK PK
2 (0, 2)												4	6 6 0
(農大)													

11-9 対 日体大 (御殿下)

	FW	HB	FB	GK	交代	田代 (俵)				
(東大)	黒 俵 上 戸 八 小 清 武 吉 鹿 小									
1 (0, 1)	沢 妻 井 林 柳 木 田 崎 島 原					16	3	4	0	
						GK	CK	FK	PK	
1 (1, 0)						8	3	12	0	
(日体大)										

11-16 対 国士館大 ()

	FW	HB	FB	GK	交代	金丸 (八林)				
(東大)	黒 上 俵 戸 小 八 田 吉 武 鹿 小									
2 (2, 0)	沢 妻 井 柳 林 代 崎 田 島 原					6	8	5	0	
						GK	CK	FK	PK	
0 (0, 0)						10	4	8	0	
(国士館大)										

以上の結果、関東大学リーグ2部で 1 位 (東大、日体大、農大、上智大、国士館大、青学大、学芸大、成城大の順) となり、1 部との入替戦に臨む。

11-22 1、2 部入替戦は、 東大 0—7 中大 となり、昇格は成らなかった。

1970 (昭和45) 年度

<七大学戦> 決勝で 名大を 2—0 で破り、優勝。

7-12 <京大戦> (京大農学部G)

	FW	HB	FB	GK	交代	古村 (戸井)				
(東大)	戸 桜 俵 上 黒 金 渡 清 小 鹿 小									
3 (1, 2)	井 井 妻 沢 丸 辺 水 柳 島 原					5	10	19	0	27
						GK	CK	FK	PK	S
2 (0, 2)	相 横 黒 棚 森 渡 二 丹 山 広 安					16	1	16	0	11
(京大)	原 内 田 井 辺 谷 羽 田 部 岡									

<関東大学リーグ2部>

9-19 東大 0—1 (0—0) 成城大 (御殿下)

9-26 対 学芸大 (御殿下)

	FW	HB	FB	GK	交代	笠原 (桜井)				
(東大)	金 桜 俵 戸 上 小 鹿 渡 清 樹 小					古村 (金丸)				
0 (0, 0)	丸 井 井 妻 柳 島 辺 木 井 原									
						GK	CK	FK	PK	
0 (0, 0)										
(学芸大)										

10- 3 対 青学大 (御殿下)

	FW	HB	FB	GK	交代	笠原 (桜井)				
(東大)	戸 桜 俵 黒 古 小 上 鹿 清 小									
3 (2, 1)	井 井 沢 村 柳 妻 島 木 原									
							GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)										

(青学大)

10-11 対 国土館大 (御殿下)

	FW	HB	FB	GK						
(東大)	黒 戸 桜 俵 小 上 赤 渡 鹿 清 小									
1 (1, 1)	沢 井 井 柳 妻 松 辺 島 木 原				8	2	12	0		
					GK	CK	FK	PK		
1 (1, 1)					5	9	13	0		

(国土館大)

10-18 対 上智大 (御殿下)

	FW	HB	FB	GK	交代	金丸 (桜井)				
(東大)	戸 黒 桜 俵 小 上 赤 鹿 大 清 小					笠原 (戸井)				
1 (1, 0)	井 沢 井 柳 妻 松 島 日 木 原									
					向		8	3	13	0
2 (2, 0)							GK	CK	FK	PK
							8	10	12	0

(上智大)

10-24 対 農大 (御殿下)

	FW	HB	FB	GK	交代	乾 (小原)				
(東大)	戸 俵 上 黒 小 赤 渡 清 鹿 大 小					桜井 (戸井)				
3 (1, 2)	井 妻 沢 柳 松 辺 木 島 日 原									
					向		10	5	21	0
0 (0, 0)							GK	CK	FK	PK
							8	5	17	0

(農大)

11- 1 対 日体大 (御殿下)

	FW	HB	FB	GK	交代	榊井 (赤松)				
(東大)	桜 俵 上 黒 小 鹿 井 大 清 小					渡辺 (井上)				
1 (0, 1)	井 妻 沢 柳 島 上 日 木 原									
					向		10	5	12	0
3 (1, 2)							GK	CK	FK	PK
							5	7	11	0

(日体大)

9-26 対 農大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK	交代	山中 (佐々木)
(東大)	佐 柴 俵 黒 上 古 内 笠 赤 清 乾					吉沢 (乾)
2 (2, 0)	々 田 沢 妻 村 田 原 松 木					
	木				19	4 15 1
					GK	CK FK PK
2 (1, 1)					6	9 17 0
(農大)						

10- 2 対 国士館大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK	交代	山中 (上妻)
(東大)	佐 柴 俵 黒 上 古 手 笠 赤 清 吉					戸井 (佐々木)
0 (0, 0)	々 田 沢 妻 村 島 原 松 木 沢					
	木				10	8 18 0
					GK	CK FK PK
1 (1, 0)					13	4 14 0
(国士館大)						

10-17 対 拓大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK	交代	内田 (金丸)
(東大)	戸 柴 俵 黒 上 古 赤 清 笠 金 吉					
1 (1, 0)	井 田 沢 妻 村 松 木 原 丸 沢				13	9 13 0
					GK	CK FK PK
0 (0, 0)					20	3 11 0
(拓大)						

10-24 対 明大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK	交代	大日向 (清木)
(東大)	柴 俵 戸 黒 古 上 赤 笠 金 清 吉					佐々木 (戸井)
1 (1, 0)	田 井 沢 村 妻 松 原 丸 木 沢				14	2 7 0
					GK	CK FK PK
2 (1, 1)					17	4 13 1
(明大)						

以上の結果、関東大学リーグ 2部で 4位 (明大、農大、上智大、東大、学芸大、拓大成城大、国士館大の順) となる。

1972(昭和47)年度

<春季対抗戦> 4-22~ 5-6

4. 対 中大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	柴 田 佐 山 遠 山 三 笠 内 上 吉							
1 (1, 0)	田 名 々 中 藤 辺 田 原 田 妻 沢				14	1	15	0
	木				GK	CK	FK	PK
					7	6	11	0
1 (1, 0)								

(中大)

東大 0—5 (0—2) 日体大 (御殿下G)

東大 0—3 (0—1) 拓大 (御殿下G)

<国公立大会> 6-11~24 (検見川、御殿下)

2回戦 東大 4—0 (2—0) 都立大

準決勝 東大 5—3 (3—2) 学芸大

決勝 東大 3—0 (0—0) 教育大

7- 2 <京大戦> (京大農学部G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	佐 柴 宮 植 上 山 内 笠 三 山 吉				交代	荒川 (佐々木)		
1 (0, 1)	々 田 武 村 妻 辺 田 原 田 中 沢							
	木				GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)	阿 山 香 巖 森 古 林 広 小 舟 伊							
(京大)	満 田 川 本 松 部 林 曳 藤				交代	永井 (香川)		
						加藤 (舟曳)		

<関東大学リーグ 2部 >

9-30 対 学芸大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	宮 柴 佐 植 上 内 天 笠 三 山 吉				交代	小野田 (内田)		
1 (0, 1)	武 田 々 村 妻 田 野 原 田 中 沢					山辺 (宮武)		
	木				11	5	14	0
					GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)					10	8	10	0

(学芸大)

10- 8 対 拓大 (御殿下G)

	FW		HB		FB		GK					
(東大)	宮	柴	佐	植	上	内	三	南	天	山	吉	
0 (0, 0)	武	田	々	村	妻	田	田	谷	野	中	沢	9 4 6 0
												GK CK FK PK
3 (2, 1)												4 4 7 0
(拓大)												

10-15 対 成城大 (御殿下G)

	FW		HB		FB		GK					
(東大)	宮	柴	佐	植	上	三	内	笠	天	山	吉	
3 (2, 1)	武	田	々	村	妻	田	田	原	野	中	沢	
0 (0, 0)												8 9 17 0
(成城大)												GK CK FK PK
												16 7 20 0

交代 小野田 (天野)

10-22 対 国士館大 (御殿下G)

	FW		HB		FB		GK					
(東大)	宮	柴	佐	植	上	三	内	笠	天	山	吉	
2 (2, 0)	武	田	々	村	妻	田	田	原	野	中	沢	
4 (3, 1)												8 6 20 0
(国士館大)												GK CK FK PK
												12 3 19 0

交代 小野田 (内田)
荒川 (宮武)

10-29 対 立大 (御殿下G)

	FW		HB		FB		GK					
(東大)	宮	柴	佐	植	上	三	内	笠	天	山	吉	
5 (2, 3)	武	田	々	村	妻	田	田	原	野	中	沢	
1 (1, 0)												7 9 10 0
(立大)												GK CK FK PK
												13 10 10 0

11- 4 対 農大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK	交代	南谷 (小野田)
(東大)	宮 柴 佐 三 植 小 山 笠 内 上 吉					遠藤 (佐々木)
1 (0, 1)	武 田 々 田 村 野 中 原 田 妻 沢					
		木	田			
3 (1, 2)						
(農大)						
					12	1 14 0
					GK	CK FK PK
					9	5 18 0

11-11 対 上智大 (御殿下G)

	FW	HB	FB	GK	交代	遠藤 (佐々木)
(東大)	宮 柴 佐 植 上 三 小 笠 内 山 吉					南谷 (宮武)
0 (0, 0)	武 田 々 村 妻 田 野 原 田 中 沢					
		木	田			
1 (1, 0)						
(上智大)						
					15	1 14 0
					GK	CK FK PK
					12	3 13 0

以上の結果、関東大学リーグ 2部で 7位 (農大、国士館大、学芸大、拓大、成城大、上智大、東大、立大の順) となり、3部との入替戦となった。

11-25 2、3部 入替戦 対 明学大 (駒沢G)

	FW	HB	FB	GK	交代	天野 (小野田)
(東大)	宮 柴 佐 植 上 三 内 笠 小 山 吉					
4 (2, 2)	武 田 々 村 妻 田 田 原 野 中 沢					
		木	田			
3 (3, 0)						
(明学大)						
					13	6 13 0
					GK	CK FK PK
					9	5 17 0

この結果、関東2部に残留となった。

1973(昭和48)年度

<春季対抗戦> 4・22~5・3 (法政大G)

4. 体 法政大 (法政大G)

	FW	HB	FB	GK	交代	荒川(内田)
(東大)	御 宮 田 遠 内 三 佐 尾 笠 山 吉					山辺(田名)
0 (0、0)	園 武 名 藤 田 田 々 崎 原 中 沢					
		木			11	5 12 0
					GK	CK FK PK
2 (1, 1)					6	10 5 0
(法政大)						

東大 0—1 (0—1) 教育大

東大 1—1 (1—0) 拓大

<国公立大会> 6・3~17 (教育大G)

東大 3—0 (2—0) 教育大

準決勝 東大 5—2 (0—1) 学芸大

決勝 東大 3—2 (0—0) 東工大

7・1 <京大戦> (東大御殿下G)

	FW	HB	FB	GK	交代	田中(御園)
(東大)	山 御 宮 植 遠 佐 三 山 笠 天 吉					池森(三田)
2 (0、2)	辺 園 武 村 藤 々 田 中 原 野 沢					
		木			9	8 7 0 33
					GK	CK FK PK S
2 (0, 2)	田 永 西 巖 森 荒 山 小 梅 広 伊				12	5 14 0 24
(京大)	中 井 田 本 木 口 林 田 部 藤					

<天皇杯関東1次予選>

8・26 対 宇商OBクラブ (御殿下)

	FW	MF	BK	GK	交代	森井(山中)
(東大)	柴 宮 遠 植 山 内 佐 山 笠 天 吉					田名(山辺)
4 (3、1)	田 武 藤 村 辺 田 々 中 原 野 沢					
		木			9	8 5 0
					GK	CK FK PK
1 (0, 1)					7	2 3 0
(宇商OB)						

9- 2 対 拓大 (御殿下)

	FW	MF	BK	GK	交代	森井 (山中)
(東大)	田 柴 宮 遠 植 荒 佐 山 笠 天 吉					田名 (山辺)
3 (2, 1)	中 田 武 藤 村 川 々 中 原 野 沢					
			木			
0 (0, 0)						
(拓大)						
					4	5
					15	0
					GK	CK
					FK	PK
					8	4
					14	0

9-16 対 日立水戸勝田 (笠松運動公園)

	FW	MF	BK	GK	交代	田中 (三田)
(東大)	柴 宮 植 荒 遠 三 佐 山 笠 天 吉					
2 (0, 2)	田 武 村 川 藤 田 々 中 原 野 沢					
			木			
0 (0, 0)						
(日立水戸勝田)						
					2	7
					20	0
					GK	CK
					FK	PK
					13	4
					16	0

< 関東大学リーグ 2部 >

9-29 対 日大 (御殿下G)

	FW	MF	BK	GK	交代	三田 (植村)
(東大)	宮 柴 森 遠 植 荒 佐 山 笠 天 吉					田中 (森井)
1 (0, 1)	武 田 井 藤 村 川 々 中 原 野 沢					
			木			
2 (1, 1)						
(日大)						
					9	5
					10	0
					GK	CK
					FK	PK
					7	3
					11	0

10- 7 対 拓大 (御殿下G)

	FW	MF	BK	GK	交代	森井 (三田)
(東大)	宮 柴 山 荒 遠 三 佐 山 笠 天 吉					田中 (山辺)
1 (0, 1)	武 田 辺 川 藤 田 々 中 原 野 沢					
			木			
2 (2, 0)						
(拓大)						
					6	5
					8	0
					GK	CK
					FK	PK
					7	7
					10	0

10-10 対 農大 (御殿下G)

	FW	MF	BK	GK	
(東大)	遠 宮 山 荒	佐 内 山 柴	尾 天 吉		
1 (0、1)	藤 武 辺 川	々 田 中 田	崎 野 沢		
		木		13	2 11 0
				GK	CK FK PK
1 (0、1)				3	13 9 0
(農大)					

10-14 対 学芸大 (御殿下G)

	FW	MF	BK	GK	交代
(東大)	山 宮 遠 荒	佐 内 山 柴	尾 天 吉		森井 (荒川)
1 (0、1)	辺 武 藤 川	々 田 中 田	崎 野 沢		田中 (山辺)
		木		7	13 11 0
				GK	CK FK PK
0 (0、0)				13	5 18 0
(学芸大)					

10-27 対 成城大 (御殿下G)

	FW	MF	BK	GK	交代
(東大)	植 宮 山 遠	佐 内 山 柴	尾 天 吉		森井 (山辺)
6 (3、3)	村 武 辺 藤	々 田 中 田	崎 野 沢		田中 (植村)
		木		7	8 18 0
				GK	CK FK PK
1 (1、0)				7	8 20 1
(成城大)					

10-31 対 上智大 (西が丘補助G)

	FW	MF	BK	GK	交代
(東大)	植 宮 山 遠	佐 内 山 柴	尾 天 吉		小野田 (天野)
2 (0、2)	村 武 辺 藤	々 田 中 田	崎 野 沢		森井 (植村)
		木		15	9 14 1
				GK	CK FK PK
1 (0、1)				7	12 14 0
(上智大)					

11・4 対 順天堂大 (御殿下G)

	FW	MF	BK	GK	交代	山辺 (植村)
(東大)	植 宮 遠 荒	佐 内 山 尾 柴 天 吉				田中 (遠藤)
1 (0、1)	村 武 藤 川	々 田 中 崎 田 野 沢				
		木			4	7 16 1
					GK	CK FK PK
2 (1、1)					9	7 10 0

(順天堂大)

以上の結果、関東大学リーグ 2 部で 4 位 (各校順位不詳) となった。

<天皇杯関東2次予選>

11-11 対 法政大 (西が丘球技場)

	FW	MF	BK	GK	交代	山辺 (植村)
(東大)	宮 植 遠 荒	内 佐 山 尾 柴 天 吉				笠原 (荒川)
1 (、)	武 村 藤 川	田 々 中 崎 田 野 沢				
		木			12	0 12 0
					GK	CK FK PK
1 (、)					8	17 14 0

(法政大)

両者譲らず、延長、PK戦となり、4—5で敗れる。

(下は 東大ゴール前の攻防)



1974(昭和49)年度

<春季対抗戦>

4-21 対 教育大 (東伏見G)

	FW	MF	BK	GK	交代	小野田 (池森)				
(東大)	宮 植 加 荒 柴 池 山 尾 田 天 吉					山辺 (加藤)				
3 (0、3)	武 村 藤 川 田 森 中 崎 中 野 沢				12	13	11	0		
					GK	CK	FK	PK		
1 (1、0)					5	3	10	0		
(教育大)										

4-28 対 早大 (東伏見G)

	FW	MF	BK	GK	交代	小野田 (田中)				
(東大)	宮 植 山 荒 池 田 山 尾 柴 天 吉									
0 (0、0)	武 村 辺 川 森 中 中 崎 田 野 沢				16	3	14	0		
					GK	CK	FK	PK		
0 (0、0)					4	11	18	0		
(早大)										

5- 3 対 青学大 (東伏見G)

	FW	MF	BK	GK	交代	小野田 (田中)				
(東大)	宮 植 荒 山 田 池 山 尾 柴 天 吉					加藤 (荒川)				
1 (0、1)	武 村 川 辺 中 森 中 崎 田 野 沢				14	1	9	0		
					GK	CK	FK	PK		
1 (0、1)					4	5	11	0		
(青学大)										

5- 6 対 明大 (大宮G)

	FW	MF	BK	GK	交代	山崎 (池森)				
(東大)	宮 植 荒 山 池 田 山 尾 柴 天 吉					加藤 (荒川)				
0 (0、0)	武 村 川 辺 森 中 中 崎 田 野 沢				12	6	19	0		
					GK	CK	FK	PK		
1 (1、0)					9	9	12	0		
(明大)										

< 対京大 定期戦 >

7- 6 (京大農学部G)

	FW	MF	BK	GK	交代	
(東大)	森 山 植 遠	佐 尾 山	笠 柴 天	吉		田中 (山辺)
1 (1、0)	井 辺 村 藤	々 崎 中	原 田 野	沢		牧野 (遠藤)
		木				
0 (0、0)						GK CK FK PK
(京大)						

<天皇杯 関東1次予選>

8-29 対 日産自動車 (新小安・日産G)

	FW	MF	BK	GK	交代	
(東大)	宮 植 森 遠	佐 山 山	笠 柴 天	吉		山辺 (森井)
1 (0、1)	武 村 井 藤	々 崎 中	原 田 野	沢		
		木				
0 (0、0)						14 1 13 0 12
(日産自動車)						GK CK FK PK S
						8 12 25 0 11

9- 1 対 東邦チタニウム (東大G)

	FW	MF	BK	GK	交代	
(東大)	宮 植 山 遠	佐 山 山	笠 柴 天	吉		牧野 (遠藤)
1 (、)	武 村 辺 藤	々 崎 中	原 田 野	沢		加藤 (山辺)
		木				
0 (0、0)						11 5 11 0 12
(東邦チタニウム)						GK CK FK PK S
						5 5 25 0 9

9-15 対 青学大 (姉ヶ崎運動公園G)

	FW	MF	BK	GK	交代	
(東大)	森 宮 山 遠	佐 尾 山	笠 柴 天	吉		池森 (尾崎)
3 (2、1)	井 武 辺 藤	々 崎 中	原 田 野	沢		牧野 (山辺)
0 (0、0)						13 5 10 0 12
(青学大)						GK CK FK PK S
						7 9 21 0 15

< 関東大学リーグ 2部 >

9-22 対 拓大 (東大G)

	FW	MF	BK	GK
(東大)	宮 植 森 遠	佐 山 山	笠 柴 天	吉
1 (1、0)	武 村 井 藤	々 崎 中	原 田 野	沢
		木		
2 (1、1)				
(拓大)				

交代					池森 (山崎)
					山辺 (植村)
9	4	26	0	11	
GK	CK	FK	PK	S	
7	8	19	0	16	

9-29 対 日大 (東大G)

	FW	MF	BK	GK
(東大)	宮 植 森 遠	佐 山 小	笠 柴 天	吉
0 (0、0)	武 村 井 藤	々 中 野	原 田 野	沢
		木		
3 (2、1)				
(日大)				

交代					尾崎 (森井)
					山崎 (佐々木)
12	5	16	0	13	
GK	CK	FK	PK	S	
9	5	9	0	28	

10- 5 対 一橋大 (幡ヶ谷・教育大G)

	FW	MF	BK	GK
(東大)	宮 植 森 遠	佐 尾 山	笠 柴 天	吉
2 (2、0)	武 村 井 藤	々 崎 中	原 田 野	沢
		木		
0 (0、0)				
(一橋大)				

交代					小野田 (天野)
					山辺 (森井)
7	8	23	0	16	
GK	CK	FK	PK	S	
7	4	19	0	15	

10-12 対 青学大 (東大G)

	FW	MF	BK	GK
(東大)	宮 植 森 遠	佐 尾 山	笠 柴 天	吉
2 (1、1)	武 村 井 藤	々 崎 中	原 田 野	沢
		木		
2 (2、0)				
(青学大)				

交代					田中 (森井)
					山辺 (佐々木)
3	6	7	0	15	
GK	CK	FK	PK	S	
9	10	11	0	12	

10-19 対 国士館大 (大宮 G)

	FW	MF	BK	GK	交代	
(東大)	宮 植 森 遠 佐 尾 山 笠 柴 天 吉					牧野 (森井)
1 (0、1)	武 村 井 藤 々 崎 中 原 田 野 沢					山崎 (遠藤)
		木				
						7 2 24 0 13
4 (1、3)						GK CK FK PK S
(国士館大)						8 7 16 0 22

10-26 対 順天堂大 (東大 G)

	FW	MF	BK	GK	交代	
(東大)	宮 植 遠 佐 尾 山 山 笠 柴 天 吉					小野田 (山崎)
0 (0、0)	武 村 藤 々 崎 崎 中 原 田 野 沢					
		木				
						16 4 10 0 12
0 (0、0)						GK CK FK PK S
(順天堂大)						12 7 14 0 10

11- 3 対 成城大 (東大 G)

	FW	MF	BK	GK	交代	
(東大)	加 植 宮 遠 佐 尾 山 笠 柴 天 吉					加藤 (植村)
4 (2、2)	藤 村 武 藤 々 崎 中 原 田 野 沢					山崎 (遠藤)
		木				
						9 9 16 0 16
3 (2、1)						GK CK FK PK S
(成城大)						10 2 16 0 14

以上の結果、関東大学リーグ 2部で 6位 (各校順位不詳) となった。

<天皇杯関東2次予選>

11-10 対 早大 (東伏見 G)

	FW	MF	BK	GK	交代	
(東大)	宮 植 遠 尾 佐 山 山 笠 柴 天 吉					田中 (山崎)
0 (0、0)	武 村 藤 崎 々 崎 中 原 田 野 沢					荒川 (遠藤)
1 (1、0)						12 1 12 0 2
(早大)						GK CK FK PK S
						6 7 14 0 20

1975(昭和50)年度

<春季対抗戦>

4-20 対東農大 (G)

交代 杉浦(加藤)、牧野(池田)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	植 宮 加 加 池 田 南 影 池 小 藤							
0 (0, 0)	村 武 藤 川 田 中 谷 本 森 野 原							
					田	13	3	16 0
1 (1, 0)						GK	CK	FK PK
(東農大)								

4-27 対日体大 (G)

交代 牧野(田中)、山崎(池田)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	加 宮 植 加 田 池 小 影 池 南 藤							
0 (0, 0)	藤 武 村 川 中 田 野 本 森 谷 原							
					田	14	2	25 0
1 (1, 0)						GK	CK	FK PK
(日体大)								

5-3 対順天堂大 (G)

交代 宮(池田)、森井(多田)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	牧 宮 植 加 田 池 多 影 池 南 藤							
0 (0, 0)	野 武 村 川 中 田 田 本 森 谷 原							
						12	4	11 1
2 (1, 1)						GK	CK	FK PK
(順天堂大)								

東大 0-2 拓大

<国公立大会>

準決勝 東大 0-2 学芸大

6-29 <対京大定期戦> (東大御殿下G)

	FW	HB	FB	GK	交代			
(東大)	加 宮 植 加 田 吉 影 小 南 池 藤				池田(加藤)			
2 (2, 0)	藤 武 村 川 中 野 本 野 谷 森 原				牧野(田中)			
					田	6	13	15 0
1 (1, 0)						GK	CK	FK PK
(京大)	山 田 杉 永 藤 佐 北 西 梅 藤 松							
	本 中 田 井 原 藤 原 田 田 多 岡				交代	芝田(山本)		
						高岡(藤原)		

<関東大学リーグ 2部>

東大 1-1 国士館大
 東大 0-1 拓大
 東大 1-2 明大
 東大 0-1 順天堂大
 東大 1-1 一橋大
 東大 0-0 立大
 東大 1-5 青学大

以上の結果、関東大学リーグ2部で6位（各校順位不詳）となる。

1976（昭和51）年度

<春季対抗戦>

東大 0-8 法大
 東大 0-2 筑波大
 東大 0-3 拓大

<国公立大会>

2回戦 東大 0-2 学芸大

7・4 <対京大定期戦> （京大農学部G）

	FW	HB	FB	GK	交代	井田（阿部）
（東大）	森 阿 平 吉	飯 池 潜	山 小 宮 青			加藤（森井）
1 (0, 1)	井 部 林 野	島 田 道	崎 野	山		
			田		9	5 14 0 12
					GK	CK FK PK S
3 (2, 1)	田 杉 宮 谷	藤 田 藤	梅 北 塩 松		3	8 11 0 14
（京大）	中 田 本 野	原 尻 田 田	原 見 岡	交代	中村（塩見）	
					石原（田尻）	

東大 1-3 京大（京大G）

<関東大学リーグ 2部>

東大 0-3 青学大
 東大 0-1 明大
 東大 0-3 順天堂大
 東大 0-5 国士館大
 東大 0-1 立大
 東大 3-0 一橋大
 東大 2-1 拓大

以上の結果、関東大学リーグ2部で6位（各校順位不詳）となる。

1977(昭和52)年度

＜春季对抗戦＞

4-10 対早大 (東伏見G)

交代 湊(牧野)

[illegible]

4-16 対日大 (東伏見G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	阿 牧 菊 飯 湊 宮 吉 本 猪 宮 青							
1 (0, 1)	部 野 池 島		野 庄 熊 崎 山		3	4	9	0
					GK	CK	FK	PK
3 (0, 3)					0	6	7	0
(日大)								

＜大学選手権＞

5-15 对早大 (御殿下G)

交代 井田陽(吉野)

[illegible]

6-26 <対京大定期戦> (東大御殿下G)

	FW		HB		FB		GK		交代	安藤 (湊)						
(東大)	平	牧	阿	飯	湊	宮	猪	宮	本	吉	青	佐藤 (本庄)				
1 (1、0)	林	野	部	島			熊	崎	庄	野	山	3	8	13	1	
												GK	CK	FK	PK	
0 (0、0)	石	藤	谷	高	宮	藤	中	崎	塩	北	佐	11	5	23	0	
(京大)	原	井	野	岡	本	原	村	山	見	原	藤	交代	大石 (佐藤)			

<天皇杯関東1次予選>

8-28 対山梨大 (御殿下G)

交代 山本(牧野)、柿木(湊)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	牧 阿 井 飯 湊 宮 青 井 宮 佐 青							
2 (0, 2)	野 部 田 島		山 田 崎 藤 山					
			市 陽		4	5	10	0
					GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)					16	3	9	0
(山梨大)								

9-4 対茨城大 (御殿下G)

交代 阿部(山本)、平林(牧野)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	山 牧 井 飯 湊 宮 猪 本 宮 吉 青							
5 (3, 2)	本 野 田 島		熊 庄 崎 野 山		4	10	8	0
					GK	CK	FK	PK
2 (0, 2)					13	8	14	0
(茨城大)								

<関東大学リーグ 2部>

9-25 対順天堂大 (御殿下G)

交代 井田(湊)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	牧 阿 平 飯 湊 宮 猪 本 宮 吉 青							
0 (0, 0)	野 部 林 島		熊 庄 崎 野 山		9	6	23	0
					GK	CK	FK	PK
2 (2, 0)					5	7	21	0
(順天堂大)								

10-2 対青学大 (御殿下G)

交代 井田(湊)、安藤(牧野)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	牧 阿 平 湊 飯 宮 猪 本 宮 吉 青							
0 (0, 0)	野 部 林 島		熊 庄 崎 野 山		7	6	11	0
					GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)					8	9	25	0
(青学大)								

10・9 対明治大 (駒沢G)

交代 井田(湊)、井田陽(宮)

	FW			HB		FB			GK						
(東大)	牧	阿	平	湊	飯	宮	猪	本	宮	吉	青				
0 (0、0)	野	部	林		島		熊	庄	崎	野	山	7	6	11	0
												GK	CK	FK	PK
6 (4、2)												8	9	25	0
(明治大)															

10・16 対慶應大 (東伏見G)

交代 井田(湊)、福田(牧野)

	FW			HB		FB			GK							
(東大)	平	牧	阿	湊	飯	宮	猪	井	宮	吉	青					
2 (2、0)	林	野	部		島		熊	田	崎	野	山					
												陽	12	0	16	0
													GK	CK	FK	PK
2 (0, 2)													14	14	7	0
(慶應大)																

10・31 対拓大 (御殿下G)

交代 井田(湊)

	FW			HB		FB			GK							
(東大)	牧	阿	平	湊	飯	宮	猪	井	宮	吉	青					
1 (0、1)	野	部	林		島		熊	田	崎	野	山					
												陽	9	5	16	0
													GK	CK	FK	PK
3 (1, 2)													14	6	17	0
(拓大)																

東大 1—3 専修大

東大 3—0 立大

その他 不詳

以上の結果、関東大学リーグ2部で7位(各校順位不詳)となり、東都1部と入替戦に。

<入替戦>

東大 1—2 立正大

この結果、東都1部に降格となった。

<天皇杯関東予選>

11-13 対中大 (御殿下G)

交代 山本(井田)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	牧 阿 井 湊 飯 宮 猪 井 宮 吉 吉							
0 (0, 0)	野 部 田 島 熊 田 崎 野 江							
			陽		8	3	9	0
					GK	CK	FK	PK
5 (2, 3)					6	6	10	0
(中大)								

1978 (昭和53)年度

<天皇杯1次>

4-16 対一橋大 (御殿下G)

交代 宮(山本)、平林(井田)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	清 山 菊 飯 佐 湊 井 青 吉 宮 吉							
PK 4	0 (0, 0)	水 本 池 島 藤 田 山 野 崎 江			3	2	20	0
					GK	CK	FK	PK
2	0 (0, 0)				9	5	10	0
(一橋大)								

4-23 対創価大 (御殿下G)

交代 平林(山崎)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	柿 菊 山 飯 湊 福 佐 青 吉 井 吉							
3 (3, 0)	木 池 崎 島 田 藤 山 野 田 江				6	9	8	0
					GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)					8	2	9	0
(創価大)								

7-9 <対京大定期戦> (京大農学部G)

	FW	HB	FB	GK	交代	福田(柿木)		
(東大)	飯 菊 山 柿 湊 宮 井 宮 安 吉 吉					坂田(安藤)		
0 (0, 0)	島 地 崎 木 田 崎 藤 野 江							
					GK	CK	FK	PK
3 (2, 1)	高 藤 坂 西 石 田 崎 吉 平 小 大							
(京大)	崎 井 下 浦 原 尻 山 貴 尾 笠 石				交代	勝山(坂下)		

<東都リーグ1部>

9-10 対上智大 (G)

交代 坂田(青山)、清水(柿木)

(東大) 飯 菊 柿 湊 吉 宮 井 安 青 宮 吉
 2 (1, 1) 島 地 木 野 崎 田 藤 山 江 5 1 13 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0, 0) 23 2 15 0
 (上智大)

9-16 対自由学園大 (G)

交代 山崎(清水)

(東大) 清 菊 飯 湊 坂 吉 宮 安 井 宮 吉
 1 (0, 1) 水 地 島 田 野 崎 藤 田 江 8 15 15 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (1, 1) 11 0 18 0
 (自由学園大)

9-23 対亜細亜大 (G)

交代 柿木(福沢)

(東大) 福 菊 飯 吉 湊 坂 宮 安 井 宮 吉
 0 (0, 0) 沢 地 島 野 田 崎 藤 田 江 13 8 11 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0, 0) 10 4 16 0
 (亜細亜大)

9-30 対明治学院大 (G)

交代 柿木(福田)

(東大) 福 菊 飯 湊 吉 坂 井 安 宮 宮 吉
 1 (1, 0) 田 地 島 野 田 田 藤 崎 江 13 5 16 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (1, 0) 3 8 24 0
 (明治学院大)

10- 8 対成蹊大 (G)

(東大) 飯 菊 福 湊 吉 坂 宮 安 井 宮 吉
 1 (0, 1) 島 地 田 野 田 崎 藤 田 江 11 7 12 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (1, 0) 14 5 17 0
 (成蹊大)

10-14 対学芸大 (G)

交代 青山(坂田)、平林(柿木)

(東大) 柿 菊 飯 坂 福 吉 宮 井 安 宮 吉
 1 (1, 0) 木 地 島 田 田 野 崎 田 藤 江 13 4 18 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (1, 1) 17 7 12 0
 (学芸大)

交代 湊 (菊池)

平 菊 飯 福 坂 吉 宮 井 安 宮 吉

FW	MF	DF	GK	GK	CK	FK	PK
----	----	----	----	----	----	----	----

9 5 15 0

以上の結果、東都大学リーグ1部で6位となった。

1979(昭和54)年度

<天皇杯1次予選>

4-15 対和光大 (G)

交代 川村(福田)、青山(井田)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	飯 福 平 福 湊 宮 飯 井 坂 菊 森							
4 (2, 2)	島 沢 林 田 崎 島 田 田 池 原							
	正		敦		2	11	12	0
					GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)					13	0	8	0
(和光大)								

4-22 対学習院大 (G)

交代 福田(菊池)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	飯 福 平 湊 飯 坂 宮 井 安 菊 森							
3 (1, 2)	島 沢 林 島 田 崎 田 藤 池 原							
	正	敦			11	7	11	0
					GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)					10	4	10	0
(学習院大)								

4-29 対帝京大 (G)

交代 川村(福田)、青山(井田)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	飯 福 平 福 飯 井 宮 坂 青 菊 森							
1 (0, 1)	島 沢 林 田 島 田 崎 田 山 池 原							
	正	敦			8	3	25	0
					GK	CK	FK	PK
3 (3, 0)					3	4	13	0
(帝京大)								

<春季対抗戦>

5-13 対亜細亜大 (G)

交代 川村(宮崎)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	飯 福 平 福 宮 飯 青 安 井 菊 森							
2 (0, 2)	島 沢 林 田 崎 島 山 藤 田 池 原							
	正	敦			14	1	10	0
					GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)					6	7	10	0
(亜細亜大)								

5-20 对上智大 (G)

交代 小林(福田)、川村(安藤)

	FW			HB		FB			GK				
(東大)	飯	福	平	橋	福	飯	青	安	宮	菊	森		
4 (2、2)	島	沢	林	本	田	島	山	藤	崎	池	原		
	正					敦							
0 (0, 0)													
(上智大)													
										8	7	6	0
										GK	CK	FK	PK
										6	5	11	0

6-2 对学芸大 (G)

	FW			HB			FB			GK			
(東大)	平	福	飯	福	坂	飯	安	青	宮	菊	森		
3 (1、2)	林	沢	島	田	田	島	藤	山	崎	池	原		
			正			敦							
1 (1, 0)													
(学芸大)													
										13	2	3	0
										GK	GK	FK	PK
										13	7	13	0

6-3 对農工大 (G)

交代 福田(橋本)

	FW			HB		FB			GK				
(東大)	飯	平	福	橋	坂	飯	安	菊	青	宮	森		
3 (2、1)	島	林	沢	本	田	島	藤	池	山	崎	原		
	正					敦							
2 (0、2)													
(農工大)													
										6	5	9	1
										GK	GK	FK	PK
										9	6	8	0

6-9 对都立大 (G)

交代 松元(植田)、橋本(福沢)、小林(飯島敦)、斎川(福田)、
佐藤(坂田)、大塚(安藤)、青山(宮崎)、志水(菊池)

	FW			HB		FB			GK				
(東大)	柿	植	福	飯	福	坂	川	安	宮	菊	森		
4 (2、2)	木	田	沢	島	田	田	村	藤	崎	池	原		
				敦									
1 (0、1)													
(都立大)													
										3	7	2	0
										GK	CK	FK	PK
										13	3	6	0

6-10 決勝 対青学大 (G)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	平 飯 福 飯 坂 福 青 宮 安 菊 森							
0 (0, 0)	林 島 沢 島 田 田 山 崎 藤 池 原							
	正 敦				20	4	11	0
					GK	CK	FK	PK
1 (1, 0)					6	5	12	1
(青学大)								

7- <対京大定期戦> (東大御殿下G) 交代 福田 (柿木)

(東大)	柿 福 飯 斎 坂 飯 青 宮 安 菊 森							
0 (0, 0)	木 田 島 川 田 島 山 崎 藤 地 原							
	正 敦				18	3	14	0
	FW	MF	DF	GK	GK	CK	FK	PK
4 (1, 3)					8	8	6	0
(京大)								

<東都大学リーグ1部>

9- 9 対立教大 (G) 交代 平林 (柿木)

(東大)	福 柿 飯 斎 飯 佐 宮 青 菊 井 西							
0 (0, 0)	沢 木 島 川 島 藤 崎 山 地 田 野							
	正 敦				13	3	18	0
	FW	MF	DF	GK	GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)					8	5	17	0
(立教大)								

9-24 対青学大 (G) 交代 坂間(佐藤)、小林 (平林)

(東大)	飯 福 平 飯 斎 佐 青 宮 安 菊 森							
0 (0, 0)	島 沢 林 島 川 藤 山 崎 藤 地 原							
	正 敦				14	1	20	0
	FW	MF	DF	GK	GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)					7	10	20	0
(青学大)								

10-10 対一橋大 (G) 交代 福田(宮崎)、湊 (飯島敦)

(東大)	飯 福 平 飯 斎 佐 井 青 宮 菊 西							
1 (1, 0)	島 沢 林 島 川 藤 田 山 崎 地 野							
	正 敦				8	7	21	0
	FW	MF	DF	GK	GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)					7	5	16	0
(一橋大)								

10-14 対帝京大 (G)

交代 福田(佐藤)、小林(湊)

(東大) 飯 福 平 湊 斎 佐 井 青 宮 菊 西

1 (1, 0) 島 沢 林 川 藤 田 山 崎 地 原

正

9 3 20 0

| FW MF DF GK GK CK FK PK

0 (0, 0)

7 9 12 0

(帝京大)

以上の結果、リーグ成績は6位か7位であった。

1980 (昭和55) 年度

<春季対抗戦>

6-1 対学習院大 (G)

交代 赤星(田中)

FW HB FB GK

(東大) 小 福 橋 斎 田 植 川 安 柴 坂 高

1 (,) 林 沢 本 川 中 田 村 藤 田 田 木 10 3 9 0

|

GK CK FK PK

4 (,)

(学習院大)

7-13 <対京大定期戦> (京大G)

(東大) 橋 福 赤 植 田 斎 飯 柴 安 坂 高

1 (,) 本 沢 星 田 中 川 島 田 藤 田 木 7 4 21 0

|

FW MF DF GK GK CK FK PK

3 (,)

(京大)

<関東大会> 準決勝 明学大に敗る。

<東都大学リーグ1部>

10-5 対学習院大 (G)

(東大) 田 福 橋 斎 木 植 川 坂 安 飯 高

4 (2, 2) 中 沢 本 川 下 田 村 田 藤 島 木 5 6 12 0

|

FW MF DF GK GK CK FK PK

2 (1, 1)

(学習院大)

10-12 対自由学園大 (G)

交代:赤星(田中)、清水(木下)

(東大) 橋 福 田 植 斎 木 川 坂 安 飯 高
 1 (1, 0) 本 沢 中 田 川 下 村 田 藤 島 木 4 6 11 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0, 0)
 (自由学園大)

10-19 対一橋大 (G)

(東大) 田 福 橋 木 斎 植 川 飯 安 坂 高
 2 (1, 1) 中 沢 本 下 川 田 村 島 藤 田 木 9 5 17 1
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (1, 1)
 (明治学院大)

以上の結果、リーグ戦績は、4位であった。

<関東大会>

11- 8 対千葉大 (G)

交代:中谷(田中)

(東大) 田 福 橋 斎 植 木 川 安 飯 坂 高
 3 (1, 2) 中 沢 本 川 田 下 村 藤 島 田 木 6 7 12 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (1, 0)
 (千葉大)

11- 対明治学院大 (G)

交代 清水(田中)

(東大) 田 福 橋 植 木 斎 川 安 飯 坂 高
 0 (0, 0) 中 沢 本 田 下 川 村 藤 島 田 木 8 4 13 1
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (0, 2)
 (学大)

1981 (昭和56) 年度

<天皇杯予選>

4-12 対創価大 (G)

交代 荒川(田中)、清水(中谷)

(東大) 田 福 橋 中 斎 植 志 柴 川 飯 高
 1 (0, 1) 中 沢 本 谷 川 田 水 田 村 島 木 3 5 7 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (1, 0)
 (創価大)

7・ <対京大定期戦> (東大御殿下G)

東大 2—1 京大

<東都大学リーグ1部> 5位

1982(昭和57)年度

7・ <対京大定期戦> (京大G)

東大 1—0 京大

<東都大学リーグ1部>

1983(昭和58)年度

<天皇杯予選>

4-10 対東京外語大 (G)

(東大) 赤 近 手 衛 萩 木 仙 牛 周 中 西
 4 (0, 4) 城 藤 嶋 藤 原 下 石 草 野 野 5 10 8 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (0, 1)
 (東京外語大)

4-17 対東経大 (G)

交代: 升本(手嶋)

(東大) 手 近 赤 衛 萩 木 牛 仙 周 中 西
 1 (1, 0) 嶋 藤 城 藤 原 下 草 石 野 野 5 8 6 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0, 0)
 (東経大)

4-24 対成蹊大 (G)

(東大) 手 近 赤 衛 萩 木 牛 仙 柴 中 西
 4 (0, 4) 嶋 藤 城 藤 原 下 草 石 田 野 野 9 6 14 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (0, 2)
 (成蹊大)

<春季対抗戦>

5・5 対成城大 (G)

(東大) 赤 上 衛 萩 木 牛 升 柴 仙 中 西
 0 (0, 0) 城 原 藤 原 下 草 本 田 石 野 野 9 4 22 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (0, 2)
 (成城大)

5-15 対帝京大 (G)

(東大) 赤 荒 上 久 衛 萩 仙 中 牛 周 西
 2 (1, 1) 城 川 原 井 藤 原 石 野 草 野 4 2 8 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0, 0)
 (帝京大)

5-22 対立教大 (G)

(東大) 荒 近 上 衛 久 萩 柴 牛 仙 中 西
 2 (1, 1) 川 藤 原 藤 井 原 田 草 石 野 野 4 9 6 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (1, 0)
 (立教大)

5-29 準決勝 対慶應大 (G)

(東大) 衛 近 荒 久 鈴 萩 仙 牛 伊 中 西
 2 (0, 2) 藤 藤 川 井 木 原 石 草 藤 野 野 5 3 10 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (0, 1)
 (慶應大)

6・5 決勝 対亜細亜大 (G)

(東大) 近 赤 荒 鈴 衛 萩 牛 伊 仙 中 西
 1 (1, 0) 藤 城 川 木 藤 原 草 藤 石 野 野 4 4 9 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (1, 1)
 (亜細亜大)

7-10 <対京大定期戦> (東大御殿下G) 交代 手嶋(赤城)、升本(木下)

(東大) 荒 近 赤 木 鈴 萩 仙 小 伊 中 西
 4 (2, 2) 川 藤 城 下 木 原 石 泉 藤 野 野 3 1 10 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (1, 0)
 (京大)

<東都大学リーグ1部>

9-11 対明治学院大 (G)

交代:吉村(手嶋)

(東大) 荒 近 手 木 萩 鈴 佐 仙 山 中 西
 0 (0, 0) 川 藤 嶋 下 原 木 藤 石 本 野 野 11 4 6 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (1, 0)

(明治学院大)

9-18 対立教大 (G)

交代:吉村(手嶋)、佐藤(伊藤)

(東大) 手 近 川 萩 木 鈴 仙 山 伊 中 西
 0 (0, 0) 嶋 藤 辺 原 下 木 石 本 藤 野 野 7 6 23 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (1, 0)

(立教大)

9-25 対上智大 (G)

(東大) 手 近 荒 萩 木 鈴 佐 仙 山 中 西
 0 (0, 0) 嶋 藤 川 原 下 木 藤 石 本 野 野 6 2 21 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (0, 2)

(上智大)

東大 1—0 東洋大

東大 0—1 専修大

10-23 対慶應大 (G)

交代 手嶋(上原)、近藤(川辺)

(東大) 上 川 鈴 升 久 萩 佐 山 中 木 西
 0 (0, 0) 原 辺 木 本 井 原 藤 本 野 下 野 6 4 14 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (0, 2)

(慶應大)

10-30 対学習院大 (G)

(東大) 川 近 手 鈴 升 萩 佐 山 木 中 西
 0 (0, 0) 辺 藤 嶋 木 本 原 藤 本 下 野 野 4 4 15 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (0, 1)

(学習院大)

以上の結果、リーグ最下位となり、東都2部に降格となった。

1984(昭和59)年度

<天皇杯予選>

4・8 対日大農獣医 (G)

交代 上原(笹口)、牛草(山本)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	笹 吉 衛 毛 鈴 久 佐 山 伊 小 永							
0 (、)	口 村 藤 利 木 井 藤 本 藤 泉 山				9	11	16	0
					GK	CK	FK	PK
1 (、)								
(日大農獣医)								

<春季対抗戦>

5・6 対東洋大 (自由学園大G)

交代 山下(近藤)、毛利(鈴木)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	衛 近 上 久 小 鈴 仙 牛 佐 山 永							
2 (、)	藤 藤 原 井 泉 木 石 草 藤 本 山				15	4	16	0
					GK	CK	FK	PK
1 (、)								
(東洋大)								

5-13 对上智大 (自由学園大G)

交代 山下(近藤)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	上 衛 近 久 小 毛 仙 牛 佐 山 永							
2 (、)	原 藤 藤 井 泉 利 石 草 藤 本 山				11	10	13	0
					GK	CK	FK	PK
1 (、)								
(上智大)								

5-20 対自由学園大 (自由学園大G)

交代 山下(近藤)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	衛 近 上 久 小 鈴 伊 牛 佐 山 永							
1 (、)	藤 藤 原 井 泉 木 藤 草 藤 本 山				3	6	5	0
					GK	CK	FK	PK
2 (、)								
(自由学園大)								

5-27 対明治学院大 (慶應大G) 交代 山下(上原)、鹿園(利重)、仙石(佐藤)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	衛 近 上 利 小 鈴 伊 牛 佐 山 永							
2 (、)	藤 藤 原 重 泉 木 藤 草 藤 本 山				5	6	17	0
					GK	CK	FK	PK
1 (、)								
(明治学院大)								

6-9 対成蹊大 (成蹊大G) 交代 山下(上原)、鹿園(牛草)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	衛 近 上 利 小 鈴 伊 牛 佐 山 永							
PK 4 2 (、)	藤 藤 原 重 泉 木 藤 草 藤 本 山				3	14	14	0
					GK	CK	FK	PK
3 2 (、)								
(成蹊大)								

6-23 準決勝 対学芸大 (G) 交代 外野(衛藤)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	衛 近 上 鹿 小 鈴 伊 牛 佐 利 永							
PK 5 2 (、)	藤 藤 原 園 泉 木 藤 草 藤 重 山				3	3	15	1
					GK	CK	FK	PK
6 2 (、)								
(学芸大)								

7-18 <対京大定期戦> (京大G) 交代 手嶋(上原)、久井(利重)

	FW	MF	DF	GK	CK	FK	PK
(東大)	上 近 衛 利 小 鈴 佐 牛 山 伊 永						
2 (1、1)	原 藤 藤 重 泉 木 藤 草 本 藤 山			4	14	27	1
				GK	CK	FK	PK
0 (0、0)							
(京大)							

<東都大学リーグ2部>

9-9 対武蔵工大 (自由学園大G) 交代 外野(衛藤)、久井(小泉)

	FW	MF	DF	GK	CK	FK	PK
(東大)	鹿 近 衛 利 小 鈴 仙 牛 山 伊 永						
5 (、)	園 藤 藤 重 泉 木 石 草 本 藤 山			8	9	10	0
				GK	CK	FK	PK
2 (、)							
(武蔵工大)							

9-15 対自由学園大 (自由学園大G)

交代 外野(衛藤)、森(仙石)

(東大) 鹿 近 衛 利 小 鈴 仙 牛 山 伊 永
 3 (、) 園 藤 藤 重 泉 木 石 草 本 藤 山 5 7 4 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (、)
 (自由学園大)

9-24 対東経大 (自由学園大G)

交代 外野(衛藤)、小栗(小泉)

(東大) 鹿 近 衛 利 小 鈴 仙 牛 山 伊 永
 5 (、) 園 藤 藤 重 泉 木 石 草 本 藤 山 8 6 12 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (、)
 (東経大)

9-30 対国学院大 (自由学園大G)

交代 外野(衛藤)

(東大) 鹿 近 衛 利 小 鈴 佐 牛 山 伊 永
 1 (、) 園 藤 藤 重 泉 木 藤 草 本 藤 山 8 6 12 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 3 (、)
 (国学院大)

10-7 対成城大 (G)

交代 外野(衛藤)

(東大) 鹿 近 衛 利 小 鈴 佐 牛 山 伊 永
 0 (0、0) 園 藤 藤 重 泉 木 藤 草 本 藤 山 7 9 20 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0、0)
 (成城大)

10-14 対成蹊大 (G)

交代 外野(鹿園)

(東大) 鹿 近 衛 久 小 鈴 仙 牛 山 佐 永
 0 (0、0) 園 藤 藤 井 泉 木 石 草 本 藤 山 7 6 13 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 3 (1、2)
 (成蹊大)

10-21 対立教大 (G)

交代 外野(衛藤)、山下(手嶋)

(東大) 手 近 衛 利 久 鈴 佐 牛 伊 山 永

0 (,) 嶋 藤 藤 重 井 木 藤 草 藤 本 山

| FW MF DF GK GK CK FK PK

0 (,)

(立教大)

以上の結果、東都大学リーグ2部で4位となる。

1985 (昭和60) 年度

<天皇杯予選>

4-7 対北里大 (G)

交代 手塚(久保田)、谷本(森)

FW HB FB GK

(東大) 上 鈴 外 鹿 久 利 森 佐 山 今 金

10 (6,4) 原 木 野 園 保 重 藤 本 井 子 2 17 7 0

| GK CK FK PK

0 (0,0)

(北里大)

4-14 対国学院大 (G)

FW HB FB GK

(東大) 上 鈴 外 鹿 久 利 森 佐 山 今 金

1 (0,1) 原 木 野 園 保 重 藤 本 井 子 10 6 16 0

| GK CK FK PK

1 (1,0)

(国学院大)

<春季対抗戦>

5-5 対拓大 (G)

交代 久保田(手塚)

FW HB FB GK

(東大) 外 上 手 利 鈴 鹿 小 今 佐 山 永

0 (0,0) 野 原 塚 重 木 園 泉 井 藤 本 山 12 7 5 0

| GK CK FK PK

0 (0,0)

(拓大)

5-12 対東洋大 (G)

交代 久保田(手塚)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	外 上 手 利 鈴 鹿 小 今 森 山 永							
1 (0, 1)	野 原 塚 重 木 園 泉 井 本 山				8	4	16	0
					GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)								
(東洋大)								

5-19 対立教大 (G)

交代 久保田(鈴木)

	FW	HB	FB	GK				
(東大)	外 上 手 利 鈴 鹿 小 森 佐 山 永							
0 (0, 0)	野 原 塚 重 木 園 泉 藤 本 山				7	6	18	0
					GK	CK	FK	PK
2 (1, 1)								
(立教大)								

7-14 <対京大定期戦> (東大検見川G)

交代 加藤(上原)、今井(森)

	FW	MF	DF	GK	GK	CK	FK	PK
(東大)	安 外 上 鹿 利 鈴 佐 森 小 山 永							
4 (2, 2)	田 野 原 園 重 木 藤 泉 本 山 1 9 14 0							
2 (1, 1)								
(京大)								

<東都大学リーグ2部>

9- 8 対成城大 (一橋大G)

	FW	MF	DF	GK	GK	CK	FK	PK
(東大)	久 安 外 利 鈴 今 上 山 佐 小 永							
2 (2, 0)	保 田 野 重 木 井 原 本 藤 泉 山							
2 (1, 1)								
(成城大)								

9-15 対一橋大 (G)

交代 鹿園(今井)

	FW	MF	DF	GK	GK	CK	FK	PK
(東大)	久 安 外 利 鈴 今 上 山 佐 小 永							
2 (0, 2)	保 田 野 重 木 井 原 本 藤 泉 山							
1 (0, 1)								
(一橋大)								

9-22 対日大文理 (G)

交代 鹿園(今井)

(東大) 久安外利鈴今上山佐小永
 3 (0, 3) 保田野重木井原本藤泉山
 田 8 6 8 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0, 0)
 (日大文理)

9-29 対立教大 (立教大G)

(東大) 久安外利鈴今上山佐小永
 1 (0, 1) 保田野重木井原本藤泉山
 田 5 4 12 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 3 (1, 2)
 (立教大)

10-6 対武蔵工大 (一橋大G)

交代 鹿園(久保田)、森(外野)

(東大) 久安外利鈴今上山佐小永
 6 (1, 5) 保田野重木井原本藤泉山
 田 7 12 25 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (1, 1)
 (武蔵工大)

10-13 対帝京大 (立教大G)

交代 牛草(久保田)

(東大) 久安外利鈴今上山佐小永
 2 (1, 1) 保田野重木井原本藤泉山
 田 3 7 9 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0, 0)
 (帝京大)

10-20 対亜細亜大 (一橋大G)

交代 鹿園(今井)

(東大) 久安外利鈴今上山佐小永
 3 (1, 2) 保田野重木井原本藤泉山
 田 12 4 16 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (0, 2)
 (成城大)

以上の結果、東都大学リーグ2部で優勝、1部に昇格となる。

1986 (昭和61) 年度

<天皇杯予選>

4-6 対東水産大 (明治学院大 G)

交代 谷本(佐藤)

(東大)	久	出	馬	鈴	今	加	利	斎	浜	佐	金						
4 (2, 2)	保	村	場	木	井	藤	重	木	田	藤	子						
	田											5	13	16	0		
			FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK			
0 (0, 0)												23	3	16	0		

(東水産大)

4-13 対明治学院大 (明治学院大 G)

交代 末長(久保田)

(東大)	出	久	馬	加	今	鈴	斎	浜	佐	利	山						
2 (2, 0)	村	保	場	藤	井	木	木	田	藤	重	口						
	田											13	5	12	0		
			FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK			
2 (1, 1)												7	6	9	0		

(明治学院大)

4-20 対立正大 (G)

交代 谷本(馬場)

(東大)	出	末	鈴	馬	今	加	浜	佐	利	斎	大						
0 (0, 0)	村	永	木	場	井	藤	田	藤	重	木	久						
											保	5	1	16	0		
			FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK			
1 (1, 0)												3	5	12	0		

(立正大)

<春季対抗戦>

5-4 対成城大 (G)

交代 佐藤(藤森)

(東大)	藤	馬	出	鈴	今	加	斎	利	浜	谷	金						
0 (0, 0)	森	場	村	木	井	藤	木	重	田	本	子	10	10	10	0		
			FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK			
1 (0, 1)												13	5	10	0		

(成城大)

5-18 対日大文理 (成蹊大 G)

交代 鹿園(久保田)

(東大)	内	久	今	加	住	鈴	鹿	末	佐	利	金						
1 (0, 1)	田	保	井	藤	谷	木	取	永	藤	重	子						
	田											14	9	26	0		
			FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK			
1 (0, 1)												12	10	16	0		

(日大文理)

対成蹊大 (G)

(東大)	鹿	内	今	鈴	住	加	利	佐	末	安	山				
0 (0, 0)	園	田	井	木	谷	藤	重	藤	永	藤	口	9	16	14	0
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK			
1 (1, 0)												16	4	9	0

(成蹊大)

7-13 <対京大定期戦> (京大G) 交代 金児(藤森)

(東大)	久	内	今	住	鈴	藤	鹿	佐	末	利	金				
4 (2, 2)	保	田	井	谷	木	森	取	藤	永	重	子				
	田											1	8	16	0
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK			
2 (1, 1)												6	5	15	0

(京大)

<東都大学リーグ1部>

9-10 対慶應大 (慶應大日吉G) 交代 外野(熊岡)、早野(久保田)

(東大)	内	久	熊	藤	今	鈴	金	佐	末	住	大				
1 (1, 0)	田	保	岡	森	井	木	児	藤	永	谷	久				
	田										保	11	0	12	0
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK			
4 (1, 3)												6	7	11	0

(慶應大)

9-14 対立正大 (成蹊大G) 交代 橋本(熊岡)、早野(久保田)

(東大)	内	久	熊	藤	鈴	金	佐	末	住	金					
2 (1, 1)	田	保	岡	森	木	児	藤	永	谷	子					
	田											6	4	17	0
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK			
0 (0, 0)												6	4	11	0

(立正大)

9-21 対東洋大 (拓大G)

(東大)	内	久	熊	藤	今	鈴	金	佐	末	住	金				
0 (0, 0)	田	保	岡	森	井	木	児	藤	永	谷	子				
	田											9	2	20	0
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK			
0 (0, 0)												7	1	25	0

(東洋大)

9-28 対拓大 (拓大G)

交代 橋本(熊岡)

(東大)	内 久 熊 藤 今 鈴 金 佐 末 利 金								
2 (2, 0)	田 保 岡 森 井 木 児 藤 永 重 子								
	田						8	5	12 0
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)							9	6	17 0

(拓大)

10- 5 对上智大 (成蹊大G)

交代 鹿園(藤森)

(東大)	内 久 熊 藤 今 鈴 金 佐 末 利 金								
0 (0, 0)	田 保 岡 森 井 木 児 藤 永 重 子								
	田						13	3	11 0
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)							7	10	12 0

(上智大)

10-12 対成蹊大 (成蹊大G)

交代 橋本(久保田)、鹿園(利重)

(東大)	内 久 熊 利 今 鈴 金 佐 末 住 金								
2 (2, 0)	田 保 岡 重 井 木 児 藤 永 谷 子								
	田						4	4	17 0
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK
1 (0, 1)							4	5	17 0

(成蹊大)

10-19 対国学院大 (成蹊大G)

交代 鹿園(熊岡)、? (利重)

(東大)	内 早 熊 利 今 鈴 金 佐 末 住 金								
1 (0, 1)	田 野 岡 重 井 木 児 藤 永 谷 子						12	5	7 0
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK
0 (0, 0)							6	5	17 0

(国学院大)

以上の結果、東都大学リーグ1部で 4位となった。

<関東大会>

11- 8 対茨城大 (駒沢補助G)

交代 鹿園(熊岡)

(東大)	熊 内 藤 今 鈴 利 金 住 末 佐 金								
延 1 (0,0,1)	岡 田 森 井 木 重 児 谷 永 藤 子						13	5	27 0
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK
0 (0,0,0)							8	4	20 0

(茨城大)

11・9 対立正大（駒沢第二G）

交代 早野（熊岡）

(東大)	熊	内	鹿	今	鈴	利	金	住	末	佐	金						
PK 6 0 (0、0、0)	岡	田	園	井	木	重	児	谷	永	藤	子	7	3	16	0		
			FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK	
5 0 (0、0、0)													3	5	17	0	
(立正大)																	

11・15 決勝 対慶應大（慶應大G）

交代 鹿取（藤森）

(東大)	熊	鹿	藤	今	鈴	利	金	住	末	佐	金						
1 (0, 1)	岡	園	森	井	木	重	児	谷	永	藤	子	14	3	9	0		
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
3 (3, 0)												5	8	12	0		
(慶應大)																	

11・29 <リーグ入替戦> 対学習院大（G）

交代：早野（熊岡）

(東大)	鹿	内	熊	利	今	鈴	金	佐	末	住	金						
0 (0, 0)	園	田	岡	重	井	木	児	藤	永	谷	子	6	3	18	0		
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
0 (0, 0)												2	3	19	0		
(学習院大)																	

この結果、一部に残留となる。

<関東大会>

1回戦 東大 1—0 茨城大

準決勝 東大 0—0 立正大 PK勝ち

決勝 東大 0—6 慶應大

1987（昭和62）年度

<天皇杯予選>

4・8 対東京電機大（G）

(東大)	早	内	熊	手	金	利	安	末	今	久	金						
4 (、)	野	田	岡	塚	児	重	藤	永	井	保	子						
										田		3	13	13	1		
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
1 (,)												20	1	4	0		
(東京電機大)																	

4-12 対武蔵大 (G)

交代 手塚(金児)

(東大)	熊	内	早	今	金	利	久	末	住	安	金						
1 (,)	岡	田	野	井	児	重	保	永	谷	藤	子						
							田					6	8	12	0		
	FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
0 (,)												13	2	9	0		
(武蔵大)																	

4-19 対拓大 (G)

交代 藤森(熊岡)

(東大)	早	内	久	今	利	熊	住	金	末	安	金						
0 (0, 0)	野	田	保	井	重	岡	谷	児	永	藤	子						
						田						10	2	13	0		
	FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
3 (0, 3)												16	3	14	1		
(拓大)																	

<春季対抗戦>

5-3 対一橋大 (G)

交代 磯村(黒木)、荒巻(末永孝)

(東大)	黒	藤	末	山	利	今	浜	谷	末	久	大						
1 (0, 1)	木	森	永	本	重	井	田	本	永	保	久						
			浩						孝	田	保	6	6	13	0		
	FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
2 (2, 0)												10	8	9	0		
(一橋大)																	

5-17 対立教大 (G)

交代 中村(熊岡)、浜田(今井)

(東大)	熊	内	早	藤	今	利	久	安	金	住	金						
1 (0, 1)	岡	田	野	森	井	重	保	藤	児	谷	子						
							田					5	3	16	0		
	FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
2 (2, 0)												7	5	12	0		
(立教大)																	

5-24 对上智大 (G)

交代 手塚(藤森)

(東大)	藤	内	中	熊	利	今	住	金	末	久	山						
1 (1, 0)	森	田	村	岡	重	井	谷	児	永	保	口						
										田		7	4	9	0		
	FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
0 (0, 0)												10	2	21	0		
(上智大)																	

7. <対京大定期戦> (東大検見川G)

東大 1-0 京大

<東都大学リーグ1部>

9-20 対日大文理 (G)

交代: 鈴木(小島)、外野(鹿取)

(東大) 今 内 小 鹿 鹿 利 久 住 末 金 金
 0 (0, 0) 井 田 島 取 園 重 保 谷 永 児 子
 | 田 6 4 25 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (1, 1) 13 1 12 1

(日大文理)

9-27 对上智大 (拓大G)

交代: 今井(住谷)

(東大) 外 内 利 鈴 鹿 鹿 住 金 末 久 金
 1 (1, 0) 野 田 重 木 園 取 谷 児 永 保 子
 | 田 10 4 23 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (0, 1) 8 2 22 0

(上智大)

10-4 対拓大 (拓大G)

(東大) 小 鹿 早 外 内 鈴 鹿 利 末 金 金
 1 (0, 1) 島 取 野 野 田 木 園 重 永 児 子 6 6 18 0 9
 | FW MF DF GK GK CK FK PK S
 1 (1, 0) 18 5 14 0 6

(拓大)

10-11 対立正大 (G)

交代: 今井(鹿園)

(東大) 小 鹿 早 外 内 鈴 鹿 利 末 金 金
 1 (1, 0) 島 取 野 野 田 木 園 重 永 児 子 11 6 21 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0, 0) 7 7 8 0

(立正大)

10-18 対専修大 (G)

交代: 久保田(早野)、今井(鹿取)

(東大) 小 鹿 早 外 内 鈴 鹿 利 末 金 金
 1 (1, 0) 島 取 野 野 田 木 園 重 永 児 子 12 7 20 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 0 (0, 0) 10 3 9 0

(専修大)

10-25 対成蹊大 (G)

交代:橋本(早野)、磯村(荒巻)

(東大)	荒	今	早	小	熊	鈴	久	金	利	山	金					
2 (1, 1)	巻	井	野	島	岡	木	保	児	重	口	子	4	5	20	0	
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
0 (0, 0)												11	3	18	0	

(成蹊大)

他の試合は不明。

リーグ戦の結果は、 2位 (?) であった。

<関東大会>

11- 7 対千葉大 (G)

交代:住谷(鹿取)

(東大)	内	外	早	鹿	小	鈴	利	末	鹿	金	大					
0 (0, 0)	田	野	野	取	島	木	重	永	園	児	久					
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
1 (1, 0)												6	7	16	0	
												16	0	20	0	

(千葉大)

・ 対茨城大 (PK敗)

1988(昭和63)年度

<天皇杯予選>

4・3 対東工大(東京商船大G)

(東大)	熊	津	内	山	鹿	小	住	横	金	吉	大								
2(1,1)	岡	村	田	口	取	島	谷	井	児	岡	久								
												保	3	5	16	0	18		
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK	S				
1(1,0)												11	2	8	0	11			
(東工大)																			

4・10 対国学院大(東洋大G) 交代 手塚(熊岡)、岡田(磯村)、洋岡(大久保)

(東大)	内	熊	山	小	磯	鹿	横	金	吉	住	大								
0(0,0)	田	岡	口	島	村	取	井	児	岡	谷	久								
												保	5	2	17	0			
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
2(1,1)												2	3	6	0				
(国学院大)																			

<春季対抗戦>

5・1 対武蔵大(拓大G) 交代 中村(磯村)、手塚(熊岡)、斎木(横井)

(東大)	磯	内	熊	鹿	小	山	横	金	住	小									
3(2,1)	村	田	岡	取	島	口	井	児	谷	幡	9	7	13	0					
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
0(0,0)											6	3	10	0					
(武蔵大)																			

5・15 対国学院大(拓大G) 交代 手塚(熊岡)、中村(磯村)

(東大)	熊	内	磯	小	鹿	山	安	金	住	吉	小								
2(1,1)	岡	田	村	島	取	口	藤	児	谷	岡	幡	16	5	8	0				
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
1(0,1)												5	3	5	0				
(国学院大)																			

7・10 <対京大定期戦> (京大G)

(東大)	早	内	蜷	鹿	小	山	鹿	金	住	安	天								
0(0,0)	野	田	川	取	島	口	園	児	谷	藤	野	13	7	17	0				
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
0(0,0)												14	6	13	0				
(京大)																			

<東都大学リーグ1部>

9-11 対拓大 (東大農学部 G)

(東大)	手	内	児	蟻	小	山	鹿	住	金	鹿	天								
2 (1, 1)	塚	田	玉	川	島	口	園	谷	児	取	野	5	3	28	0				
			FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
4 (0, 4)												4	7	12	0				
(拓大)																			

9-18 対日大文理 (東大農学部 G) 交代：早野 (児玉)

(東大)	内	手	小	蟻	山	児	鹿	金	鹿	住	天								
2 (2, 0)	田	塚	島	川	口	玉	取	児	園	谷	野	9	4	9	0				
			FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
2 (1, 1)												1	1	16	0				
(日大文理)																			

9-25 对上智大 (東大農学部 G) 交代：稲村 (手塚)

(東大)	手	内	小	山	蟻	児	住	金	鹿	鹿	天								
1 (0, 1)	塚	田	島	口	川	玉	谷	児	園	取	野	3	3	28	0				
			FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
0 (0, 0)												6	5	17					
(上智大)																			

10- 2 対明治学院大 (明治学院大 G) 交代：早野 (手塚)

(東大)	内	手	小	蟻	児	山	鹿	住	鹿	金	天								
2 (0, 2)	田	塚	島	川	玉	口	園	谷	取	児	野	3	8	7	0				
			FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
5 (1, 4)												9	4	15	0				
(明治学院大)																			

10- 9 対立正大 (東大農学部 G) 交代：稲村 (手塚)

(東大)	手	内	早	蟻	山	小	鹿	鹿	住	金	天								
2 (1, 1)	塚	田	野	川	口	島	取	園	谷	児	野	8	2	15	0				
			FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK				
4 (1, 3)												7	4	5	0				
(立正大)																			

10-16 対学習院大 (東大農学部 G)

交代:早野 (児玉)

(東大)	手	内	蟻	山	児	小	住	鹿	鹿	金	天						
1 (0, 1)	塚	田	川	口	玉	島	谷	園	取	児	野	9	1	16	0		
	FW				MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
1 (0, 1)																	

(学習院大)

10-23 対専修大 (東大農学部 G)

交代:早野 (児玉)、稲村(手塚)

(東大)	手	内	児	蟻	山	小	金	住	鹿	鹿	天						
1 (0, 1)	塚	田	玉	川	口	島	児	谷	取	園	野	8	1	15	0		
	FW				MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
1 (1, 0)												3	5	8	0		

以上の結果、東都大学リーグ1部で 7 位、2 部との入替戦となる。

11- 5 <入替戦>

対東洋大 (駒沢第二 G)

交代:手塚(早野)

(東大)	稲	内	早	蟻	小	山	鹿	金	住	鹿	天						
0 (0, 0)	村	田	野	川	島	口	取	児	谷	取	野	4	4	19	0		
	FW				MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
0 (0, 0)												12	3	17	0		

11-13 <入替戦再試合>

対東洋大 (東大農学部 G)

交代:早野 (手塚)

(東大)	内	手	稲	蟻	小	山	鹿	住	金	鹿	天						
1 (0, 1)	田	塚	村	川	島	口	園	谷	児	取	野	7	5	16	0		
	FW				MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
1 (1, 0)												4	4	17	0		

11-13 再試合 東大 1—1 東洋大 (東大農学部 G)

この結果、1 部に残留となる。

1989 (平成 元) 年度

<天皇杯予選>

4- 2 対日大農獣医 (G)

(東大)	稲	加	手	蟻	小	山	鹿	前	金	住	平						
2 (,)	村	藤	塚	川	島	口	取	沢	児	谷	岡	12	6	14	0		
	FW				MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
1 (,)												10	8	10	0		

(日大農獣医)

4-9 対立教大 (G)

交代 加藤(手塚)、磯村(蜷川)

(東大)	手	内	稲	蜷	小	山	荻	前	金	住	平						
PK1	1	(	,	)	塚	田	村	川	島	口	野	沢	児	谷	岡	9	2 13 0
					FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK
4	1	(	,	)												4	3 5 0
(立教大)																	

4-16 対専修大 (G)

交代 荻野(小島)

(東大)	手	内	稲	蜷	小	山	鹿	前	住	金	平						
PK1	1	(	,	)	塚	田	村	川	島	口	取	沢	谷	児	岡	14	0 18 0
					FW			MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK
3	1	(	,	)												2	7 8 0
(専修大)																	

<関東選手権>

4-29 対慶應大 (G)

交代 荻野(手塚)

(東大)	内	手	稲	蜷	小	山	鹿	前	金	住	平						
0 (、)	田	塚	村	川	島	口	取	沢	児	谷	岡	19	3	25	0		
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
0 (、)												3	9	16	0		
(慶應大)																	

4-30 対法政大 (G)

交代 加藤(手塚)

(東大)	内	手	稲	蜷	小	山	鹿	前	金	住	平						
0 (、)	田	塚	村	川	島	口	取	沢	児	谷	岡	21	3	22	0		
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
3 (、)												1	9	11	0		
(法政大)																	

<関東選手権>

5-7 対群馬大 (G)

交代 荻野(鹿取)

(東大)	内	手	稲	蜷	小	山	前	鹿	金	住	平						
2 (、)	田	塚	村	川	島	口	沢	取	児	谷	岡	21	2	12	0		
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK		
0 (、)												3	6	14	0		
(群馬大)																	

<春季対抗戦>

5-21 对上智大 (G)

交代 津村(手塚)、橋本(稲村)

(東大)	内	手	稲	鹿	山	山	前	金	住	荻	天						
2 (、)	田	塚	村	取	田	口	沢	取	谷	野	野	8	4	16	0		
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK					
1 (,)												13	2	10	0		

(上智大)

5-28 对帝京大 (G)

(東大)	内	手	稲	蜷	小	山	前	住	金	鹿	天						
2 (、)	田	塚	村	川	島	口	沢	谷	児	取	野	24	5	17	0		
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK					
0 (,)												4	7	13	0		

(帝京大)

6-4 对専修大 (東大G)

交代 荻野(鹿取)

(東大)	手	内	津	蜷	小	山	前	鹿	金	住	天						
2 (、)	塚	田	村	川	島	口	沢	取	児	谷	野	10	3	20	0		
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK					
4 (,)												7	9	6	0		

(専修大)

6-10 对創価大 (G)

交代 荻野(鹿取)、山田(手塚)

(東大)	内	手	津	蜷	小	山	前	金	住	鹿	平						
1 (、)	田	塚	村	川	島	口	沢	児	谷	取	岡	7	2	23	0		
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK					
4 (,)												2	6	5	0		

(創価大)

7-9 <対京大定期戦> (東大G)

交代 稲村(手塚)

(東大)	手	内	津	蜷	小	山	前	住	金	前	大						
1 (、)	塚	田	村	川	島	口	沢	谷	児	田	久						
											保	6	3	13	0		
	FW		MF		DF		GK		GK	CK	FK	PK					
1 (,)												4	2	6	0		

(京大)

<東都大学リーグ1部>

9-10 対立正大 (G)

交代 山田(津村)

(東大)	内	手	津	蟻	山	小	前	清	住	金	天						
0 (、)	田	塚	村	川	口	島	沢	水	谷	児	野	7	3	10	0		
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK			
3 (,)												4	5	9	0		
(立正大)																	

対拓大 (G)

交代 山田(蟻川)、瀬戸(手塚)

(東大)	内	手	津	蟻	山	小	前	住	清	金	天						
1 (、)	田	塚	村	川	口	島	沢	谷	水	児	野	11	9	9	0		
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK			
1 (,)												7	4	10	0		
(拓大)																	

9-29 対明治学院大 (G)

交代 山田(手塚)、瀬戸(津村)

(東大)	内	手	津	蟻	山	小	前	清	住	金	大						
0 (、)	田	塚	村	川	口	島	沢	水	谷	児	久						
											保	9	1	16	0		
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK			
0 (,)												11	6	5	0		
(明治学院大)																	

10- 1 対学習院大 (G)

交代 山田(津村)、上杉(山口)

(東大)	内	瀬	津	蟻	山	小	前	清	住	金	大						
1 (、)	田	戸	村	川	口	島	沢	水	谷	児	久						
											保	12	3	21	0		
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK			
1 (,)												7	1	19	0		
(学習院大)																	

10- 8 対亜細亜大 (G)

交代 上杉(津村)

(東大)	内	瀬	津	蟻	山	小	前	清	住	金	大						
1 (、)	田	戸	村	川	口	島	沢	水	谷	児	久						
											保	12	6	22	0		
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK			
0 (,)												6	5	18	0		
(亜細亜大)																	

10-15 対専修大 (G)

交代 上杉(津村)、中村(山口)

(東大)	内	瀬	蟻	津	山	小	前	清	金	住	大								
0 (,)	田	戸	川	村	口	島	沢	水	児	谷	久								
												保	16	3	33	0			
		FW		MF				DF				GK	GK	CK	FK	PK			
1 (,)													7	5	13	0			
(専修大)																			

10-22 対日大文理 (G)

交代 山田(津村)

(東大)	内	瀬	津	蟻	山	小	前	清	住	金	大								
2 (,)	田	戸	村	川	口	島	沢	水	谷	児	久								
												保	13	5	15	0			
		FW		MF				DF				GK	GK	CK	FK	PK			
3 (,)													5	7	13	0			
(日大文理)																			

以上の結果、東都大学リーグ1部で 6 位となった。

1990 (平成 2) 年度

<天皇杯予選>

4- 1 対東外大 (東大G)

交代 黒岩(上杉)、星川(宮部)

(東大)	上	瀬	蟻	宮	津	小	大	中	清	前	天								
1 (,)	杉	戸	川	部	村	島	西	村	水	沢	野	2	5	16	0				
		FW		MF				DF				GK	GK	CK	FK	PK			
0 (,)													12	1	12	0			
(東外大)																			

4- 8 対日大文理 (東大G)

交代 星川(上杉)

(東大)	上	瀬	津	黒	宮	小	大	中	清	前	天								
1 (,)	杉	戸	村	岩	部	島	西	村	水	沢	野	9	10	26	0				
		FW		MF				DF				GK	GK	CK	FK	PK			
1 (,)													8	5	16	0			
(日大文理)																			

<春季対抗戦>

5・20 対日大文理 (東大G)

(東大)	黒	津	稲	山	宮	山	小	中	清	前	天								
2 (、)	岩	村	村	田	部	口	島	村	水	沢	野	7	3	17	0				
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
0 (,)												8	7	9	0				
(日大文理)																			

5・27 对上智大 (東大G)

(東大)	瀬	黒	津	山	宮	小	山	中	清	前	平								
4 (、)	戸	岩	村	田	部	島	口	村	水	沢	岡	10	1	14	0				
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
2 (,)												9	5	13	0				
(上智大)																			

6・2 対明治学院大 (東大G) 交代 稲村(蟻川)、星川(津村)

(東大)	黒	瀬	蟻	津	宮	小	山	中	清	前	平								
1 (、)	岩	戸	川	村	部	島	口	村	水	沢	岡	6	4	12	0				
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
2 (,)												20	1	17	0				
(明治学院大)																			

7・8 <対京大定期戦> (京大G) 交代 星川(津村)

(東大)	瀬	黒	宮	蟻	小	津	山	中	清	前	天								
0 (、)	戸	岩	部	川	島	村	口	村	水	沢	野	6	4	12	0				
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
1 (,)												13	2	14	0				
(京大)																			

<東都大学リーグ1部>

9・9 対立正大 (東大G)

(東大)	瀬	黒	稲	津	宮	小	星	住	清	前	平								
0 (、)	戸	岩	村	村	部	島	川	谷	水	沢	岡	11	1	15	0				
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
1 (,)												5	8	4	0				
(立正大)																			

9-16 対亜細亜大 (東大G)

交代 蟻川(津村)

(東大)	瀬	黒	稲	津	宮	小	星	住	清	前	平								
3 (、)	戸	岩	村	村	部	島	川	谷	水	沢	岡	1	5	16	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
2 (,)												3	2	16	0				

(亜細亜大)

9-23 対成蹊大 (拓大G)

交代 津村(山田)、宮部(稲村)

(東大)	瀬	黒	蟻	稲	山	小	星	住	前	前	平								
0 (、)	戸	岩	川	村	田	島	川	谷	田	沢	岡	5	9	13	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
0 (,)												13	5	7	0				

(成蹊大)

9-30 対拓大 (拓大G)

(東大)	瀬	黒	稲	津	宮	小	星	住	清	前	平								
1 (、)	戸	岩	村	村	部	島	川	谷	水	沢	岡	11	4	16	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
0 (,)												6	0	6	0				

(拓大)

10- 7 対学習院大 (明治学院G)

(東大)	瀬	黒	蟻	稲	宮	小	星	住	清	前	平								
1 (、)	戸	岩	川	村	部	島	川	谷	水	沢	岡	10	1	23	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
2 (,)												3	8	21	0				

(学習院大)

10-14 対創価大 (明治学院G)

交代 山口(蟻川)、津村(稲村)

(東大)	瀬	黒	宮	蟻	稲	小	星	住	清	前	平								
1 (、)	戸	岩	部	川	村	島	川	谷	水	沢	岡	10	3	15	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
1 (,)												8	4	11	0				

(創価大)

10-21 対明治学院大 (明治学院大G)

交代 蟻川(津村)

(東大)	瀬	黒	津	宮	稲	小	星	住	清	前	平								
2 (、)	戸	岩	村	部	村	島	川	谷	水	沢	岡	2	8	25	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
2 (,)												8	5	20	0				

(明治学院大)

以上の結果、東都大学リーグ1部で 4位となった。

<関東大会>

11-10 対関東学院大 (立教大G)

交代 蟻川(津村)

(東大) 瀬 黒 津 稲 宮 小 星 住 清 前 平
 0 (、) 戸 岩 村 村 部 島 川 谷 水 沢 岡 17 3 17 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (,) 8 4 8 0
 (関東学院大)

1991 (平成 3) 年度

<天皇杯予選>

3-31 対櫻美林大 (東大G)

交代 片山(上杉)

(東大) 上 瀬 稲 宮 黒 星 荻 前 嶋 前 天
 1 (、) 杉 戸 村 部 岩 川 野 沢 田 沢 野 3 1 6 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (,) 2 3 8 0
 (櫻美林大)

<春季対抗戦>

5-19 対明治学院大 (東大G)

(東大) 黒 上 宮 大 小 清 荻 星 前 天
 3 (、) 岩 杉 部 西 松 水 野 川 沢 野 4 1 10 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 2 (,) 1 1 10 0
 (明治学院大)

5-26 対国学院大 (東大G)

交代 信国(小松)

(東大) 黒 上 宮 大 小 清 荻 星 前 天
 2 (、) 岩 杉 部 西 松 水 野 川 沢 野 10 2 13 0
 | FW MF DF GK GK CK FK PK
 1 (,) 9 11 16 1
 (国学院大)

6-2 対創価大 (東大G)

交代 瀬戸(小松)

(東大)	上	黒	稲	宮	小	清	星	前	前	萩	天								
3 (、)	杉	岩	村	部	松	水	川	沢	田	野	野	4	0	14	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
5 (、)												3	4	13	0				

(創価大)

7- <対京大定期戦> (東大G)

東大 0-0 京大

<東都大学リーグ1部>

9-8 東大 3-0 成蹊大

9-15 対拓大 (東洋大G)

交代 黒岩(瀬戸)、蟻川(稲村)

(東大)	瀬	宮	信	稲	西	清	前	前	星	中	天								
1 (、)	戸	部	国	村	原	水	沢	田	川	村	野	9	9	12	1				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
0 (、)												7	7	6	0				

(拓大)

9-22 対東洋大 (東洋大G)

交代 蟻川(稲村)

(東大)	瀬	宮	西	稲	信	清	前	星	前	中	天								
0 (、)	戸	部	原	村	国	水	沢	川	田	村	野	9	4	20	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
0 (、)												5	3	11	0				

(東洋大)

9-29 対帝京大 (東大G)

(東大)	瀬	宮	西	信	稲	清	星	前	中	前	天								
2 (、)	戸	部	原	国	村	水	川	沢	村	田	野	8	6	22	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
1 (、)												11	5	10	0				

(帝京大)

10-6 対立正大 (東大G)

(東大)	宮	瀬	西	信	稲	清	前	中	星	前	天								
1 (、)	部	戸	原	国	村	水	沢	村	川	田	野	10	2	15	0				
		FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK				
4 (、)												3	4	19	0				

(立正大)

10-13 対創価大 (東大G)

交代 蟠川(黒岩)、来住(稲村)

(東大)	瀬	黒	宮	信	稲	清	中	星	前	前	天								
0 (、)	戸	岩	部	国	村	水	村	川	田	沢	野	13	4	10	0				
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
3 (,)												3	1	10	0				
(創価大)																			

10-20 対学習院大 (東大G)

交代 萩野(中村)

稲村・退場

(東大)	黒	瀬	稲	宮	信	清	前	星	前	中	天								
4 (、)	岩	戸	村	部	国	水	沢	川	田	村	野	10	0	53	0				
		FW		MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK					
1 (,)												4	4	12	0				
(学習院大)																			

以上の結果、東都大学リーグ1部で 4位となった。

1992 (平成 4) 年度

7- <対京大定期戦> (京大G)

東大 1-1 京大

<東都大学リーグ1部>

結果は、東都大学リーグ1部で 4位。

1993(平成5)年度

<春季対抗戦>

6・6 対東洋大(東大G)

交代 大石(霜島)

(東大)	瀬	来	高	森	日	信	渡	布	霜	前	有								
2(、)	戸	住	橋	田	置	国	辺	瀬	島	川	馬								
								川								8	0	16	0
		FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK						
1(、)																5	10	11	0
(東洋大)																			

9・4 <対京大定期戦> (東大G)

(東大)	瀬	来	高	森	西	信	渡	布	霜	前	有								
0(、)	戸	住	橋	田	原	国	辺	瀬	島	川	馬								
								川								8	1	5	0
		FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK						
3(、)																6	10	0	
(京大)																			

<東都大学リーグ1部>

10・3 対明治学院大(東大G)

交代 服部(宮沢)

(東大)	瀬	来	西	宮	信	渡	竹	布	霜	前	有								
0(、)	戸	住	原	沢	国	辺	内	瀬	島	川	馬								
								川								4	4	15	0
		FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK						
3(、)																8	4	5	1
(明治学院大)																			

10・10 対創価大(東大G)

交代 服部(森田)

(東大)	瀬	来	西	森	信	渡	竹	高	霜	前	有								
1(、)	戸	住	原	田	国	辺	内	橋	島	川	馬					6	3	16	0
		FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK						
4(、)																4	3	25	0
(創価大)																			

10・10 対創価大(東大G)

交代 服部(森田)

(東大)	瀬	来	西	森	信	渡	竹	高	霜	前	有								
1(、)	戸	住	原	田	国	辺	内	橋	島	川	馬					6	3	16	0
		FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK						
4(、)																4	3	25	0
(創価大)																			

その他の試合は、不明。

結果は、東都大学リーグ1部で 8 位。 2 部に自動降格となる。

1994 (平成 6) 年度

<春季対抗戦>

5・29 対帝京大 (G)

交代 宮沢(江村)、秋山(増淵)

(東大)	瀬	江	森	増	渡	信	来	竹	島	前	有				
3 (,)	戸	村	田	淵	辺	国	住	内	川	馬	4	1	14	0	
	FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK			
0 (,)											0	3	10	0	
(帝京大)															

6・5 対創価大 (G)

交代 森田(宮沢)、矢野(竹内)

(東大)	瀬	江	宮	増	渡	信	来	竹	島	前	有				
1 (,)	戸	村	田	淵	辺	国	住	内	川	馬	2	2	18	0	
	FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK			
1 (,)											5	2	13	0	
(創価大)															

7・ <対京大定期戦> (京大 G)

東大 0—1 京大

<東都大学リーグ2部>

9・11 対国学院大 (G)

交代 大川(瀬戸)

(東大)	宮	瀬	今	渡	増	信	来	竹	島	前	有				
0 (,)	沢	戸	井	辺	淵	国	住	内	川	馬	7	3	11	0	
	FW		MF			DF		GK	GK	CK	FK	PK			
0 (,)											16	2	5	0	
(国学院大)															

9・18 東大 2—0 玉川大 (東大農学部 G)

10・2 対日大文理 (G)

交代 服部(渡辺)

(東大) 宮 瀬 森 渡 増 信 来 竹 島 前 有

0 (,) 沢 戸 田 辺 淵 国 住 内 川 馬 2 7 4 0

| FW MF DF GK GK CK FK PK

1 (,) 3 7 1 0

(日大文理)

10・9 対成蹊大 (G)

交代 矢野(島)

(東大) 来 瀬 大 宮 渡 信 増 竹 島 前 有

1 (,) 住 戸 川 沢 辺 国 淵 内 川 馬 7 2 7 0

| FW MF DF GK GK CK FK PK

0 (,) 2 3 6 0

(成蹊大)

10・16 東大 1—1 大東文化大 (東大農学部 G)

10・23 対創価大 (東大 G)

(東大) 来 瀬 大 宮 渡 信 増 竹 矢 前 有

0 (,) 住 戸 川 沢 辺 国 淵 内 野 川 馬 7 1 5 0

| FW MF DF GK GK CK FK PK

0 (,) 2 4 4 0

(創価大)

以上の結果、東都大学リーグ2部で 位となった。

1995 (平成 7) 年度

7・ <対京大定期戦> (東大 G)

東大 3—4 京大

<東都大学リーグ2部>

9・10 東大 2—0 日大文理 (東大農学部 G)

9・24 東大 1—0 帝京大 (帝京大 G)

10・1 東大 0—0 立大 (東大農学部 G)

10・8 東大 東京経済大 (帝京大 G)

10・15 東大 0—0 一橋大 (一橋大 G)

10・22 東大 日大獣医 (東大農学部 G)

10・29 東大 明治学院大 (東大農学部 G)

結果は、東都大学リーグ2部で 2位、1部との入替戦に臨むも、

東大 1—1 創価大 で、結局 1部に昇格は 成らなかった。

1996(平成8)年度

7・ <対京大定期戦> (京大G)

東大 1—0 京大

<東都大学リーグ2部>

9・15 対大東文化大 (東大G)

(東大)	川	樋	原	安	越	服	大	竹	矢	新	多						
2 (、)	人	渡	田	部	部	部	谷	内	野	倉	留	9	3	10	0		
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK			
0 (、)												4	3	14	0		
(大東文化大)																	

9・29 対帝京大 (帝京大G)

(東大)	川	樋	原	安	越	服	大	竹	矢	新	多						
0 (、)	人	渡	田	部	部	部	谷	内	野	倉	留	9	3	16	0		
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK			
1 (、)												4	5	13	0		
(帝京大)																	

10・6 対国学院大 (東大G)

(東大)	樋	川	原	安	越	服	大	竹	矢	新	多						
1 (、)	渡	人	田	部	部	部	谷	内	野	倉	留	6	5	16	0		
	FW			MF				DF		GK	GK	CK	FK	PK			
0 (、)												13	8	9	0		
(国学院大)																	

東大 0—1 立大

東大 0—1 一橋大

10・27 東大 成蹊大 (東大農学部G)

11・3 東大 東工大 (東大農学部G)

以上の結果、東都大学リーグ2部で6位。3部との入替戦となり、3部の明星大と対戦。

東大 3—1 明星大 で、2部にとどまる事となった。

1997(平成9)年度

— この年は 吉田監督が退任となり、そのあと、学生の強い意志で、監督を置かず、学生による運営を行うこととなった。 —

<春季対抗戦>

3-23 対明治学院大 (東大G)

交代 手塚(萩原)、増田(永井)

(東大)	萩	川	樋	新	小	永	秋	大	矢	宮									
0 (,)	原	人	渡	倉	林	井	山	谷	野	川	6	0	20	0					
		FW			MF				DF	GK	GK	CK	FK	PK					
5 (,)											3	2	5	0					

(明治学院大)

7-6 <対京大定期戦> (東大G) **交代** 安部(川人)、小林(越部)、萩原(新倉)

(東大)	川	樋	越	新	端	大	足	飯	矢	秋	宮								
3 (1, 2)	人	渡	部	倉	本	谷	立	島	野	山	川	9	5	8	0	14			
		FW			MF				DF	GK	GK	CK	FK	PK	S				
0 (0, 0)											15	2	8	0	10				

(京大)

<東都大学リーグ2部>

9-14 対一橋大 (東大G)

(東大)	樋	川	新	安	端	大	足	矢	飯	日	宮								
0 (,)	渡	人	倉	部	本	谷	立	野	島	高	川	5	7	12	0				
		FW			MF				DF	GK	GK	CK	FK	PK					
0 (,)											12	2	7	0					

(一橋大)

9-21 対大東文化大 (東大G) **交代** 萩原(川人)、越部(端本)、秋山(日高)

(東大)	樋	川	安	新	端	大	日	矢	飯	足	宮								
0 (0, 0)	渡	人	部	倉	本	谷	高	野	島	立	川	9	4	17	0				
		FW			MF				DF	GK	GK	CK	FK	PK					
2 (1, 1)											8	2	8	0					

(大東文化大)

9-28 対立教大 (立教大G) **交代** 永井(日高)、川人(新倉)

(東大)	樋	越	端	安	新	大	足	飯	矢	日	宮								
2 (2, 0)	渡	部	本	部	倉	谷	立	島	野	高	川	11	2	14	0				
		FW			MF				DF	GK	GK	CK	FK	PK					
1 (0, 1)											8	5	4	0					

(立教大)

10- 5 対創価大 (東大G)

交代 秋山(越部)、端本(日高)

(東大)	樋川	安新	大越	日矢	飯足	宮								
1 (1, 0)	渡人	部倉	谷部	高野	島立	川	18	3	12	0				
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK					
3 (2, 1)							9	8	6	0				

(創価大)

10-12 対朝鮮大 (一橋大G)

交代 古川(端本)、手塚(足立)、秋山(飯島)

(東大)	川樋	端安	新大	足矢	飯日	宮								
1 (0, 1)	人渡	本部	倉谷	立野	島高	川	13	4	18	0				
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK					
2 (1, 1)							15	5	9	0				

(朝鮮大)

10-19 対都立大 (東大G)

交代 古川(川人)、伊藤(端本)、秋山(足立)

(東大)	川樋	端安	新大	足飯	矢日	宮								
2 (0, 2)	人渡	本部	倉谷	立島	野高	川	3	4	10	0				
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK					
0 (0, 0)							13	2	6	0				

(都立大)

10-26 対学習院大 (東大G)

交代 越部(川人)、古川(安部)、伊藤(飯島)

(東大)	川樋	端安	新大	秋飯	矢日	宮								
1 (0, 1)	人渡	本部	倉谷	山島	野高	川	15	0	11	0				
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK					
5 (3, 2)							6	5	8	0				

(学習院大)

以上の結果、東都大学リーグ2部で 6 位、3 部との入替戦となった。

<入替戦>

12- 7 対成蹊大 (駒沢陸上競技場G) 交代 古川(安部)、小林(飯島)、越部(足立)

(東大)	川樋	大新	端安	日飯	矢足	宮								
0 (0, 0)	人渡	谷倉	本部	高島	野立	川	6	2	14	0				
	FW	MF		DF	GK	GK	CK	FK	PK					
3 (2, 1)							3	6	14	0				

(成蹊大)

この結果、東都3部に降格となった。

1998(平成10)年度

— 新たに、服部監督、中西コーチの指導体制となる。 —

7・5 <対京大定期戦> (京大G)

東大 3—2 (2—1) 京大

<東都大学リーグ3部 B>

9・13 東大 0—0 東京外語大

9・20 東大 5—0 都留文化大

9・27 東大 6—3 玉川大

10・4 東大 1—0 東京農工大

10・11 東大 2—1 高千穂大

10・18 東大 7—0 自由学園大

10・25 東大 0—0 都立大

以上の結果、東都大学リーグ3部 Bで1位となり、2部へ自動昇格となった。

1999(平成11)年度

— 服部監督、高崎コーチの指導体制となる。 —

7・11 <対京大定期戦> (東大検見川G)

昭和24年以来、定期戦第50回を迎え、記念試合として挙行。

東大 2—1 京大

終了後、検見川・東大施設のホールで例年の懇親会をやや拡大して記念会、

OBも多数出席し、盛会であった。

<東都大学リーグ2部>

9・12 東大 5—2 (1—1) 日大文理学部 (一橋大G)

9・19 東大 3—0 (2—0) 大東文化大 (一橋大G)

9・26 東大 1—1 (1—0) 帝京大 (東大農学部G)

10・3 東大 1—2 (1—1) 立大 (東大農学部G)

10・10 東大 4—1 (2—0) 日大商学部 (東大農学部G)

10・17 東大 2—3 (1—1) 成蹊大 (東大農学部G)

10・24 東大 2—0 (0—0) 一橋大 (一橋大G)

以上の結果、東都大学リーグ2部で3位となった。

2000(平成12)年度

— 服部監督、高崎コーチの指導体制を継続。 —

那須合宿の、12年度メンバー



7・9 <対京大定期戦> (京大農学部G)

	交代	中島/米山、小林/河島、小松/祝部、大町/山中、渡辺/伊藤														
(東大)	伊	五	山	賛	足	祝	鈴	河	沖	鎌	米					
3 (0、3)	藤	十	中	川	立	部	木	島	野	倉	山					
	嵐										6	9	28	0	15	
	FW		MF			DF			GK	GK	CK	FK	PK	S		
2 (1, 1)	前	竹	斎	村	永	田	奥	西	坂	安	後	19	5	15	0	9
(京大)	田	内	藤	部	井	辺	津	田	口	孫	藤					
	子															

交代 小林/我孫子、吉岡/奥津、坂田/村部、横山/斎藤

東大 3—2 (0—1) 京大

<東都大学リーグ2部>

9・10	東大	2—1 (1—0)	武蔵大 (東大農学部G)
9・24	東大	4—2 (0—1)	創価大 (東大農学部G)
10・1	東大	2—1 (2—0)	朝鮮大 (立大G)
10・8	東大	1—0 (0—0)	立大 (東大農学部G)
10・14	東大	4—1 (1—1)	東京経済大 (東大農学部G)
10・22	東大	2—1 (0—0)	大東文化大 (立大G)
10・29	東大	0—0 (0—0)	成蹊大 (東大農学部G)

以上の結果、東都大学リーグ 2部 で1位となり、1部への自動昇格を果たした。

2001(平成13)年度

— 服部監督、高崎コーチの指導体制を継続。 —

<東京都トーナメント>

4-15	対東京電機大(拓大G)	交代	大町/山中、小山/牟田、賛川/中沢
(東大)	山 牟 五 中 渡 沖 鈴 鎌 斎 新 中		
5 (1,2,1,1)	中 田 十 沢 辺 野 木 倉 藤 山 島		
	嵐		4 11 34 0 24
	FW MF DF GK	GK CK FK PK S	
	FW MF DF GK		
3 (1,2,0,0)	田 筑 志 和 角 金 小 三 丸 大 小	21 5 15 0 6	
(東京電機大)	中 城 村 田 田 沢 沢 上 谷 塚 宮		

4-22	対拓大(拓大G)	交代	中沢/緒方
(東大)	緒 山 五 鈴 渡 賛 鎌 沖 斎 新 中		
0 (0,0)	方 中 十 木 辺 川 倉 野 藤 山 島		
	嵐		7 6 17 0 6
	FW MF DF GK	GK CK FK PK S	
3 (1,2)	磯 内 飯 木 山 西 野 野 林 大 海	12 3 20 0 8	
(拓大)	山 山 島 部 岡 川 村 田 塚 老		
	原		

<春季対抗戦>

5-20	対朝鮮大(立教大G)	交代	五十嵐/緒方、山中/李、中沢/中村、茂木(鎌倉)
(東大)	斎 緒 牧 李 辻 賛 中 沖 鎌 新 中		
0 (0,0)	藤 方	川 村 野 倉 山 島	15 4 15 0 4
	FW MF DF GK	GK CK FK PK S	
6 (2,4)	姜 金 金 梁 成 盧 盧 張 朱 姜 申	5 8 22 0 25	
(朝鮮大)	英 鐘 秀 賢 哲 誠 英 卓 淇 修 鉄		
	勲 鉄 匡 成 権 圭 孝 士 岩 章 星		

5-27	対立教大(立教大G)	交代	山中/馬場、牧/齋藤、茂木/辻、中沢/水越、河島/李
(東大)	馬 斎 五 辻 水 沖 胡 鎌 新 李 中		
0 (0,0)	場 藤 十	越 野 内 倉 山 島	
	嵐		13 6 6 0 5
	FW MF DF GK	GK CK FK PK S	
	FW MF DF GK		
2 (2,0)	木 森 下 田 蔵 高 水 吉 中 大 真	11 7 15 0 14	
(立教大)	村 田 和 中 前 橋 野 木 村 石 野		
	田		

8・5 (日) <対京大定期戦> (東大検見川グラウンド)

交代 米山/中島、茂木/鎌倉、賛川/河島、緒方/小松、
犬童/牧、牟田/大町

(東大)	大	五	牧	小	胡	沖	渡	河	鎌	鈴	中								
3	町	十		松	内	野	邊	島	倉	木	島								
			嵐													4	5	18	10
I	FW		MF				DF			GK		GK	CK	FK	S				
2	岡	柴	横	竹	永	中	池	小	村	小	後	3	3	8	13				
(京大)	田	田	山	内	井	村	北	島	部	野	藤								

交代 中尾/小野、安孫子/小島、吉岡/中村、石丸/柴田

<東都大学リーグ1部>

9・2 対早大 (早大G)

交代 光井/山中、大町/小松、胡内/茂木、渡邊/河島

(東大)	山	五	小	沖	茂	坂	鈴	賛	鎌	河	中								
0 (0,0)	中	十	松	野	木	本	木	川	倉	島	島								
			嵐													8	1	19	0
I	FW		MF				DF			GK		GK	CK	FK	PK	S			
5 (2,3)	庄	小	堀	佐	青	山	秋	結	斎	佐	植	9	9	14	0	13			
(早大)	堂	貫	池	藤	嶋	田	山	城	藤	藤	草								

交代 渡邊/庄堂、上赤坂/堀池、篠田/青嶋、狩野/秋山

9-16 対東洋大 (東洋大G)

交代 光井/山中、大町/小松、渡邊/河島

(東大)	山	五	小	胡	沖	坂	鈴	賛	鎌	河	中								
0 (0,0)	中	十	松	内	野	本	木	川	倉	島	島								
			嵐													7	1	5	0
I	FW		MF				DF			GK		GK	CK	FK	PK	S			
1 (0,1)	牛	関	飛	兼	竹	三	小	小	真	厚	河	7	4	13	0	14			
(東洋大)	山		田	松	下	枝	安	林	住	味	野								

交代 高部/牛山、宮下/小安、

9-23 対国学院大 (東洋大G)

交代 大町/牟田、小松/犬童、光井/茂木

(東大)	牟	五	犬	胡	茂	坂	鈴	賛	沖	渡	中								
0 (0,0)	田	十	童	内	木	本	木	川	野	辺	島								
			嵐													7	5	20	0
I	FW		MF				DF			GK		GK	CK	FK	PK	S			
	FW		MF				DF			GK									
1 (0,1)	高	飯	鬼	中	中	増	天	青	坪	関	清	14	5	18	0	10			
(国学院大)	妻	島	島	島	島	尾	野	木	倉	田	水								

[illegible][illegible]

(東大)	緒	五	小	犬	茂	坂	鈴	斎	沖	新	中						
1 (1,0)	方	十	松	童	木	本	木	藤	野	山	島						
			嵐													6	7
																22	0
																13	
		FW			MF				DF		GK					GK	CK
																FK	PK
																S	
1 (1,0)	毛	高	野	磯	河	鈴	佐	宮	須	渡	西					10	4
																21	0
																4	
(上智大)	利	松	村	田	内	木	藤	本	田	辺	村						

(東大)	大	五	牟	小	茂	坂	鈴	斎	沖	賛	中								
3 (1、2)	町	十	田	松	木	本	木	藤	野	川	島								
	FW			MF				DF		GK		GK	CK	FK	PK	S			
4 (0、4)	三	上	水	余	小	若	小	中	尾	法	青	13	9	14	0	16			
(専修大)	輪	原	野	語	佐	林	林	垣	林	月	木								

部

交代

青木/三輪、中原/余語

以上の結果、東都リーグ1部で最下位（早、専修、東洋、帝京、学習院、上智、国学院、東大）となり、2部に自動降格となった。

終戦前先輩のお話を伺う会

平成11年3月19日（金）17時30分から

上野・山下奥座敷にて

1、（出席者・敬称略）

高山 英華（成蹊高、昭和9年工卒、前LB会会長）

同 令夫人、

長 亨（旧広島高、昭和12年法卒）

秋保 義雄（旧成城高、昭和14年経卒）

後藤 典夫（旧広島高、昭和14年工卒）

笹間 正義（旧武蔵高、昭和16年12月经卒）

原田 饒（旧府立高、昭和16年12月工卒）

菊池 武弥（旧水戸高、昭和17年9月医卒）

武者 広吉（旧二高、昭和18年9月工卒）

大貫 雅敏（旧成城高、昭和19年9月文卒）

須賀 敏孝（旧水戸高、昭和19年9月農卒、LB会会長）

二宮 泰（旧水戸高、昭和24工卒、LB会副会長）

柴沼 明（旧水戸高、昭和28年法卒LB会幹事）

原 靖二郎（東教大附高、昭和32年法卒、LB会幹事） 司 会

手島 直幸（小山台高、昭和47年経卒、LB会幹事）

伊地知 亮太（ラ・サール高、法4年、現役マネージャー）

下田 修平（麻布高、文4年、現役記念誌担当）、

光井 逸平（麻布高、教養2年、現役記念誌担当）、

南谷 梨紗（恵泉高、上智大2年、現役マネージャー、現役記念誌担当、）

（概要）

1、冒頭、須賀LB会会長より開会のご挨拶があった。

2、二宮泰氏より、東大蹴球部の現状について、報告された。

Jビレッジでの合宿、山中の合宿（時間外の状況、今は改善）、LB会会則の経過、歴史編纂の宿題、早稲田75周年行事、選手50人位（部と同好会とわけたら、の試案）、女子マネージャー、道具の扱い、現在の大学サッカー、等に言及された。

3、高山氏ご発声による乾杯のあと、司会より、配布の手元資料を紹介。

（資料は昭和6～11年の朝日新聞記事抜粋7葉——折原一雄氏提供）

ア、昭和6年12月6日付 「帝大遂に六度連覇」

イ、昭和8年11月17日付 「早帝蹴球予想・いずれ劣らぬ強気同士」

ウ、昭和8年11月19日付 「早大に勝運恵む」

エ、昭和 9 年 10 月 8 日付 「帝、文・眼の差」

オ、昭和 11 年 4 月 23 日付 「オリンピック十六選手決定す」

カ、昭和 11 年 4 月 24 日付 「蹴球代表快勝す きのふの対東大戦」

キ、昭和 11 年 9 月 20 日付 「早の連覇遮るか 陣容充実の帝 慶」

(なお、当日、大貫雅敏氏から、同氏の時代の資料大部を提供された。)

以後、以下のような発言があった。

(司 会)

昔の東大は、どのようにして強かったのか、それを伺い、今日の部活動に活かしたいので、お話し願いたい。

(高山 英華)

私は、是が最後になると思う。自分が経た時代の語りべとして、申し残しておきたい。

日本の蹴球は、まず、神戸・横浜辺りへ、外人が来て、それがもってきた。それを、見よう見真似でやってきた。当時の高等師範や、普通師範学校等を通じて、広められた。私は、たまたま、高等師範の附属中学校にいて、中学の途中から蹴球をやり、高等師範主催の全国中等学校の大会で、2 回ほど優勝した。当時は、師範学校が、サッカーの主導権をもっていた。

ここで、記憶すべきことは、新田純興さん、その前に一高の野津謙さん等が、インターハイを作ろう、と始めた。毎正月のインターハイを盛大に行う。これが、師範学校系から高等学校に主導権をかえたもとである。

当時、山口高からは、竹腰さんが出た。たまたまビルマから来ていた留学生チャー・ディンのコーチで、山口高は、近代サッカーの宿縁を得て、これから、亜細亜的サッカーがインターハイを通じて日本に定着した。そこで育てられた我々旧制高校生が、東大に入る。こういうことが、東大系の基になっている。以上のことから、新田さん、野津さん達のことを、忘れてはならない。

当時、蹴球部の部長は末広恭二先生、そして竹腰キャプテン、中島健蔵マネージャーという三つの柱は、強いつながりだった。その後もこのような姿は続いており、私の時代には、内田先生が部長で、高山キャプテンに芝地マネージャーであり、これらがいつも揃って、事を進めてきた。これらによって、東大の蹴球部の基礎ができたと思う。そして、僕の年まで 6 年優勝が続いた。

来る車中で聞いたら、その後、昭和 22 年、二宮さんの頃と、岡野さんのいた昭和 30 年、戦後でまだよそが人の帰ってこない時に優勝しているそうだね。

以上の事は、私の責任として、東大の伝統を残していかなければ、と思って申し述べた。

(長 亨)

広島高師も当時師範の中で強かった。それが、広島高校にも伝わっており、竹腰さんの後の、手島、野沢さん達が、広島から入っている。

(司 会)

本日欠席の林文二さんから、当時、広島高には先輩の手島さんがこられて、静中動、動中静という事を言っておられた事を、伝えておくようにというお話でした。

(後藤 典夫)

手島さんが練習見に来られると、今日は参ったと思ったね。

(長 亨)

三井物産でプラントを手がけ、勤務は米・中だけだが、1ヶ月以上滞在を60カ国以上。多くの民族と会ったが、日本人がベストだと思う。東大へ入ってよかった。サッカーをやって本当によかった。ニューヨークで責任者の時、南米に行っても、東大でサッカーやったということで、信頼を得た。学生諸君も、素直に使命感を持ってサッカーをやって欲しい。

広島高は、インターハイでは一番勝っている。東大で1年からレギュラーになった。朝日スポーツで、今年も早、慶、東がカップを争うだろう、ただ、左ハーフの長選手がやや弱体である、と書いた。ところが昭和9年10月7日午後4時、御殿下でラウンドキックでボールを止めた時、陸上の小山の投げ槍が腿にぶすりと刺さった。体が大きいものだから、6人から輸血を受けた。そしたら翌日の新聞、社会面のトップ、東大ハーフの豪、長選手負傷と、途端に名選手になった。

青山外科に3ヶ月入院。部長の内田先生が随分心配して下さった。

85才にもなって、今日、皆さんに会えて、本当に嬉しい。今元気で、毎週2回テニスもやっている。2年の時、大内君がキャプテンやって、マネージャーをやれというので、1年間やった。その時、竹腰さんが、農学部の講師だったかで、指導された。練習の時、体操を15分必ずやった。それから、ハーフだったが、レフトのキックを100回やらす。そういう基礎的なことを辛抱強くやった。

選手が練習になかなか集まらないのを、マネージャーの長君が、メンタルにやらんからだと竹腰さんにおこられた。選手を呼び出すのが仕事だった。

2部に落ちそうになって、小川、菊池など有名だが平生サボるのを5人ほど集めたら勝てそうだという事があったが、そしたら、あの天才的な竹腰さんが、2部に落ちてもいいじゃないか、よく練習に出る人を使えと、言ったこともある。

(秋保 義雄)

属(さっか)姓だったので、さっかが、サッカーやる、といわれた。私は成城だが、そのころ成城は強かった。昭和8年には、東大と一緒に一部にいた。昭和11年東大入校、指導者に、高山、竹腰、手島、高山忠さん等、錚錚たるメンバーがよく校内に来られた。東大は強かった。インターハイ育ちの人が入って、盛

り上がった。ずーっと14年卒まで一部。写真もある。昭和11年、ベルリンオリンピックの時は、新聞の記事にあるが、次のオリンピック、紀元2600年、西暦1940年、昭和15年は、東京の予定で、つぶれたが、代表候補選手に秋保、菊池 宏（13年のキャプテン）、阿部と入った。代表候補は山中で慶応のグラウンドで練習した。その後、日支事変で、軍務に就いたので、あとは空白になっている。

私達のメンバーのうちの小林孝正君は、レギュラーではなく、しょっちゅうグラウンドに出ていたが、目立つ人ではなかった。ところが、後年、日立製作所の労働争議の時、委員長で、リーダーシップを発揮した。また、彼がオルガナイザーになって、インターハイのOBの、SOIと言うのをやりはじめた。こういう人がいた。彼が京都に来ると、家に来てよく飲んだりしたが、亡くなった。

高山先生には、娘の結婚披露宴で祝辞を頂いた。

(長 亨)

今、当時の試合記録を見ると、とられたフリーキックが両方併せて4、とか6と少ない。今は、ファウルが多いようだ。高山先生は、フェアプレーを厳しく言っておられた。

(司 会)

現役チームは、よくフェアプレー賞を貰っている。

(原田 饒)

プロになってから、だいぶ悪くなったね。

(後藤 典夫)

長さんから鍛えられて、インターハイに打ち込んだ。大学に入って建築に行って、高山先生の指導を受けた。広島高師附属以来サッカーをやり、高校で、野沢、手島さんなど、広島の基を作った方たちに教えられた。小林孝正は、長君同期の中学の先輩だった。私は、卒業して兵隊に行って、関東軍の中でサッカーチームを組織して試合をやったこともある。サッカーが自分を育ててくれた。80才になるまで蹴っていたが、ここ2、3年遠慮している。

(原田 饒)

東大が強かったのは、確かにインターハイのお陰が多かった。入った時六高の先輩の築島開一さんがやっていたFBを引き受けた。1番こわいのは竹腰さん、2番が菊池弘さんだった。竹腰さんで印象深いのは、国立競技場でのある試合で、私が蹴られて痛くてひっくり返っていたら、あとで、君は今日何で寝てたのか、痛いのは起きてても寝てても同じだ、寝ているのは敵に負けているのだと言われたこと。それからは、転んでもすぐ起き上がることを心がけた。もう一つ菊池さんに怒られたのは、私は、講義は随分出ないこともあったが、練習は必ず出た。

ただ一回だけ、余りの歯痛で休んだことがあった。所が、次の日練習後、風呂

の中で、昨日はどうしたのか、一体お前は、上手くなる気があるのか、と言われた。それから、半分意趣返しのような気になって、とうとう、教練のときは、休んだことがあるが、3年間、1回だけの休みで通した。

これは、唯一の誇りである。優秀な先輩に鍛えられたので、怖いものは何にもないと言う心境にもなった。

も一つ、お金のことだが、当時、部の年間予算は、3000円だった。ボールが3円、シューズが4円50銭位だった。練習が終わるとボールに油を塗ると太らないので、よく手入れをしたものだ。家で、サッカーの物など買ってもらいにくい、教科書を買う、と言って、同じ本を何度も見せて靴を買ったりした。昭和16年のリーグは、早稲田と2回やったが2回とも同点で両校優勝となった。

日本人は足腰が弱くなっているから、もっと野生味を持たなければならない。世界レベルになるにはまだ100年かかるのではない。

(笹間 正義)

大学でサッカーをやらして貰って大変有難い。お陰で今でもサッカーがやれる。SOIで、蹴球2日制等と言って、週に2日サッカーやっている。実は、私は、心臓の大動脈やられて6回手術したが、それでもサッカーはやめられない。あとは、一緒に菊池が話す。

(菊池 武弥)

笹間、原田と一緒にだが、当時一緒にやった神戸一中から六高を出た 直木 和 (インナー)、私は、この選手は、大変な名手で、日本最高のプレイヤーだったと思う。小川(?) などよりもうまい。東大サッカーのOBにこういう人がいたということは誇りに思っていると思う。今のプロの選手などより上手かったと思う。残念ながら戦後すぐ事故でなくなった。

(秋保 義雄)

一寸弱気だったんじゃない。

(菊池 武弥)

そうかも知れない。

(原田 饒)

もう一つ竹腰さんに言われたことで思い出すんだけど、サッカーは頭でやれ、というんだ。ヘディングのことでなく、脳味噌をつかってやれ、というんだ。

たしかに勘というか、読みというか、大事な事だ。

(司 会)

第一の名手のお話が出ましたが、昔の方で、他にたとえば、もっとも遠くへ蹴る方とかは、いかがでしょう。

(秋保 義雄)

遠くへ蹴るのだったら、大山はそう。

(司 会)

大貫さんもそのように伺いますが。

(大貫 雅敏)

ダイレクトでボイーンと蹴ったら、向こうのゴールまでいった。

(武者 広吉)

二高出身で、菊池、大槻、長谷部さんなどが同窓。高校で体が大きいので初めてサッカーを、そしてゴールキーパーをやらされて、今でもキーパー。初めて、大谷さんなんかの強いシュートを受けるには、随分練習した。キーパーはズーっと立っていなければならないので、電車でもズーっと立っていたり、ジャンプの練習は随分やった。ジャンプして降りたらすぐまた跳ぶ、30回以上は続ける、練習はしないともものにならない。

先ほど出たSOIが、25年になるが、第一回目からいまだにやっている。

毎年一回、海外遠征をやり、こないだは、UAEで2試合やった。

(大貫 雅敏)

成城高校で尋常科時代からサッカーを始めたが、誠之小学校時代からボールを蹴っていた。今、77歳だが、75歳までSOIでプレーを続けた。東大に入った時は、東大は大変強く、レギュラー選手は、大半が1年生、昭和17年は関東一部で優勝し、関西1位の関学と神宮で戦い、8対1で降した。その時、さっきのロングキックの話だが、飛んできたボールをフルバックラインから蹴ったら、吸い込まれるように向こうのゴールに入った。目撃者は多いが、その時どういう引き揚げ方をしたかという、今の選手と違って、黙って下を向いて、静かに自分のポストへ戻ったものだ。関東学生リーグで優勝して、戦後、学生OBの連合軍、東大LBに又出たが、これも強く、負けの思い出をほとんど知らない、学生リーグの時の明治戦だけくらいだ。19年9月に卒業して、海軍へ入り、戦後戻ってすぐ、20年からLBを始めた。

両親は医師だったので、本来なら地方の医大に行くのだったが、竹腰さんから丁寧なお手紙をいただき、何がなんでも東大へ来てサッカーをやれといわれ、入った。須賀君とはズーっと一緒です。

(司 会)

LBの名前が出ましたが、大正のころ、LBと言った時期があるようですが。

(?)

あれは同好会のこと。

(司 会)

しかし、そのLBが全国優勝したりしているようですね。

(?)

強かったね。

(大貫 雅敏)

とにかくLBは強かった。有馬さんとか奥瀬さんとか、激しい人達だった。

(須賀 敏孝)

私は、昭和35年から43年まで8年間監督をしたので、上下を知っていることからLB会長を仰せつかった。結局、現役諸君に言いたいのは、教えられる事だけやっても駄目、自分達でもっと考えてやる事を強調したい。今の現役は、教えられると、頭がいいから、忠実にやるが、局面が変わると何も出来ない。我々の時に、第二工学部が千葉にあって、レギュラー15人くらいが全員揃うのは、17時過ぎる、それからフォーメーションの練習など10分か15分しか出来ない。

それでも強かったのは、その間、自分自身で以って、どうしたらいいかということ、考え考えやっていた。それでないと、上手くはなるかもしれないが、強いチームにはなれない。

(原田 饒)

この前、農学部で現役の試合を見たが、なかなかテクニックは上手い。ただ、蹴って走るという基本がもっと欲しい。強さが無い、野生味というか、が足りない。

(二宮 泰)

おっしゃる通りで、我々の時も、臨機応変など出来ないから、自分達に合ったパターンを徹底的に練習して、それを強引に実行するという事でやってきた。

(長 亨)

広島が強かったのも、上手くないが、ものすごく野生味がある。野球でも広島は、野生味があって強い。あまり上手くないがね。

(原田 饒)

今、プロでも、わざとひっくり返ってレフェリーの顔を見て、痛そうにする、アピールするんだが、あれは、絶対やってはいけない。ずるい。

(長 亨)

1973年に、アメリカで初めてプロサッカーをやる事になって、アドバイスはないかというんで、ペレに聞いた事がある。その時のペレの言葉が、ヒーローを作れ、と言うんだ。それは、たとえば、高山さんの時であれば、ライトウイングの高山さんのところへ出して、そこから物にするという、チームの中に形を作れというんだ。先ず一つ形を決めて、できれば三つか四つ決めて、それでやる。そうすると、特定の選手が目立って、周りは我慢してサポートに徹して、万骨枯れるとなるが、それでないとチームが上手く機能しないというんだ。現役チームでも、考えてやってもらいたい。

(司 会)

服部監督が急な入院で欠席なので、監督メッセージを伊地知君に朗読してもら

う。

(伊地知)

——服部監督メッセージ——

昨年監督を引き受けてからあっという間に1年が過ぎました。1年の反省とこれからの課題として、どうしたら強くなれるかまとめてみました。皆さんのご批判を頂き、指針にしたい。

大学サッカーの現状としては、Jリーグのスタート以来、優秀なプレーヤーは、ほとんどプロに行き、大学に進学するプレーヤーはどんぐりの背比べで余り差が無くなってきている。現在の子供たちは、5歳くらいからサッカーをやっていて、大学に入学する時には、ボールタッチ等の技術的な面では、ほぼ習熟している。従って、フィジカルの強さ、スピードの有無などが、格差の基になっている。

関東1部と、東京と1部の差は余り無く、実際の春の対抗戦でも、東京と1部の帝京大が、関東1部のチームに快勝している。東京1部4位の拓殖大は、入替戦で残念ながら上がれなかったが、引き分けだった。今回発表されたアンダー21歳の選抜に、大学生は筑波大から入った1人だけだった。大学1位の国士館大は、JFLのチームにほとんど勝てないし、Jリーグで通用する選手は、大学生には、ほとんど見当たらない。

従って、国内の大学のレベルは、相対的に相当下がってきているので、以前のように、全く手が届かないという状態ではない。また、大学選手権の準決勝の試合も、東京都リーグの試合と大差がなかった。

翻って、東大の実力はどうかというと、毎年3000人の新入生が入るが、その%、30人がサッカー歴10年、このうち10人位が入部する。高校時代、中心プレーヤーだったものは少ないが、高校総体に出たプレーヤーもいないわけではない。他の遊びは知らないというか、とにかく練習には熱心だ。他の大学に比べて、決定的な差はない。全員、身体が固く、柔軟性に乏しく、スピードが無く、フィジカルに弱く、イマジネーションが無い。ないない尽くしだが、改善できない問題ではない。現状の実力は、掛け値なしで、東京都2部で勝てる相手はないに均しいが、これからの指導によって、より強いチームに変身は可能だ。

強くなる為の手段としては、指導者に、若いOBが必要だが、若いOBの中に適任者はいないので、外部に求めなければならない。スピードを付け、フィジカルにも強いプレーヤーによってチームを構成し、イマジネーションに富んだサッカーをするチームを作るには、選手に愛情を持ち、情熱を持って、厳しいトレーニングを行うコーチが必要だ。

今年は、筑波大大学院生の高崎君を、協会の技術管理委員長である筑波大田島教授の推薦を得て、据える事ができたので、安心している。

現在は、まだ1ヶ月しか経っていないが、日常の動作から、清掃、準備まで、

これまでとは、全く様変わりの指導が行われており、新生東大サッカー部の誕生を期待している。

グラウンドは、現在、農学部のグラウンドを使用しているが、照明もあり、夜間の練習も可能で、恵まれているといえる。しかし、グラウンドそのものは、水はけが悪く、？風が吹く状態で、なおしたい。

学生課と話し合い、何とか改善の方途を講じていきたい。

合宿については、春、夏それぞれ10日間ずつ位を計画しているが、経済的に恵まれない学生も居り、合宿費については、LB会で援助してもらいたい。

最後に、慶応大ラグビーチームが、社会人チームに大敗の理由として、資金面と指導面の不十分を挙げているのが示唆的で、今後とも、可能な限り、LB会の支援をよろしくお願いしたい。

(司 会)

支援については、本日来臨の超OBの方々より、以後の人たちで引き受けねばならないと思う。

(原田 饒)

身体が固いのは、我々年寄りの事ではないのか。

(武者 広吉)

柔軟体操などは、自分で練習前にやっておかなくてはいけない。

(司 会)

監督の考えについて、ご意見はいかがですか。

(原田 饒)

メッセージのとおりだ。費用の支援も言ってくれ。応援するよ。

(司 会)

それでは、長い間、貴重なお話を、大変有り難うございました。

以 上

OLB会(戦後・旧制卒業)の座談会記録

この座談会は、平成11年4月27日、「山下」における、戦後旧制大学時代の方々の集り、「OLB会」の会合において、二宮さんの肝いりで、「東大を強くするために」、をテーマに懇談して頂いたものである。

冒頭、服部監督から、最近の学生事情、練習状況の説明があり、それをめぐって、意見が出された。

二宮) 私は、服部君のサッカーは、必ずしも知らないが、航空機関係で知っていた人で、幹事諸君が推薦したのでお願いした。努力してくれているので、皆さんには協力してもらいたい。合宿に行ってみたが、山中は、運動部の合宿としては、食事など適当ではなかった。Jビレジはよかったが、費用がかかる。

LB会費は400人中、200人位が納めてくれるようだ。参考までに、早稲田、慶應にきいてみたら、早稲田は700人の7割位の納入で500万円位になるそうだ。それが3、4年前までは、やはり4割くらいだったそうだ。慶應も1万円の会費でやっていて、早稲田と似たようなレベルだそうだが、日吉のグラウンドの修理とか必要な時には、20万円とか30万円とかの寄付を募って集めるそうだ。

東大はまづ、若いOBからもっと会費を出してもらうようにしなければ、と言っている。勝て勝てといっても、やはり、よそからのコーチへのお礼もしなければならんし、お金がかかる。今すぐではないが、何かの折には、古い人たちにも、寄付など御協力願いたい。

今度、京大との定期戦は50回記念ということで、記念品も用意している。実費で買って欲しい。

5月5日にある三大学の試合だが、もともと、昔のユニホーム着てやろうや、ということで始まったが、簡単だと思った東大のユニホームは、上はよいが、ストッキングの色がはっきりしない。昔は、この色でやろうと、毛糸を買ってきて編んで作ったが、この頃は、出来合いの物の中から選ぶようだ。類似のものでやっている。戦後のものは、黒津さんも実用に供したものを示されたので間違いないが。

これから、東大の蹴球部に対して助言があれば、ひととおりの話聞きたい。

大貫) コーチは筑波大からでないと駄目なのか。又、資格がないといけないのか。

服部) 資格は要らないのですが、質のよい指導が必要です。教育大は協会のS級コーチの講習の会場でもあり、優れています。東大OBからコーチが出せないか、それが課題ですが、今は出来ません。体力、フィジカル面を重視してやっています、今までとは一皮違ったチームが出来つつあると思います。バンカラを目指しています。

須賀) 我々が助けられるのは、お金の面しかない。若いLB会員の会費が少ないのが問題だ。実技面では、コーチや、監督に頼らないで、自分達でやるのが一番大事なのじゃないか。体力と、自分が、よしやってやろうという気迫、それに尽きるだろう。

大貫) 先ず、体力、気力、走力がサッカーには大切。それさえあれば、技術はついてくるもの。我々の頃は、体力があった。バックスの平均体重が、17~8貫(64~68kg)あった。みんな遅しかった。

岡本) 体調の所為で、このところSOIも休んでいるが、昔は皆、一生懸命やった。

黒津) 東大のサッカーは戦時で、余りやらなかったが、長い間の先輩が多いのだから、座談会をやったら、良い意見が出ると思う。企画が大事。又、東大の関係者だけでなく、他の大学等、よその人にもよい意見が有り得る。それも企画したらよい。

後藤) 私は、下手だったが、メンバーが良かったので優勝も経験した。食糧難の中でも、第2工学部だったが、先生から、お前は教室で見るより御殿下で見る方が多いな、と言われた。食糧難の時代だったが、第2工学部には畠があつて、芋を食べられた。そんな時代の中で一生懸命やった。

原) 記念誌の記事は、座談会の中から、汲み取りますから、自由にお話し頂きたいのですが、宜しかったら、昔、どうして強かったか、についてお話し頂きたいと思います。

大埜) 昔は、旧制高校の一国一城の主とか、それに次ぐ位のいいのがみんな東大に集ったんだから、それはもう負けっこないんだよ。それは格段に違うんだよ。高等学校で、勉強もやったかもしれないけど、毎日、練習やってたんだ。だから、六連覇の頃でも、サークルキックをちょっとやってリーグ戦に出ると、それはもう全然違うんだよ。強い方が勝つていうんだよ。僕ら日本代表で集められた頃、竹腰さんがいうんだよ。強いのが勝つのは当たり前だつて。

それからあとはどうやって強くなるか、40年もずっと考えてきたんだな。しかし、なかなか成果が上がらないんだ。でも、負ける方は頑張って強くならなければならないんだ。

それには、いい選手を持ってこい。家庭教師になる訳にもいかないから、自分の卒業した学校の後輩からいいのを連れてくる。あとは、岡野とか浅見がいるんだから、どういう練習やったらいいか、聞くといい。2年間は試合に出さないで練習やってから、後の二年は試合に出すとかも考えてよいんじゃないか。何か、行き当たりばったりでない方法を考える。今迄だつて一生懸命考えてきたと思うが、それでもあがれないんだから、よっぽど確りやらないと駄目なんだ。服部監督がやっていることを批判するとかいうんではないんだが、しっかり取り組んでももらいたい。

二宮) 現役を強くする方法をいう前に、昔はどうだったか、ということをお話してもらいたい。

高橋) 現役に聞きたい。どこへ行ったらグラウンドでちょっと練習できるか。球拾い位したい。練習日を何処へ聞いたら分かるかを教えてもらいたい。

大埜) 高橋さんは、この人にボールを渡すと、必ず正確に返ってきた人だから、教わるとよい。

服部) 主務がお応えします。ロッカーも共用ですが、お使い下さい。

馬渡) 50年前の話をして、仕方がないが、結局は、一人一人が努力することだ。我々の時は、さっき出たように、一人一人が強い選手で、それがお互いに張り合って練習していた。一所懸命にやって喧嘩にもなった。亡くなった海老原ともグラウンドで、随分言い合ったことがある。キャプテンの練習方法がよくないっていう訳。やってから文句言え、と僕はいう。 そんなことでやってた時代です。一人一人の意気込みが凄かった時代だった。

丸山) 今の様子を見てはいないが、いつも考えてることは、一つは、練習量が恐らく昔に比べて少ないだろうから、頭を使って、如何に少ない時間で効果を上げるか気を付けてやるように。基礎体力とか、個人的な能力とか、随分やっているようだが。それから、強い弱いは比較の問題。強い方が勝つが、勝負というものはどこかでさかさまに転がることもあるから、諦めないでやることが大事。それが気力といえそうだし、勝負に対する執念ということも必要である。だから、いつも弱いところとばかり練習試合やるんじゃなくて、強いところとやって、自分達の力をよく知って、それを向上させるように努力することが必要だ。それからよい指導者を選ぶことも非常に大切だ。

大埜) 数年前に言ったけれど、いい選手をせめて自分の卒業したところから、東大に入れる。いい素材がいて、いい服部監督以下がいたら強くなるよ。 それには、東大に入ったら2年間は、岡野、浅見に作ってもらった練習方法で一生懸命やる、3年、4年で選手に出て、そこで勝て、ということをつたが、当時の部長に一笑に付されて、今言われた話は、6割聞いていればいい、とか言われたけれど、今でも、考えは変わらない。それには、岡野、浅見に一肌脱いでもらいたい。今、服部監督はやるだろうけど。

今日は、OLB会だが、このメンバーの時代から、今の現役までの間には、何十年間のOBがいるわけで、やっぱり身近な先輩が応援しなきゃ駄目だよ。一番近い年代が来なきゃ。昔はみんな卒業すると応援に来たんだよ。相当に年代があるんだから、その辺の人が、面倒を見たり、監督を応援したり、という風でなければだめだよ。コーチの資格やなんかということではなく、そのへんがやっぱり応援してやるように、頑張れよ。

二宮) 400人位のOBがいるが、若い方は、やはり弱かったから、卒業してから、愛着がない。だからどっかで強くしなきゃならない。それには、お金も要るし、...

大埜) お金も要るけどさ。応援しなきゃ。弱いから応援しないっていうんじゃおかしい。

服部) 尤もなことだから、反論ありませんが、最近10年くらい見ていると、大埜さんの言われるように、我々もそんなOBを育ててきたのがいけないのですが、安田講堂事件の頃からいろんなことがあり、東大の若いOBたちとは噛み合わない点がある。3Bとか言って、東大は頭があるからサッカーも頭を使って、などと言うが、私は、そんなことでなく、フィジカルに一对一でぶつかって負けるような者はサッカーやるな、と言ってます。(3Bとは、Brain, Body-balance, Ball-control)

こういうOBには、考えをもっと我々に近づけて欲しいところですが、せめて会費は納めるようにと言っています。大埜さんのおっしゃる通りですが、なぜ若いOBに指導を任せられないか、なぜ他の大学の卒業生に頼って指導するのか、そういう非常に課題の大きい状況になってるんです。

今は、非常に恥ずかしいことですが、規律の面で、挨拶しろとか、ごみを片づけろとか、そんなことから言ってるんです。

秋山) 一年の時、馬渡さんがキャプテンだったと思いますが、関東リーグで優勝し、関西へ行って、関学と東西一位決勝戦をやった。下馬評では、東大が圧倒的だったが、2-0で負けた。私の願いは、今の学生のチームがその頃のように早くなしてほしい。それだけだ。

二宮) 関学の当時の鵜田選手にこの間会ったが、東西隔年開催で、関西の番だったので夜行の寝台車と言っても木の板席で、腰がおかしくなってしまった。関東でやったら勝ったと言ったら、そうだとはいってた。

大埜) 東大が優勝したのは、高橋選手のおかげ。この人がやはり格段に凄かった。俺が左のインナーで、関東で優勝したんだが、本当は楽に優勝できるところ、早川が極東裁判の通訳で、出られなかった。彼がいれば問題無い優勝だった。関西に行くときには早川も出られた筈だが、亡くなった小林とか、みんなを出そうというので出して、それでやられちゃった。未だに一番相談に乗ってもらっていたのは、早川で、しつこい選手で、これからも東大の選手で出てこないタイプだと思う。遠山もいたが。

柴沼) 思い起こすと、春の練習は、インステップキックから始める、という時代だった。そういうことが又、体力的な練習と結び付いていたのかと思う。有馬さんが来て、お前は筋力が弱い、練習の前にグランド6回廻ってこい。俺はもう走ったよ、と言うことで、とどここ走ったことを思い出す。竹腰さんが、お前は下手だなあ、だけど、何か覚えろよ。ライトウイングで、スローイン受けたら、右足でポンと左斜め前に出すくらい出来るだろう。それで、それを練習させられた。そしたら、大学選手権で優勝した時の立教での一点はまさにそれだった。丁度スローインが来て、ポンと蹴ったら、岡野は私がそんな事しか出来ないと知っているの、構えていて、岡野の前に丁度合って、それが一点になった。そういう竹腰さんの指導で下手はそれなりに活かされたことを思い出す。ここ2、3年見ていて、今年はきつい練習やっていると聞くので良いと思うが、さっきのボディーバランスなんかは格段に上手いが、どうももう少し、基礎体力とかについて、やり方があるのではとも思う。

浅見) 大埜さんのお話の通り、昔は強いのが入ってきたが、このごろは強い学校が変ってきて、東大へ入るような学校でなくなってきた。そんな中でサッカーやるのも大変だと思う。岡野さんも、私も、今は、現場でなく行政職で、仰せのような事は出来ない。それでも、服部監督に対して言えるのは、もう一寸上には行けるんじゃないか、関東2部位までは、うまくやれば行ける。東京1部に居て上に挑戦できるようなところま

では行けると思う。

大埜) だが、去年、一昨年くらい見てると、東大の試合は、攻めないで、後ろの方で3人でパスばかりしてる。攻めなければ点が入りっこないんだよ。服部監督になって、それはやめたから、上出来だよ。

服部) 今、大学に入ってくるのは、大体、9年から13年位、つまり大埜さんと同じくらいボールを蹴ってきた連中です。そういう意味では、ボールタッチとかいうものは、かなりできています。今年の練習では、ミニサッカーは止めさせ、練習を終ってからごそごそ遊ぶのも止めろと言ってます。1時間半から2時間の間で、丸山さんがおっしゃったように充実した練習をするようにも言っています。

以 上

頑張ろう 東大蹴球部

昭和26年卒 大 埜 正 雄

東大ア式蹴球部が創部八十年を迎えたことを心からお慶び申し上げますとともに、部発展のために尽くされた歴代の部長監督部員各位のご努力にあらためて敬意を表するものです。八十年の歴史を築かれた先輩後輩諸兄のなかにはなくなられた方も多く、この機会に謹んでご冥福をお祈りする次第です。

昭和十八年にさかのぼりますが、戦況が厳しくなり、文科系学生の徴兵延期措置が廃止になり、この年の十二月には学徒動員の事態にたち至りました。終戦になり復員した私は昭和二十三年あらためて東大に入学蹴球部に入りました。昭和二十六年卒業まで御殿下グラウンドを中心に苦楽を共にした三年間の部生活はまさに新しい青春の復活だったと言えます。

東大蹴球部につながる思い出は学生OBを通し今日に至る迄つきないものがありますが卒業以来五十年近くたち、年もと記憶もうすれて来ており、忘れてしまうのも心残りなので書いておこうと思いたった次第です。ただ周知のことより余り知られていないことを主に書こうと思います。二つにわけて前半は私の母校湘南中蹴球部と東大蹴球部とのつながりを、後半は東大蹴球部に入って以降のことを書くことにしました。

一、中学のこと

(一) はじめて東大蹴球部員にコーチをうける

私は昭和十年神奈川県湘南中学に入り蹴球を始めました。昭和十二年、三年になる春休みの練習に監督が東大蹴球部の藤岡卓人さんと種田孝一さんのお二人を連れてこられ、終日キックのコーチをしていただきました。インステップキックではひとりひとり繰り返しボールを蹴りいちいち丁寧になおしていただきました。時折お手本に蹴るキックは、地方の中学で大学の試合等みたこともなかった私達にとって全く素晴らしいもので、今だに忘れることが出来ません。

お二人は共に昭和十三年東大卒で藤岡さんは、当時の学生界きってのF B、種田さんは前年の昭和十一年、ベルリンオリンピック大会で優勝候補のスウェーデンを破り奇跡の勝利と言われた日本チームのCHであった。東大蹴球部の超一流選手にはじめてコーチをしていただきましたが、何故お二人がこられたかについてふれますと、お二人は水戸高等学校出身であり藤田監督も同じ頃水戸に在学していたので、私は中学の思い出を書いた

時、同窓のよしみで監督がお二人を連れてこられたのではないかと書いたのですが、これを読んだ監督から、ただ同窓のよしみというだけでなく、昭和五年東京高師主催の全国大会の準決勝でお二人の出場された東京府立五中と監督の出場した湘南中学が対戦し大激戦の末湘南が勝ったという因縁がお二人との間にはあるということを手紙でお知らせいただきました。

名選手のプレーを目の前にみ、懇切にご指導をいただいたことは私達にとって眼が開かれたというか、一つの転機になったのではないかと思います。この年の夏湘南中学は神奈川県山梨三県の予選に勝ち学校創立以来はじめて甲子園の全国中等選手権大会に山神静代表として出場することが出来ました。埼玉師範に敗れましたが、この大会で埼玉師範は圧倒的な強さで全国を制しました。私は三年生でしたが幸にチームの一員として出場することが出来ました。

東大蹴球部員にコーチしていただいたのは私達がはじめてであると思っておりましたが実は昭和三年東大六連覇中の蹴球部の二人の名選手から二年間コーチを受け、それが湘南にとり最初の黄金時代を迎えることになると共に湘南サッカーの基礎が築かれたということを知りました。

(二) 湘南サッカーの基礎は東大蹴球部の二選手のコーチによって築かれた

一九八一年に発行された「湘南サッカー半世紀を経て」に藤田監督が「昭和初期の湘南サッカー」と題して書かれたなかに、お二人について述べておられるのを抜粋して紹介します。

「昭和三年東大の名フオワード若林、名ハーフ野澤の両氏をコーチとしておいでいただきました。当時東大は六連覇の黄金時代でした。お二人は湘南の技術的支柱となったと言えます。二対一のトライアングルパスの基本と練習方法は若林氏の、又三対二の防禦連携プレーの理論と実践は野澤氏のコーチされた技術遺産の一部です。個人プレーの集合体でしかなかった湘南サッカーは、この時から組織的チームプレーのサッカーに脱皮したのでした。」とあります。

藤田監督は若林、野澤両氏のコーチによって湘南が最初の興隆時代を迎えると共に、湘南サッカーの基礎を築いていただいたことに想いをいたし、再び東大蹴球部員にコーチをお願いし湘南サッカーの飛躍を考えられたのではないかと思います。

(三) 監督は東大蹴球部員 二度目の甲子園出場を果たす

昭和十四年夏山神静大会で優勝、二度目の甲子園大会に出場することが出来ました。監督は昭和十六年卒東大蹴球部嶋田正彦さんでした。大会では準決勝まで勝ち進み京都代表聖峯中学と対戦延長戦の末勝敗きまらず残念ながら抽選負けとなりました。秋の第一回明治神宮大会では準決勝で大阪代表明星商業とあたり一点先取するも逆転され敗れました。夏秋共に四強に残り健闘しました。夏は広島一中、秋は神戸一中が優勝しました。

今迄書いたように湘南中蹴球部は東大蹴球部員のご指導により今日あると言うことが出来ます。感謝に堪えないところであります。

なお、藤岡、種田、藤田、嶋田先輩はみな水戸高等学校出身であり私自身も水戸東大の後輩で奇しき絆に結ばれていると思っております。

(四) 湘南中学は第一回国民体育大会で優勝する

昭和二十一年秋第一回国民体育大会で湘南は神戸一中に勝ち全国制覇をなしとげました。(監督大埜)

(五) 東大OB岡野さんを招き試合観戦 講演を頼む

全国高校サッカー選手権大会の予選を突破することは極めて難しく湘南高校も残念ながらこのところ低迷を続けています。湘南OBの中には丁度同じ頃東大OB岡野さんと一緒にボールを蹴った者もあり、前々から湘南サッカーOB会として、現役の試合をみてもらい、講演をお願いしようという計画を進めていましたが、平成十年夏、丁度サッカー協会長に就任することになった頃、実現し、藤沢の湘南グラウンドに来て試合もみ、現役OBを前に有意義な話をさせていただきました。特に「よく考え、頭をつかってプレーするよう」強調され激励を受けました。暫く間があきましたが、昭和のはじめ以来東大蹴球部員のご指導によって築かれた湘南サッカーとのつながりの復活であるという思いを新たにいたしました。

因みに岡野会長は昭和二十五年東大に入学、私が三年の時蹴球部に入ってきた。秋の関東大学一部リーグでは一年生ながらCFで出場新人離れの活躍でした。

東大蹴球部八十年史にとっては外史と言えるものかも知れませんが、東大蹴球部員にお世話になった湘南中蹴球部の生立ちの一端を書いた次第です。

これをもって前半を終りハーフタイム後半は私の東大蹴球部入部について書くことにいたします。

二、東大蹴球部入部以降

(一) 昭和二十三年東大に入学 蹴球部に入る

終戦後、次第に学問も体制も整い、新入生復学の学生をあわせ部員も多士済々でありました。

(二) 昭和二十三年春の大学トーナメント大会に優勝

秋のリーグ戦の前哨戦であるが、この時点では優位にありと判断出来ました。

(三) 昭和二十三年 全日本選抜合宿

ベルリンオリンピックの直後に始まった制度によって日本サッカー協会は国際試合に備えて全日本チームを編成するため、昭和二十三年夏OB、学生約三十名が選拔され、三島の日大グラウンドで十日間合宿練習が行われました。今後の日本チーム編成のためOB学生の精鋭が集り炎天下に合宿練習を行ったことは新しい日本サッカー出発にとり、誠に意義あるものでした。

東大蹴球部関係者をあげると次の通りです。

合宿指導実技研究会講義 竹腰さん

参加者 OB 横山さん 有馬さん

学生 馬渡 松元 海老原純 大埜

学生については、全国十校から選ばれたが、関大から二名他は各校一名の中で東大は四名選拔されたのは注目すべきことです。

(四) 昭和二十三年秋 関東大学一部リーグで優勝する

春以来着々と力をつけ、優勝候補の呼声が高かったが思はぬことが起りました。。夏休極東裁でアルバイトをしていたCFの早川が休みが終っても缶づめで練習試合に出てこられなくなりました。得点力もあるCFでバランスよくFWが編成されていたのですが、リーグ開幕を前にして新たにメンバーを編成し臨むことになり苦しい展開となりました。不覚にも文理大に一敗し、あと全勝しなければ優勝出来ないという苦境にたちました。

残りの相手を連覇し、最後に早稲田に勝って優勝をきめました。

東西大学一位対抗は西宮で関学と対戦しましたが残念ながら敗れました。

(五) 昭和二十四年 全日本選手権に東大LB優勝する

全日本選手権に東大LBは健闘し決勝で全関大を破り優勝する。

(六) 関東大学一部リーグの成績

昭和二十三年以後次第に上位を保つことが難しくなり下位に低迷苦戦を

続ける。

(七) 第一回全国大学蹴球大会 優勝する

前年秋の関東大学一部リーグで最下位に終わったので海老原主将を中心に懸命の練習をやり気力充実して大会に臨みました。リーグ上位の中大、立大を気力あふれるプレーで連破し、決勝戦は早大を接戦の末破り第一回の優勝を遂げました。CH海老原、CF岡野の活躍もさることながら東大選手のひとりひとりが存分の力を発揮し全員で優勝をかちとった気力団結の勝利は、特筆すべきものであり全員の名をあげて称えたいと思います。

メンバー

東大 GK FB HB FW

立柴坪原海浅柴石岡中西新中折藤藤
石沼田老見沼井野島本原川原井本
弟原兄

(七) 昭和三十二年関東大学一部リーグより二部に転落する

(八) 昭和三十三年横山監督勇退 大埜監督になる

(九) 昭和三十三年東大LB 全日本選手権に出場

この年の全日本選手権は静岡県藤枝で開催された。東大LBは京都紫光クラブ、東洋工業に勝ち準決勝で残念ながら八幡製鉄に敗れたが三位決定戦で地元志太クラブに勝ち炎天下の熱戦は終わりました。

メンバーは昭和二十八年大学蹴球大会で優勝したメンバーを主力に新しいOBを加え学生を起用したものです。

OB 海岡原柴藤中嶋 学生 高服小長
老野沼本嶋田 田部山浜
原

出場した学生四人はOBに引きたてられながら期待に答えて強豪チームを相手に力一杯の活躍でした。チャンスを与えられ、それに答えて頑張る、自信にもなり飛躍にもつながり、恵まれたことでしたが、秋のリーグにも活躍しておりあわせてお知らせしておきます。

(十) 昭和三十三年 秋のリーグ 一部復帰かなわず

以上で後半を終了いたしました。

まだ書いておきたい思い出が多くあります。延長戦ということになりますが、思い出に残っているものを、年よりのたわ言と申しますか、私事、自慢話をふくめて書いていこうと思います。お許しの程お願いします。

三、思い出すままに

(一) 御殿下グラウンド

練習に試合に走り回っていた御殿下グラウンドをなつかしく思い出します。グラウンドをかこんでいる山上会議所は立派な建物になり、病院も横に拡張されたようですし、一方七徳堂のあたりは昔のままですが、白く乾ききったり、泥濘のまま凸凹にかたまったりしていた土のグラウンドではなく、地下には運動の諸設備もある人工芝のグラウンドにかわっています。農学部にグラウンドが移り、昔から先輩達が蹴り続けて来た御殿下のグラウンドの土の感触を味わうことが出来ないのは残念です。

(二) その頃お世話になって諸先輩

部長は 内田祥三先生 田中二郎先生

昭和二十三年秋のリーグ戦で、早稲田に勝って優勝を決めた時、グラウンドで田中先生に大変喜んでいただいた記憶があります。

監督は横山陽三さん（昭和十八年十二月卒業）でした。サッカーの東西対抗は戦後昭和二十二年復活し第一戦が神宮競技場で行われた。東軍ゴール前でスライディングタックルに次ぐスライディングタックルで西軍の猛攻を必死に防ぎ活躍した東軍CHが横山さんであったことを後になって知りました。監督には入学以後長い間ご指導をうけました。昭和二十三年夏の日本代表合宿にはOBとして参加し、まだ日本の第一線におられました。監督在任中に、昭和二十三年秋関東大学リーグ優勝、昭和二十四年全日本選手権に東大LB優勝、昭和二十八年第一回大学蹴球大会優勝を果たしています。代表チームの監督、マネージャー等をされたので、私は卒業後も長い間お世話になりました。

竹腰 重丸さん（昭和三年卒）

この頃竹腰さんは農学部勤務されておられたので時折グラウンドにも、サッカー部の会合にも顔を出され精神面、技術面でいつもすぐれた指導をしていただきました。東大のサッカー、日本のサッカーを育てた方と言い伝えられております。私は昭和二十三年夏の全日本合宿以来おかげ様で日本代表の一員として選抜され昭和二十九年第二回アジア大会迄竹腰監督のもとで合宿、試合の指導をうけたので、まさしく日本サッカー育ての親と固く信じております。サッカーに取り組む厳しさ、指導の厳しさは、古今を通じ随一で幾多の伝説に残されていると思います。後年「年をとったので随分軟化した」と言はれたことがありましたが、厳しさに優しさが加わったものと言えます。私達末輩にとり、接するにはいつも身の引き締まる感じ

でした。

数年前OBの集りで竹腰さんの女婿浅見さんから、竹腰さんの伝記が綴られる企てがあるとの話を聞きましたが、日本サッカー界のためにも是非刊行されるよう熱望するものです。

なお、つけ加えますが、東大蹴球部の名簿で竹腰重丸の項にはタケノコシと振仮名がついています。タケノコシと呼ぶのが正式ということで「ノコさん」という敬称愛称はここから出ているものと思います。然し私達後輩にとりましては恐れ多く、軽々しく口に出せるものではありません。

有馬 洪さん（昭和十六年十二月卒）

よくグラウンドにこられ気合の入ったご指導を頂きました。昭和二十三年の全日本合宿にも参加され、昭和二十六年第一回アジア大会印度にも出場活躍され戦後はじめて来日したスウェーデンとの対外試合にも出場されました。

軍鶏（シャモ）の異名をもつ精悍なプレーはまさに闘鶏を彷彿させるもので、構えた姿勢からこちらの下半身つまりオチンチンを相手の下半身にぶつけ下から押し上げるようなあたりは独特な強さがあり恐れられたものです。往年の名選手もなくなられた方が多く、残っておられる方も少なくなっておりますが、どうかいつまでもお元気でありますようお祈りします。

田村 三郎さん（昭和十四年卒）

農学部で教授をされ、大学におられたので、先輩として、又サッカー部長として長くボールを蹴り続け、指導された数少ない先輩のお一人であります。

今後ますますお元気でご活躍なさるようお祈りします。

（三）東大入学以来の経過と思い出

①昭和二十三年夏全日本合宿参加

全日本代表として選抜されたOB、学生とはじめて合宿練習を共にする。

②昭和二十三年秋関東大学一部リーグで優勝

東西大学一位対抗 関学に敗退

③昭和二十四年春東西対抗にLIで出場するもOBの名手揃いのメンバーの中で、なすところなく惨めな試合振りで未熟さを痛感する。ご一緒に出場したCF二宮(慶應)さん、LW加納(早)さんのお二人が今年になってなくなられる。悲しみに堪えない。(ご冥福をお祈りします)

④昭和二十四年全日本選手権 全関大に勝ち優勝

たまたま一ヶ月程前に、しまい忘れていた横山監督を囲んだ優勝後の記

念写真をみつけ出しました。少し色あせておりますが、なくなられた方も多く思い出深い写真なのでのせました。(別掲)

⑤昭和二十六年春東西対抗 西宮

今迄学生は一人か二人位の出場だったが東軍は一挙に若返り全員OBの西軍が優勢との戦前予想でした。

私は翌四月二日に入社式を控えたホヤホヤのOBでした。西軍が一点先取、有利に試合が進んだが西軍FB加藤信幸さん(東大昭十九・九卒)が膝をいため一時退場、その間に東軍が一点を返し、後半負傷をおして出場したが積極的に動けず(当時は交代が出来なかった。)東軍は二点を加え三対一の逆転勝となった。祝杯をあげ酩酊して夜行列車に乗り、翌二日早朝東京に着き、着替えして入社式に出席するという思い出のある東西対抗でした。(なお、東軍CHは前述の有馬さんでした。)

⑥昭和二十六年十一月戦後はじめての外国チーム(スウェーデン)来日、

日本チームと対戦、ご承知の通り昭和十一年ベルリンオリンピックで日本はスウェーデンに逆転勝したが、スウェーデンは海外遠征の途中、思い出の日本チームの力如何と、来日したと言はれる。戦争中の空白により彼我の差大きく、二試合とも0-3、0-5で敗れる。私はFWで選抜されていたが不出場でした。なお、わら半紙四分の一の大きさですが蹴球の手引き等の解説入りのプログラムが出ましたが、中に両軍の体重身長比較があり、私は身長一六三センチ、体重五七キログラムとありスウェーデンチームはもとより日本チームでも一番背が低く軽いということでした。敢えて書きましたのは現役諸君の参考にと考えたので今は大きい方が多いが、比較的小さい部類の方も頑張ってもらいたいからです。

⑦昭和二十七年 日本代表合宿でFWからHBに転向を指示される。

中学、高校、大学を通しFWでしたがサイドハーフに移ることを指示された。強い外国チームに対抗するため五人のFWに両サイドハーフを加え七人で攻めるという構想によるものです。もちろん守備もおろそかに出来ないわけで、以降合宿の練習ではBKに入りタックルとかゴール前のクリアとかBKの練習にも専念することになりました

⑧昭和二十七年四月 東西対抗 東京

この試合ではじめて左のサイドハーフで出場しました。昭和二十四年全日本選手権で東大LBが優勝した時のCF、昭和二十六年東西対抗の西軍CFで活躍した大谷四郎さん(昭和十七年九月卒)がアサヒスポーツに書かれた戦評は私にとり過分のもので自慢めいて面映ゆいが一部をの

せます。「予想された西軍の攻撃を逆に奪った原動力は東軍サイドハーフの活躍でこの試合の白眉であった。ことに東軍レフトハーフ大埜の攻守にわたる活躍は両軍を通じてもっとも目立ったし従来FWばかりやって来た彼がHBでこれ程働けたのは今後に期待がもてる、云々」というもので身に余るものでした。

⑨以降来日した諸外国チームと対戦 何れもLHで出場しました。

昭和二十七年六月 対全香港

昭和二十八年六月 対西ドイツ

昭和二十八年十一月 対スウェーデン

⑩昭和二十九年三月 対韓国 W杯予選 一敗一引分でW杯本大会に出場できず。

⑪昭和二十九年五月 第二回アジア大会マニラ

インドネシア、インドに敗退

第二回アジア大会をもって日本の第一線から引退する。

以降メルボルンオリンピック、東京アジア大会の日本代表合宿練習にコーチとして参加する。

⑫昭和三十三年監督になる

(イ)五月祭 学生・OB戦でアキレス腱切断

東大病院に入院、手術、治療、リハビリのため、練習参加不能となり多大の迷惑をかけ忸怩たるものがあります。

(ロ)アジア大会東京開催

入院中に大会開催された日本チームのコーチだったが参加出来ず、部員諸君に助けられギブスの身で車椅子により神宮競技場に日本チームの応援に出かける。

(ハ)全日本選手権出場 三位決定戦に勝つ

OB学生が共に活躍した詳細は前述した通りであるが藤枝合宿には岩動洋二さん（昭和十五年卒千葉医大再入学）がチームドクターとして参加、炎天下の試合で疲労の激しい選手達の健康管理に大変お世話になりました。朝日の記者大谷四郎さん（前述）も取材のため藤枝にこられており、宿舎にもおいでになり激励をうけた。残念だったのは野澤量一郎（昭和三十六年卒）で関東予選の試合中受傷骨折で大会に出場出来なかった。前に述べている学生選手のうちの一人服部一郎が現在の監督です。岩動さん、大谷さん、海老原朗、原両君も既になくなっており悲しみに堪えません。

(二)秋の大学リーグ あと一步で優勝できず

残念ながら一部復帰ならず。受傷のため万全の備えが出来ず不本意の結果となり恥しい限りです。

(ホ)昭和三十七年以降 新潟六年半、北海道十年半と地方勤務で、長く東京を離れておりました。アキレス腱切断は上下に大きく離れ、東大病院で手術を受けました。試合が終ってから、五月祭で病院が休みだったので宿直の先生にみてもらい、まさに切れており、これで運動は終りですよと宣告されました。即入院だったのですが、一旦家にもどり翌朝入院しましたが、飲んでもいいかときいたところ先生から転んでいためなければかまわないとの許しを得たのですが、飲んだお酒のにかかったことは未だに忘れません。翌朝会社によりあいさつして入院しました。大きく切れていて十八針縫はれたようです。運動禁止の託宣でしたが新潟の長岡にいる間に、同好会で少しづつ蹴り始め、北海道では名門函館四十雀クラブに属し、北海道内四十雀大会では優勝を続け、一方少年サッカースクールの子供さん達と雪のない季節には一緒に ボールを蹴るようになって来ました。

長くなりました。本年三月七十七歳になりました。最後は年よりの勝手な思いを書いて終りにいたします。

四、年よりのたわ言

(一)憎まれっ子世にはばかる

良い男が若くして多くなり悲しい限りです。もともとうるさい、こわい男で通って来ているわけで、こうなれば憎らしい、わるい方が生きながらえるように思はれるので、前々から前記みだしを通そうと思っております。

あしからずご承知ください。

(二)一部にあがるまでは死なねえ

二部に落ちてから四十余年たっていますが、毎年今年こそはと努力しているが残念ながら実を結ばない。死ぬまでには一部にあがってくれとひたすら願っているが空しい。そこで数年前に、「一部にあがるまでは死なねえ」というたんかにきりかえました。長生きして待っております。

(三)早慶東三大学対抗

今年五月のOBの三大学対抗は見応えがありました。前々から折原一雄さんが超OB戦実現のために辛抱強く声をかけ続けているのが実りつ

つあるものと思います。東大は集りも多く試合も対等以上の出来栄でした。

LB復活を心強く感じました。現役強化のためには若いOBを含めLBが強くなる必要があります。いつでも試合相手になり現役を鍛えるために強いLBチームをつくってもらいたいものです。今年五月の勢からすればやれるものと思います。

(三)練習方法について

北海道からもどって来た頃ですから、もう十年程前になるかも知れません。

入部者に経験者が少ないということを知りました。山上会議所の集りの時、岡野とか浅見とか経験の深い者がいるのだから練習方法を考えてもらい素人から始める場合東大に入ってから独特の練習方法即ち東大マニュアルをつくって先ず二年間若いOBなり高学年の学生が七、八人を受け持ちこのマニュアルを徹底的にやり二年終ればいよいよ一軍として登場すればよいのではないかと申したことがありました。一笑に付されましたが、今別にどうこう思っているわけではありません。服部監督やコーチの組む練習を本人が徹底的に身につけ一人前になることが大事です。あとになってもっとやればよかったと思うことがないよう徹底してやって下さい。

(四)頑張ろう 東大蹴球部

試合をみながらよく頑張れとどなってしまいましたが、「頑張る」ということばは本来自分がつとめることばで人を励ますものではないようです。そこで「頑張ろう 東大蹴球部」とみだしをつけましたのは、学生諸君のひとりひとりがOB諸兄のひとりひとりが自分が頑張って東大蹴球部をよくしようと、「頑張ろう」と思ってもらいたくてつけた次第です。

私も頑張ります。中学、高校、大学、代表チームを通し 試合中 私は「〇〇 頑張ろう」とよく声をかけました。チームに、私自身に気合を入れるためのものだったと思います。黙々とやるのも勿論大切なことですが、チームにも、自分自身にも気合いを入れ引き締める絶叫を時には期待しております。

(五)終りに

創部八十年、栄光ある東大蹴球部の歴史を築かれた先輩後輩諸兄、現在頑張っている学生諸君のご健勝とご活躍を祈って筆をおきます。